

タービン建屋東側における 地下水及び海水中の放射性物質濃度の状況について

2019/10/29

TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社

モニタリング計画（観測点の配置）

● 港湾口北東側

● 港湾口東側

● 港湾口南東側

● 北防波堤北側

● 南防波堤南側

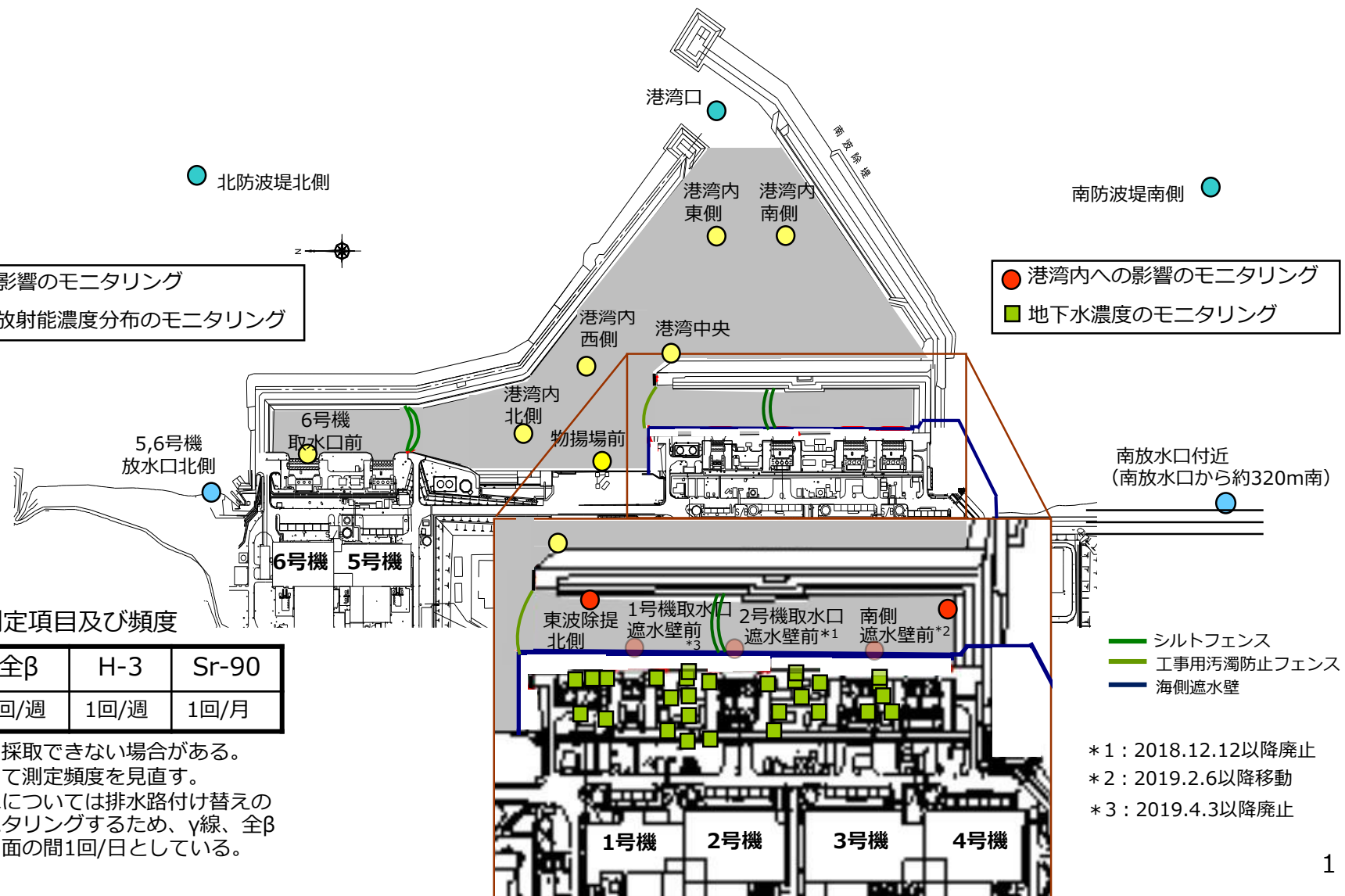
● 海洋への影響のモニタリング
● 港湾内の放射能濃度分布のモニタリング

● 港湾内への影響のモニタリング
■ 地下水濃度のモニタリング

基本的な測定項目及び頻度

γ線	全β	H-3	Sr-90
1回/週	1回/週	1回/週	1回/月

- ・天候により採取できない場合がある。
- ・必要に応じて測定頻度を見直す。
- ・港湾内海水については排水路付け替えの影響をモニタリングするため、γ線、全βについて当面の間1回/日としている。



- シルトフェンス
- 工事用汚濁防止フェンス
- 海側遮水壁
- *1 : 2018.12.12以降廃止
- *2 : 2019.2.6以降移動
- *3 : 2019.4.3以降廃止

<タービン建屋東側の地下水濃度>

- 観測点によっては大雨時に一時的な変動が見られるが、全体的に低下もしくは横ばい傾向にあり、大きな変化は見られていない。

<排水路の排水濃度>

- 降雨時に濃度が上昇する傾向にあるが、全体的に横ばい傾向にある。
 - ・ 道路及び排水路の清掃を実施中、排水路及び枝管に浄化材を設置中

<港湾内外の海水濃度>

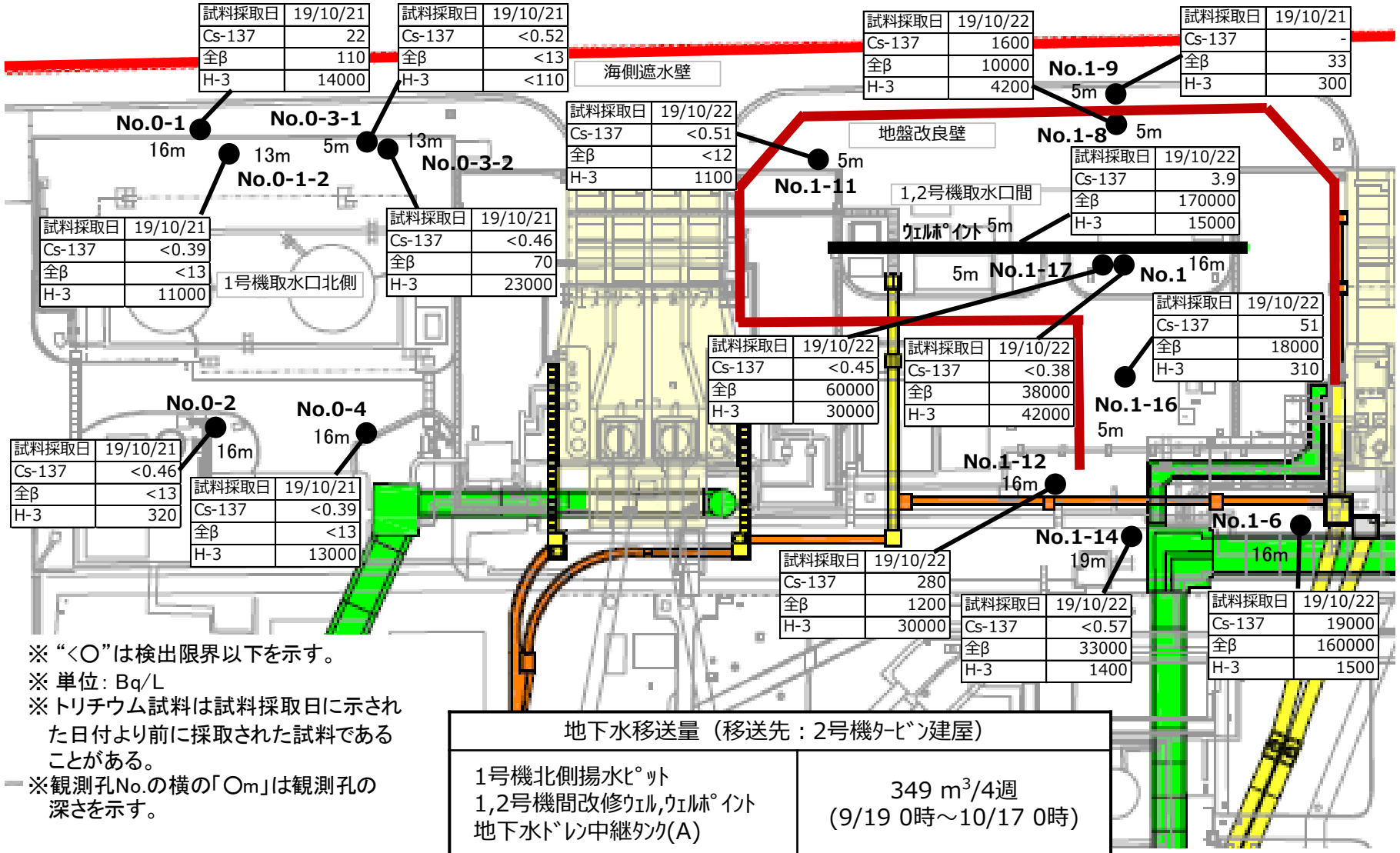
- 港湾内では降雨時に上昇が見られるが、港湾外では変化は見られず低い濃度で推移している。^{※1}
 - ・ 港湾内（取水路開渠内含む）の濃度について、上昇時においても告示濃度を十分に下回っている。^{※2}
 - ・ 道路・排水路の清掃、フェーシング、海側遮水壁閉合、取水路開渠出口へのシルトフェンス設置等の対策の効果によるものと考えられる。

「東京電力ホールディングス（株）福島第一原子力発電所の廃止措置等に向けた中長期ロードマップ」の記載

※1：P.4 3-1. オ「周辺海域の海水の放射性物質濃度については、告示で定める濃度限度や世界保健機関の飲料水水質ガイドラインの水準を下回っており、低い水準を維持している。」

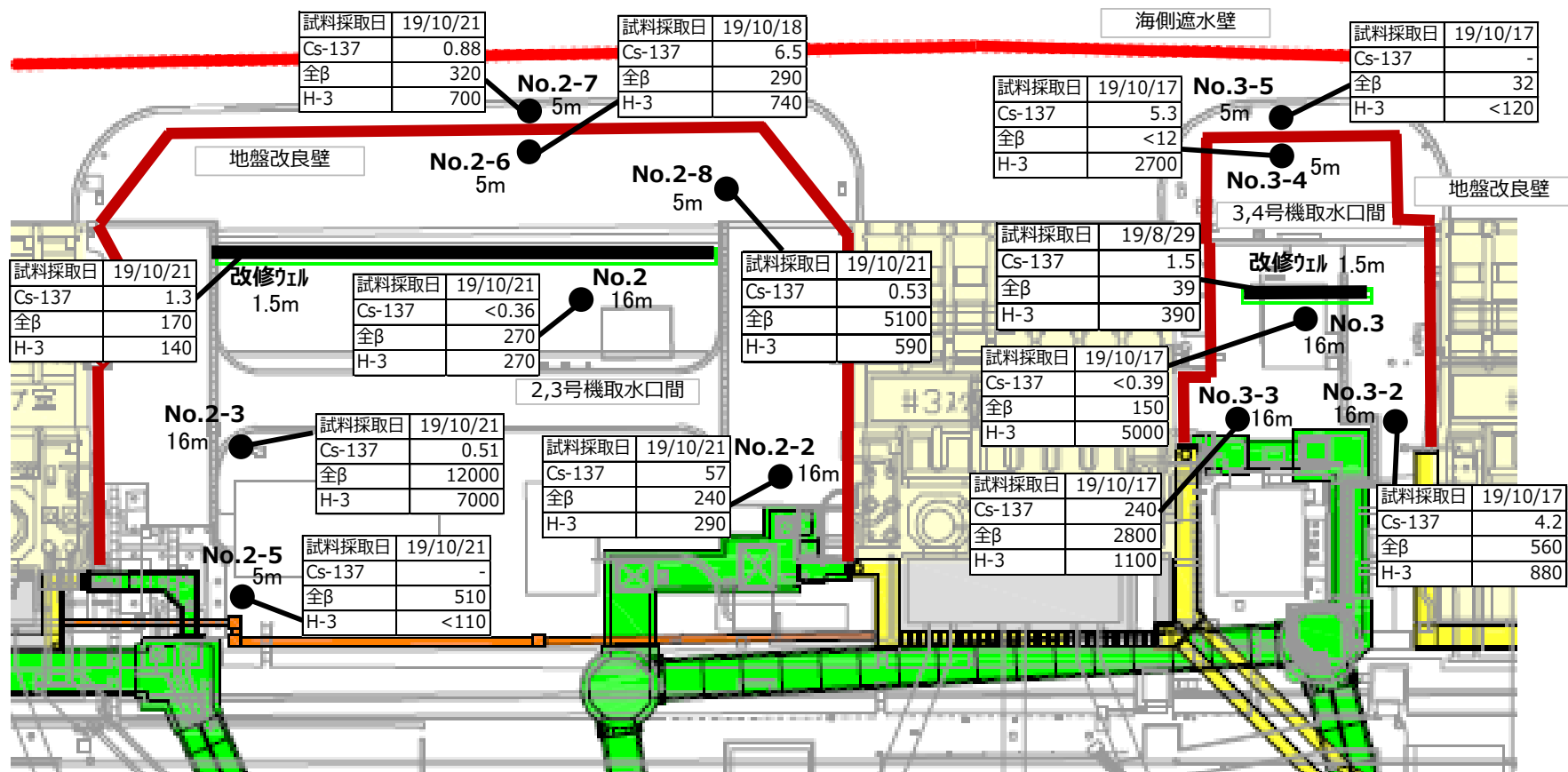
※2：P.22 4-6. (2) ①「港湾内の放射性物質濃度が告示に定める濃度限度を安定して下回るよう、港湾内へ流出する放射性物質の濃度をできるだけ低減させる。」

<1号機取水口北側、1,2号機取水口間>



- ※ “<〇”は検出限界以下を示す。
- ※ 単位: Bq/L
- ※ トリチウム試料は試料採取日に示された日付より前に採取された試料であることがある。
- ※ 観測孔No.の横の「Om」は観測孔の深さを示す。

<2,3号機取水口間、3,4号機取水口間>



※ “<〇”は検出限界以下を示す。

※ 単位: Bq/L

※ トリチウム試料は試料採取日に示された日付より前に採取された試料であることがある。

※ 観測孔No.の横の「Om」は観測孔の深さを示す。

地下水移送量 (移送先: 2号機タービン建屋)	
2,3号機間改修ウエル 地下水ドリ中継タウ(B)	89 m ³ /4週 (9/19 0時~10/17 0時)
3,4号機間改修ウエル	15 m ³ /4週 (9/19 0時~10/17 0時)

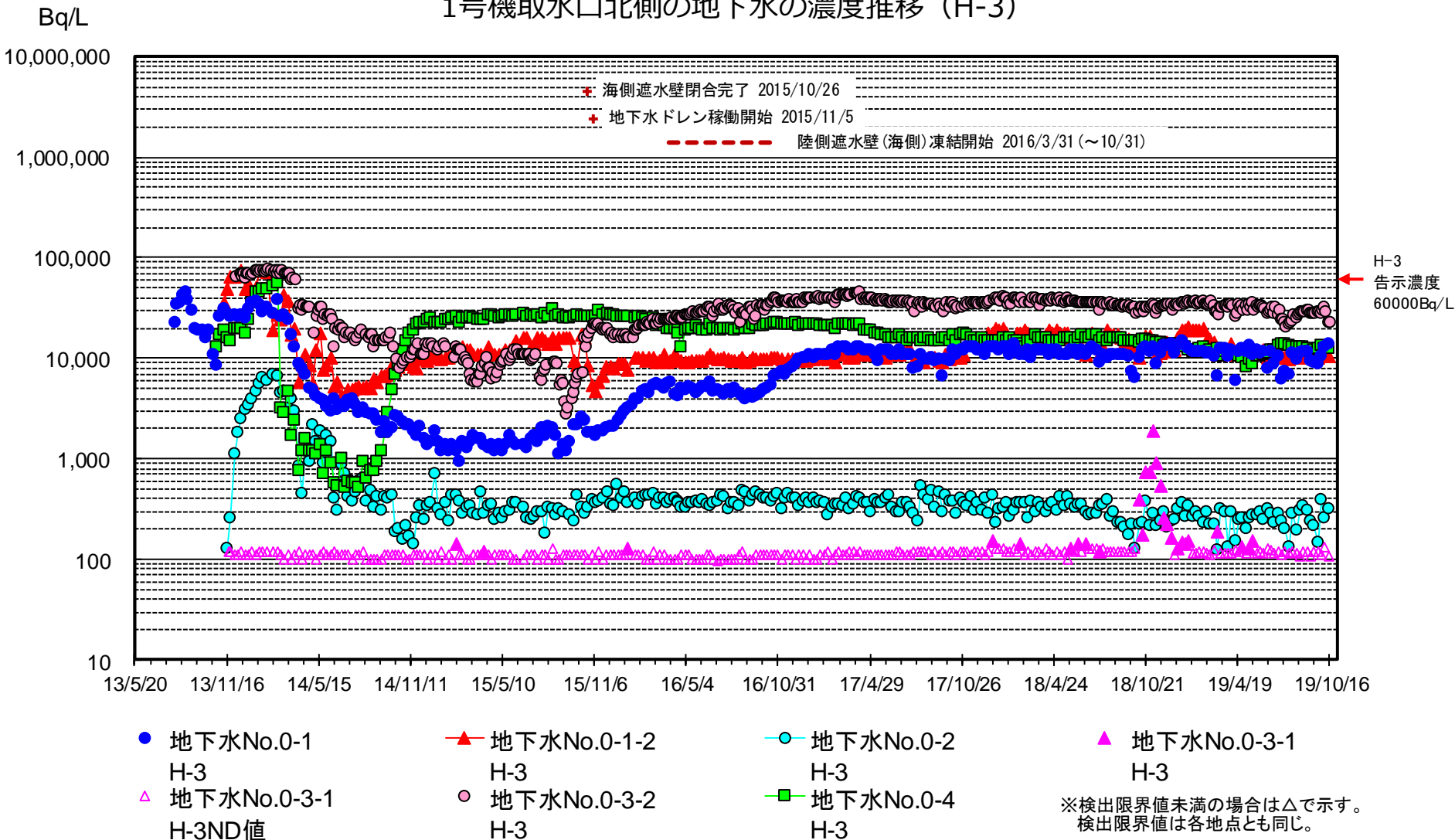
<1,2号機取水口間エリア>

- No.1-6でH-3濃度は2019.8より1,000Bq/l程度から6,000Bq/l程度まで上昇後低下し、現在1,500Bq/l程度となっている。
- No.1-9で全β濃度は20Bq/l程度から2019.4以降上昇低下を繰り返し、現在40Bq/l程度となっている。
- No.1-14でH-3濃度は2019.7より1,300Bq/l程度から上昇低下を繰り返し、現在1,400Bq/l程度となっている。

<2,3号機取水口間エリア>

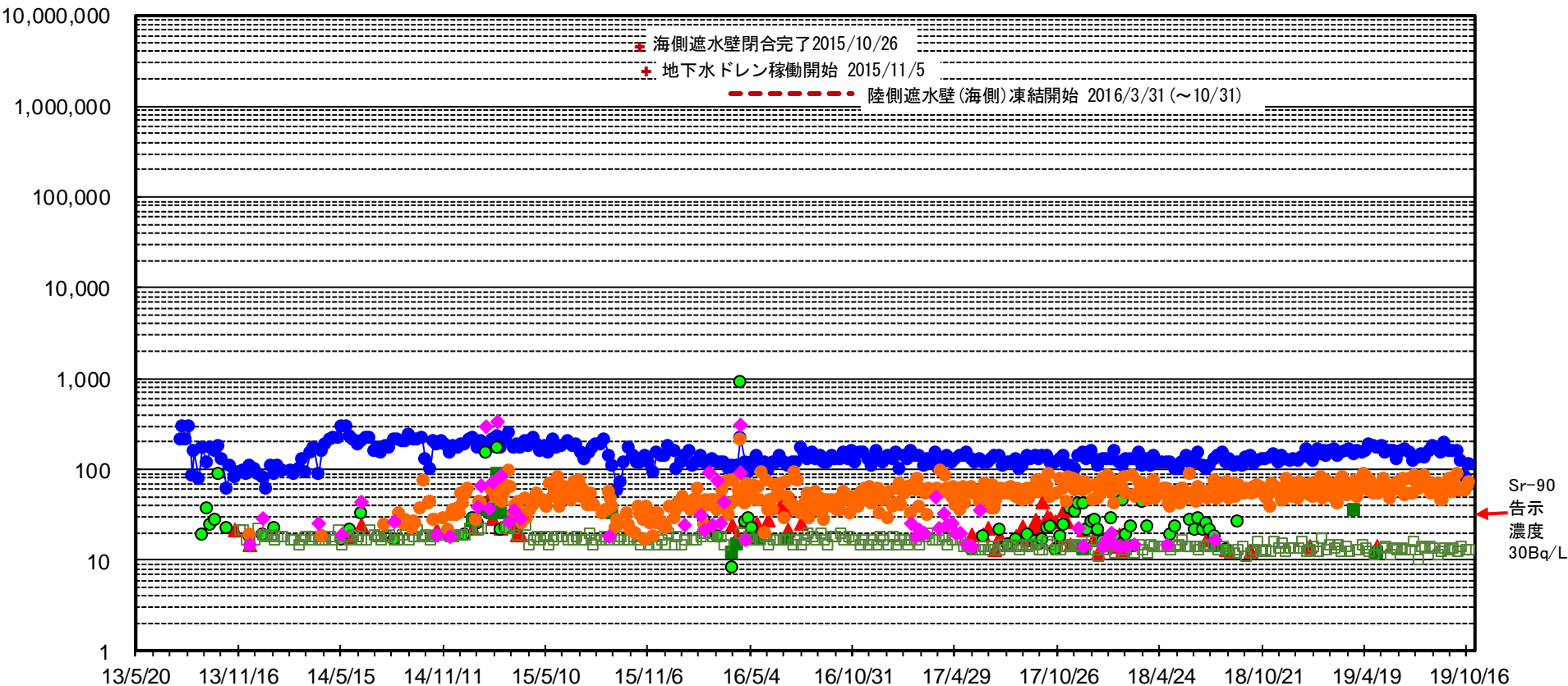
- No.2-3でH-3濃度は2019.3より4,000Bq/l程度から上昇傾向にあり、現在7,000Bq/l程度となっている。全β濃度は2019.4より8,000Bq/l程度から上昇傾向にあり、現在12,000Bq/l程度となっている。
- No.2-5でH-3濃度は2019.6より2,300Bq/l程度から120Bq/l未満まで低下後上昇低下を繰り返し、現在110Bq/l未満となっている。全β濃度は2019.6より80,000Bq/l程度から1,800Bq/l程度まで低下後64,000Bq/l程度まで上昇したが低下し、現在500Bq/l程度となっている。
- No.2-6で全β濃度は2019.5より100Bq/l程度から上昇傾向にあり、現在290Bq/l程度となっている。

1号機取水口北側の地下水の濃度推移 (H-3)



1号機取水口北側の地下水の濃度推移 (全β)

Bq/L



Sr-90
告示
濃度
30Bq/L

● 地下水No.0-1
全β

▲ 地下水No.0-1-2
全β

● 地下水No.0-2
全β

■ 地下水No.0-3-1
全β

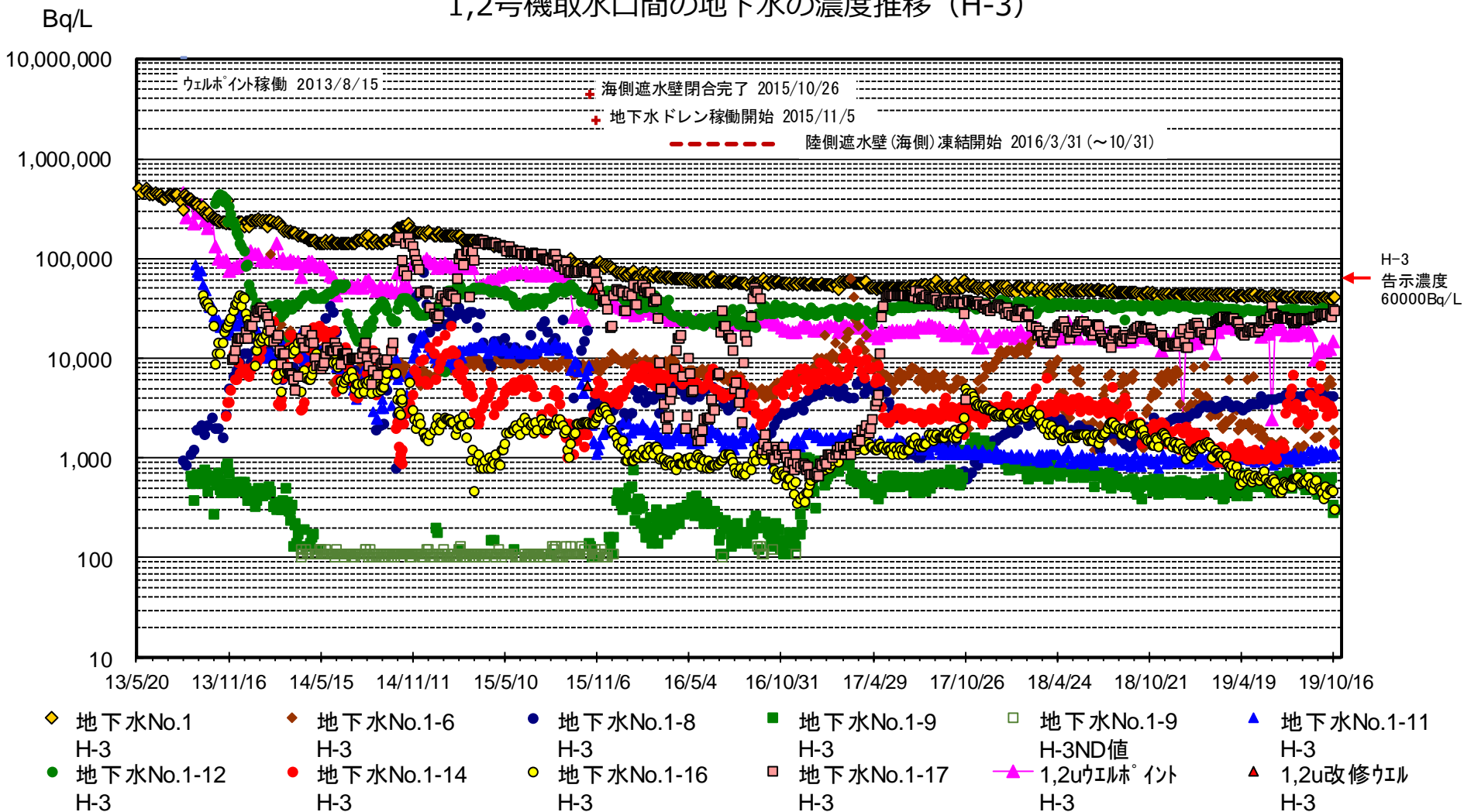
□ 地下水No.0-3-1
全βNND値

● 地下水No.0-3-2
全β

◆ 地下水No.0-4
全β

※検出限界値未満の場合は□で示す。
検出限界値は各地点とも同じ。

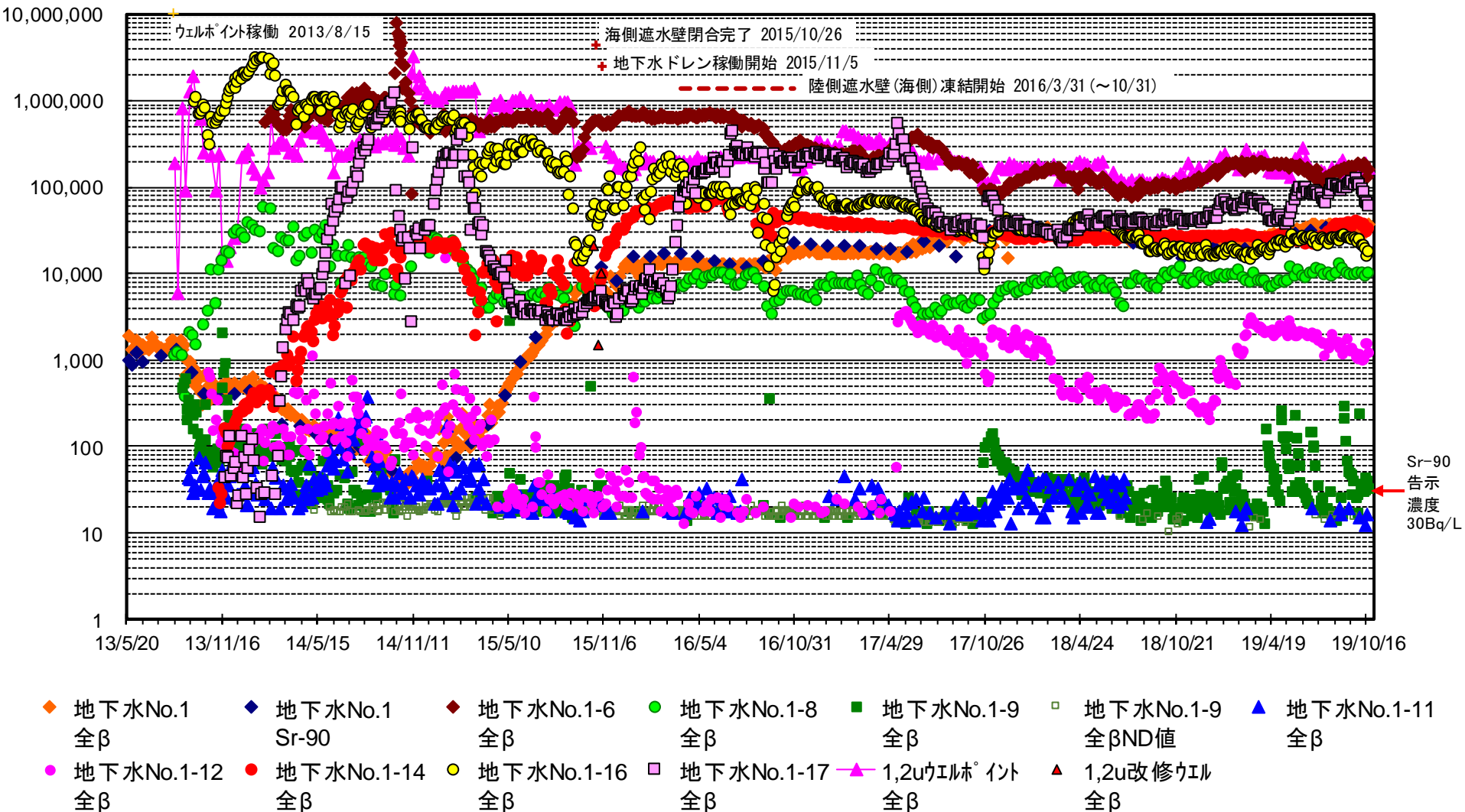
1,2号機取水口間の地下水の濃度推移 (H-3)



※検出限界値未満の場合は口で示す。検出限界値は各地点とも同じ。

1,2号機取水口間の地下水の濃度推移 (全β、Sr-90)

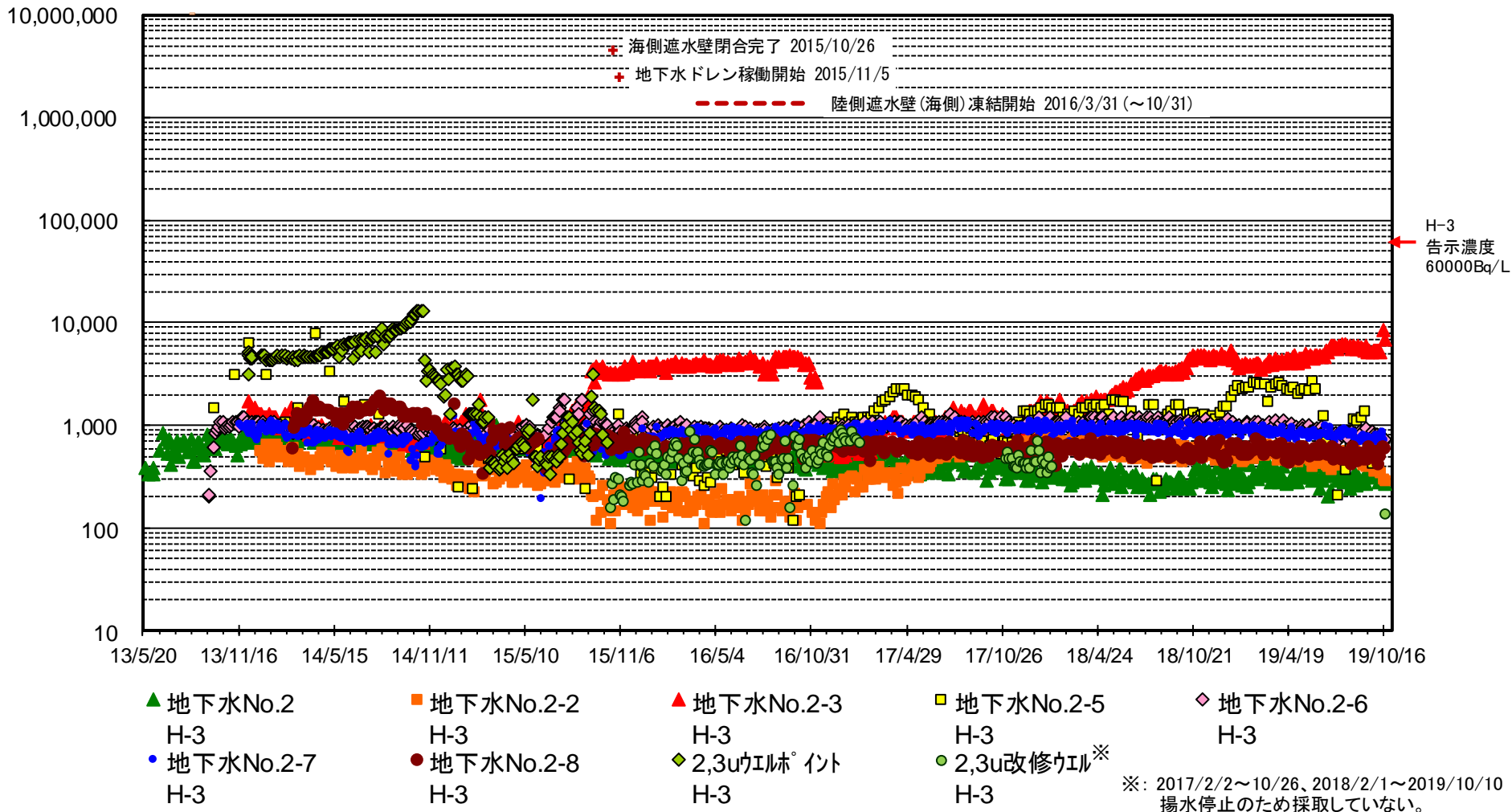
Bq/L



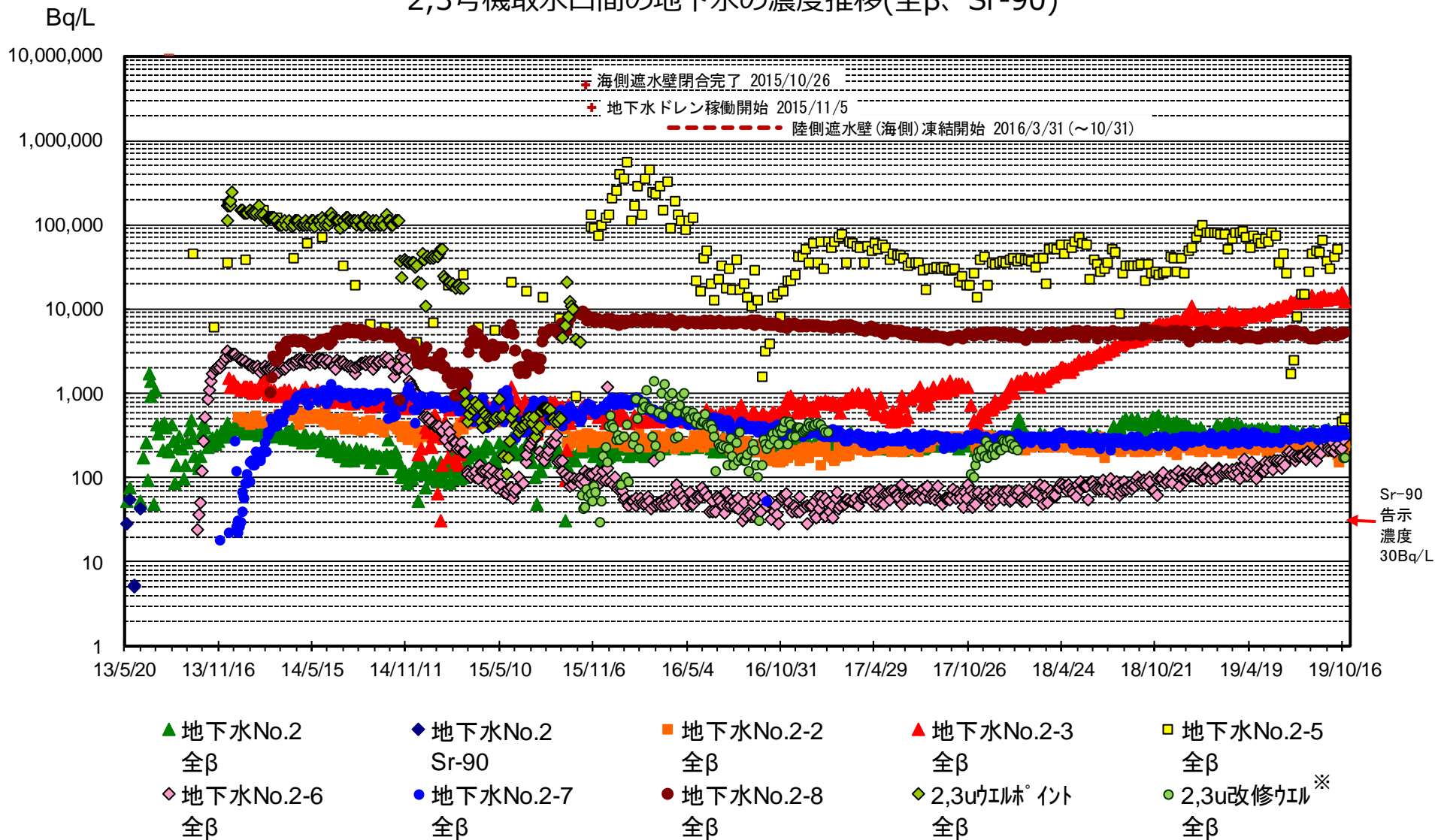
※検出限界値未満の場合は口で示す。検出限界値は各地点とも同じ。

2,3号機取水口間の地下水の濃度推移(H-3)

Bq/L

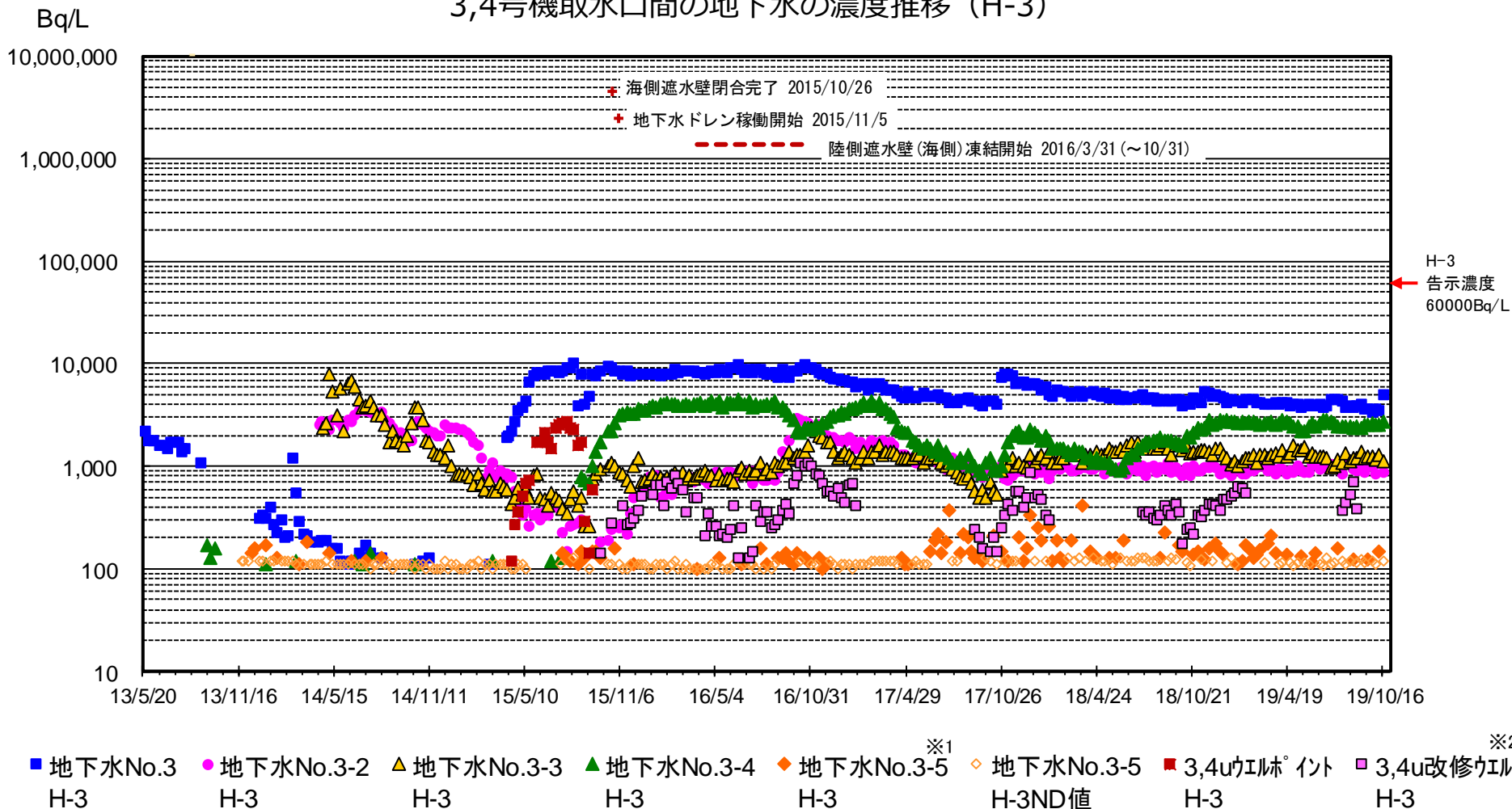


2,3号機取水口間の地下水の濃度推移(全β、Sr-90)



※: 2017/2/2~10/26、2018/2/1~2019/10/10揚水停止のため採取していない。

3,4号機取水口間の地下水の濃度推移 (H-3)



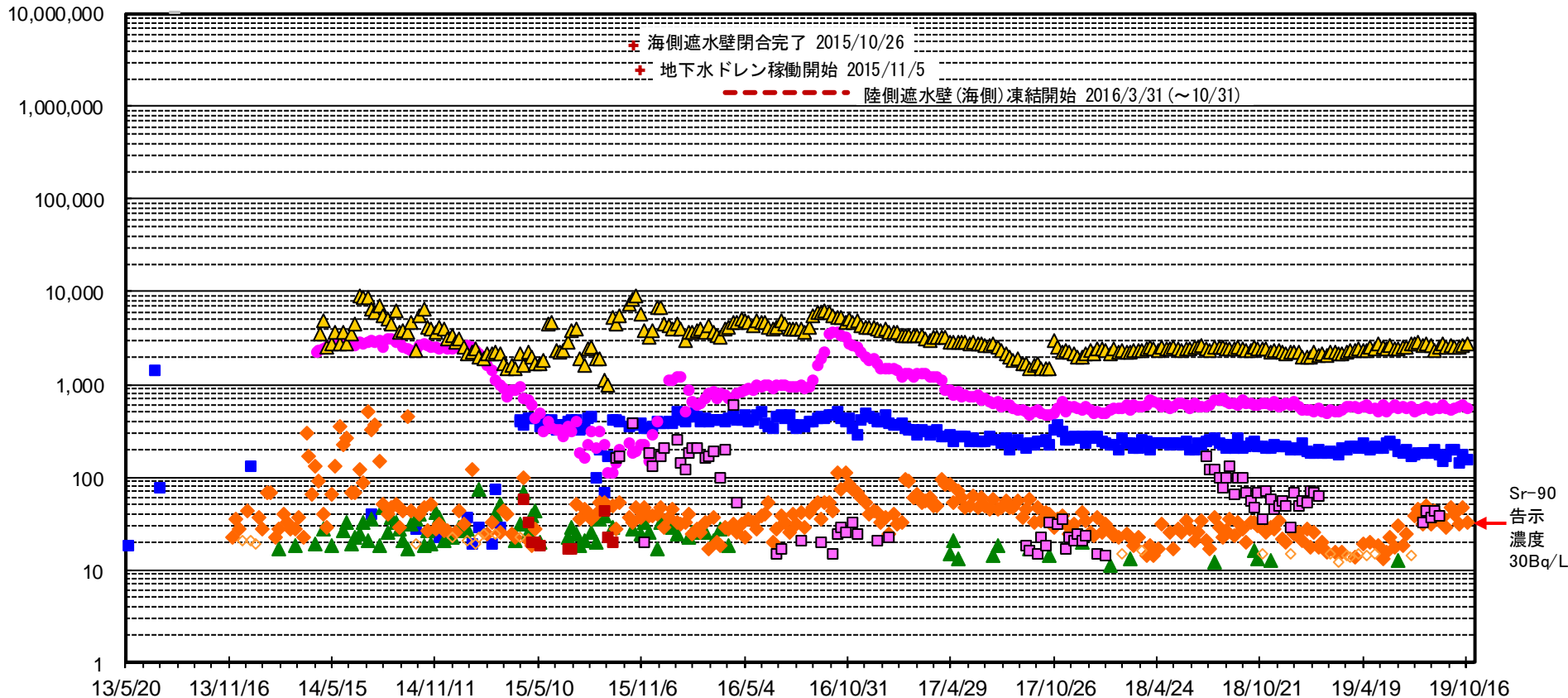
※検出限界値未満の場合は◇で示す。検出限界値は各地点とも同じ。

※1: 2015/5/20~7/8 水位低下のため採取できず。

※2: 2015/10/15,29,11/5 水位低下のため採取できず。2017/2/2~2017/8/31, 2018/2/1~2018/7/12, 2019/2/7~2019/7/25, 2019/9/5~揚水停止のため採取していない。

3,4号機取水口間の地下水の濃度推移 (全β)

Bq/L



■ 地下水No.3 全β
 ● 地下水No.3-2 全β
 ▲ 地下水No.3-3 全β
 ▲ 地下水No.3-4 全β
 ◆ 地下水No.3-5 全β
 ◇ 地下水No.3-5 全βND値
 ■ 3,4uウエル° イント 全β
 ■ 3,4u改修ウエル 全β

※検出限界値未満の場合は◇で示す。検出限界値は各地点とも同じ。
 ※1: 2015/5/20～7/8 水位低下のため採取できず。
 ※2: 2015/10/15,29,11/5 水位低下のため採取できず。2017/2/2～2017/8/31, 2018/2/1～2018/7/12, 2019/2/7～2019/7/25, 2019/9/5～揚水停止のため採取していない。

<A排水路>

- 道路・排水路の清掃を実施中
- Cs-137濃度、H-3濃度、全β濃度とも横ばい傾向となっている。

<物揚場排水路>

- 道路・排水路の清掃を実施中
- Cs-137濃度、H-3濃度、全β濃度とも横ばい傾向となっている。

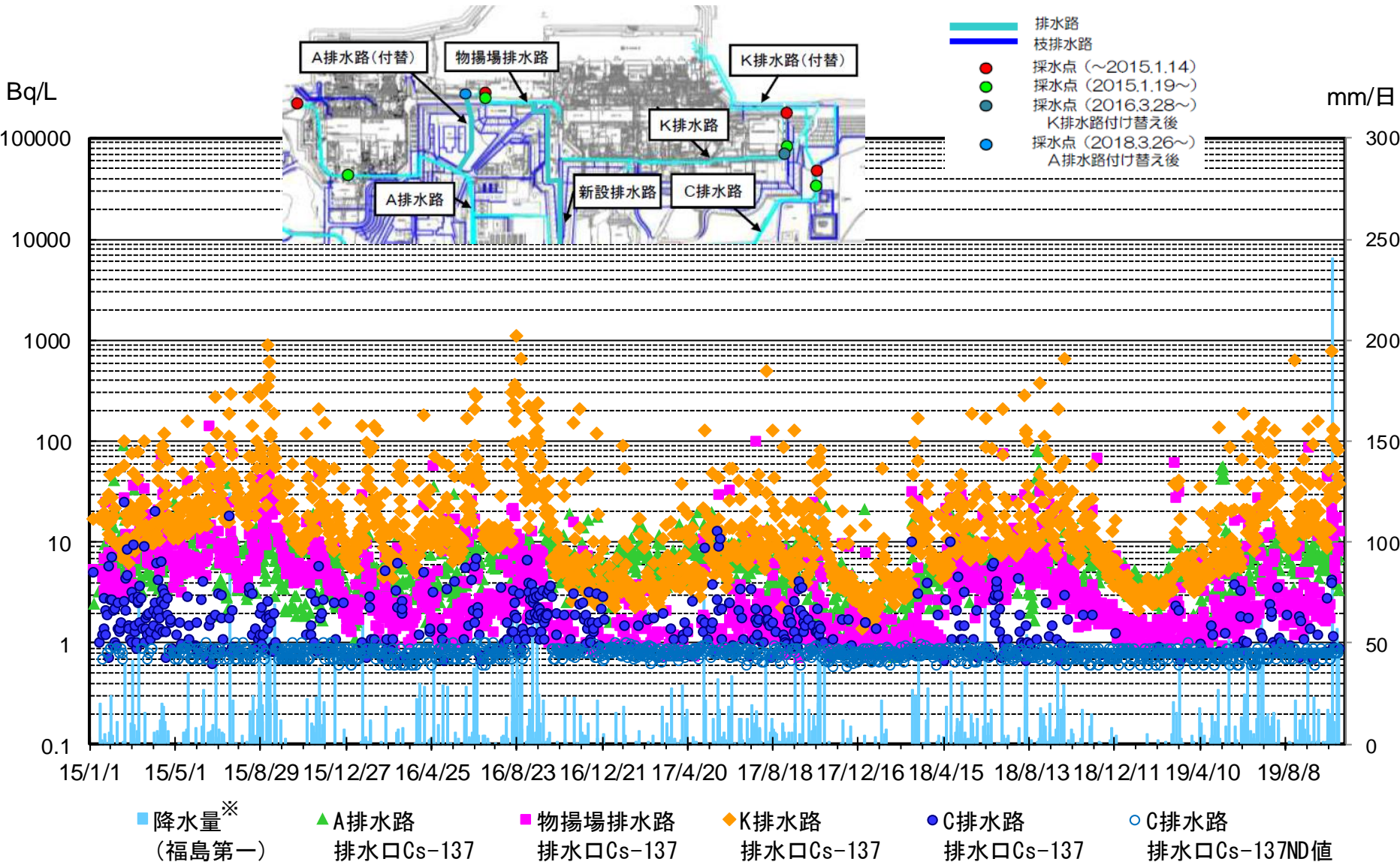
<K排水路>

- 道路・排水路の清掃を実施中、排水路及び枝管に浄化材を設置中
- Cs-137濃度、H-3濃度、全β濃度とも横ばい傾向となっている。

<C排水路>

- 道路・排水路の清掃を実施中
- Cs-137濃度、H-3濃度、全β濃度とも横ばい傾向となっている。

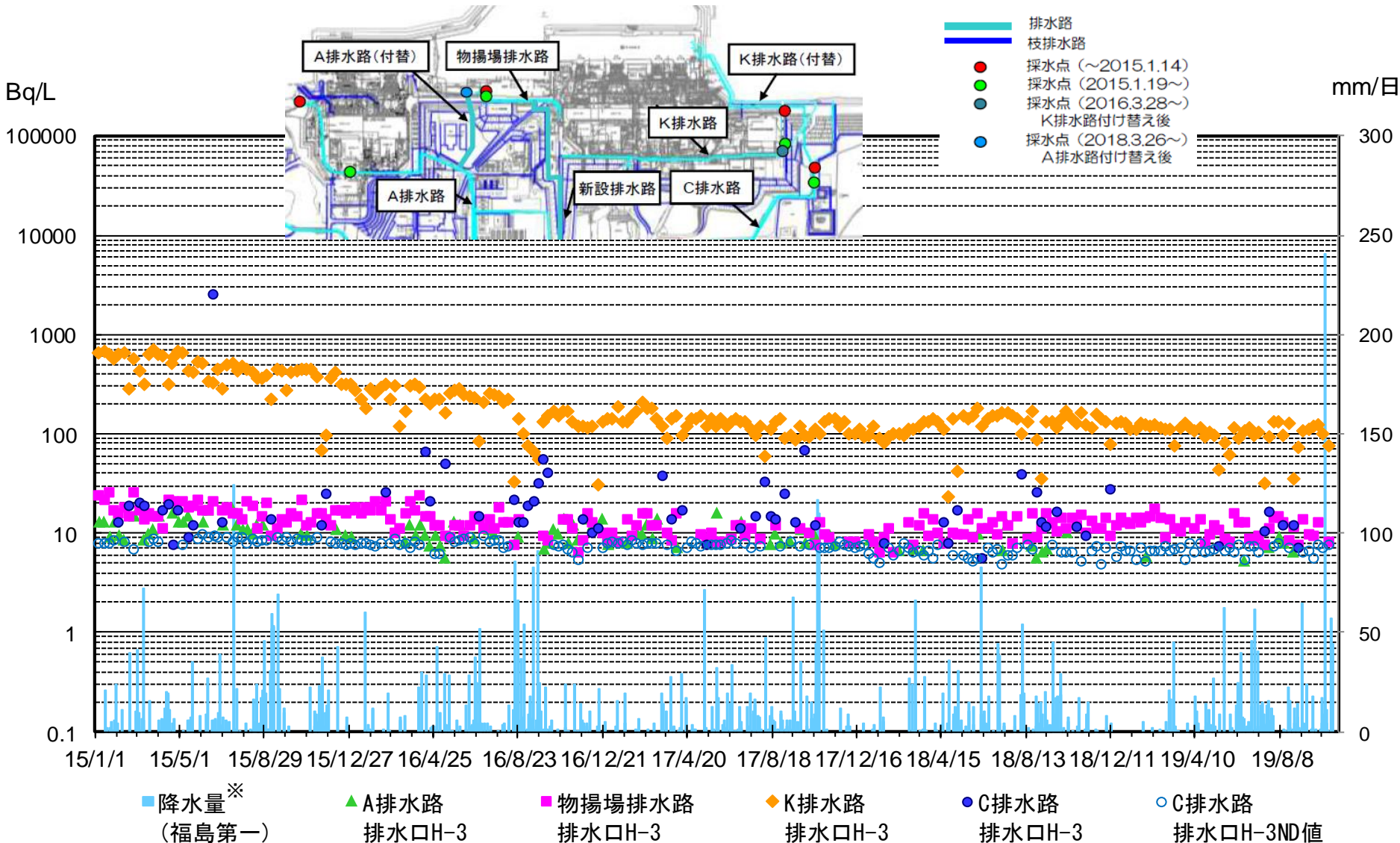
排水路の排水の濃度推移 (Cs-137)



※:2017/5/13～5/15 欠測につき浪江アタスのデータを使用

注:検出限界値未満の場合は○で示す。検出限界値は各地点とも同等

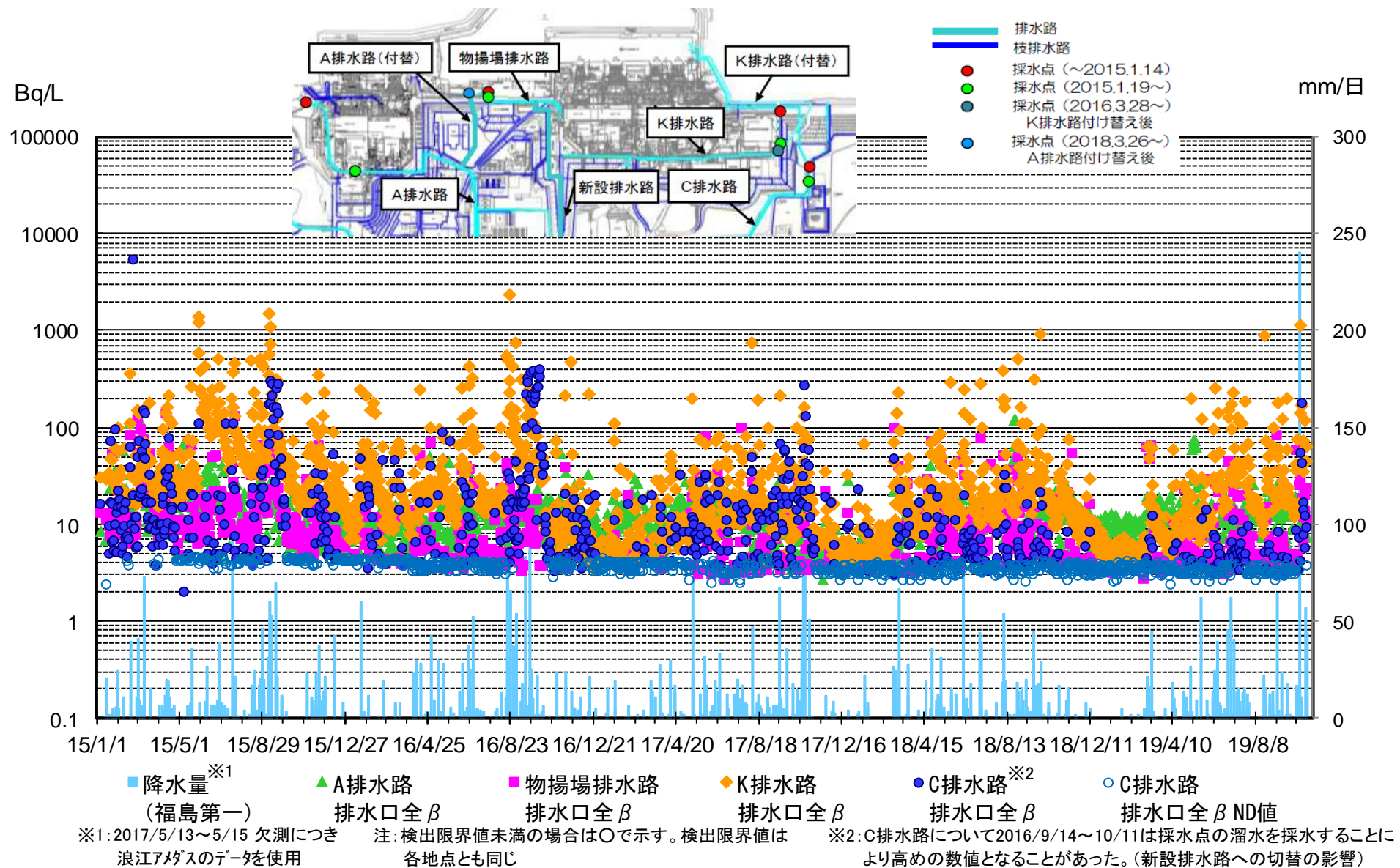
排水路の排水の濃度推移 (H-3)

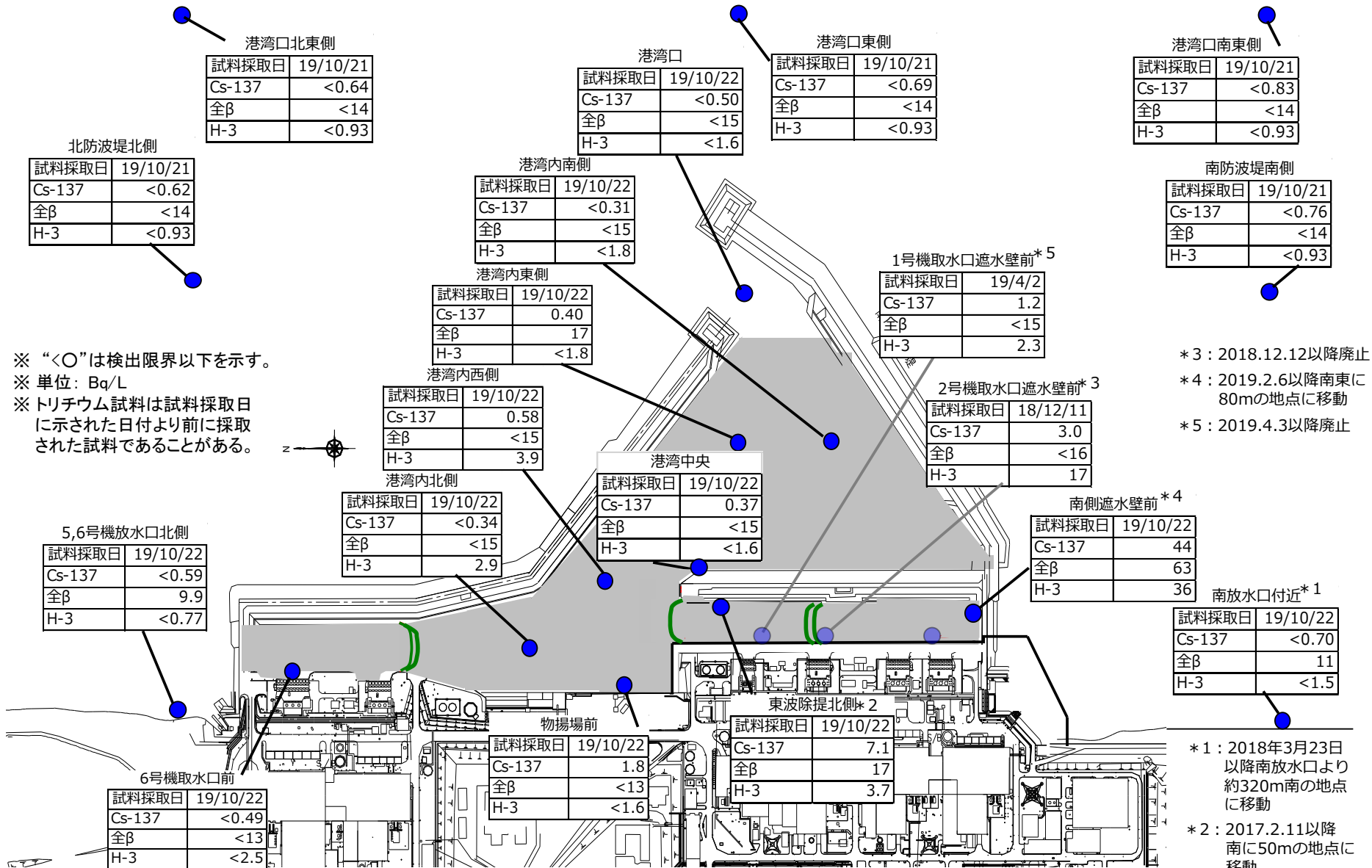


※: 2017/5/13～5/15 欠測につき浪江アダスのデータを使用

注: 検出限界値未満の場合は○で示す。検出限界値は各地点とも同じ

排水路の排水の濃度推移 (全β)





<1～4号機取水路開渠内エリア>

- 告示濃度未満で推移しているが、降雨時にCs-137濃度、Sr-90濃度の上昇が見られる。
- 海側遮水壁鋼管矢板打設・継手処理の完了後、濃度の低下が見られる。
- メガフロート関連工事によりシルトフェンスを開渠中央へ移設した2019.3.20以降、Cs-137濃度の変動が見られる。

<港湾内エリア>

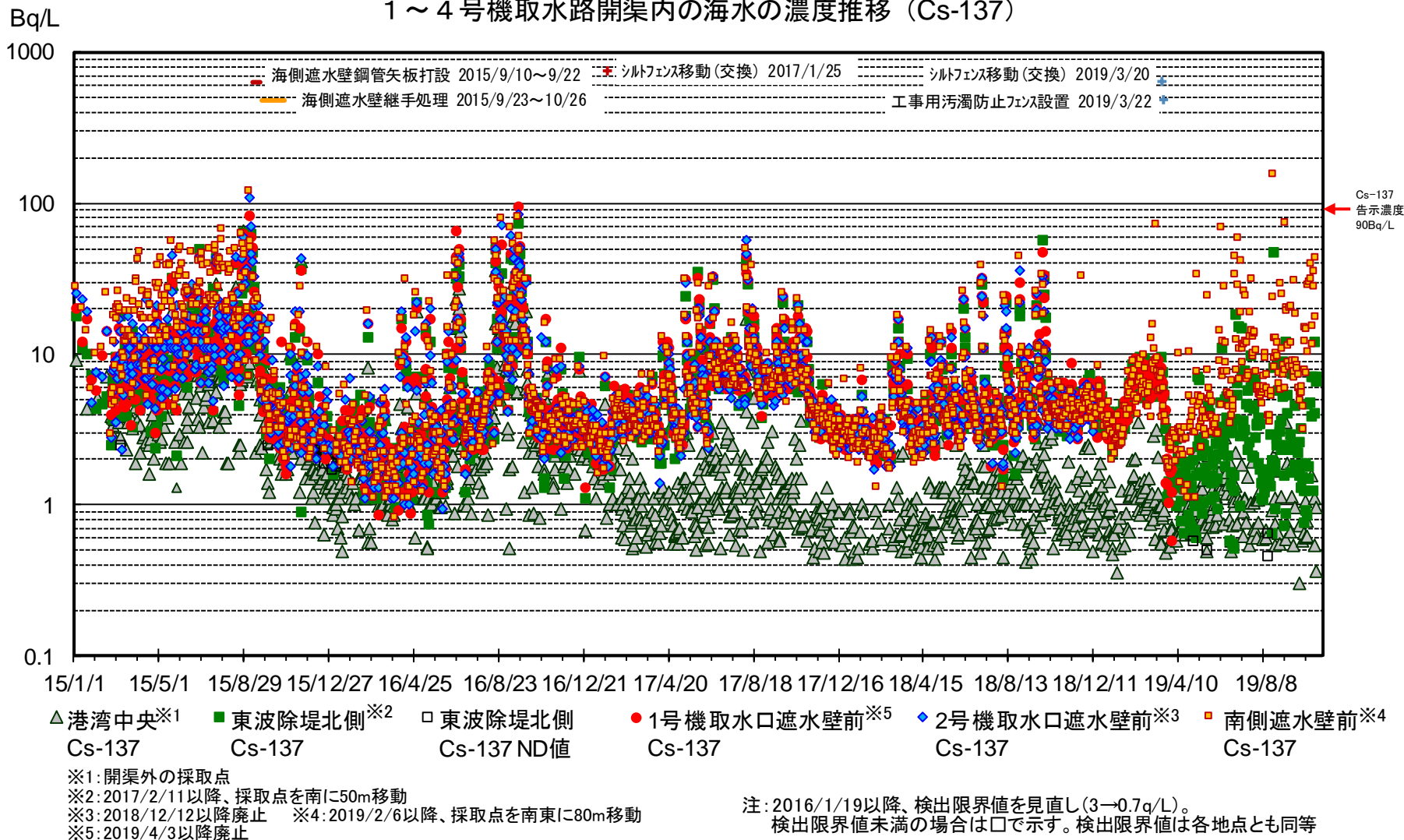
- 告示濃度未満で推移しているが、降雨時にCs-137濃度、Sr-90濃度の上昇が見られる。
- 1～4号機取水路開渠内エリアより低いレベルとなっている。
- 海側遮水壁鋼管矢板打設・継手処理の完了後、濃度の低下が見られる。

<港湾外エリア>

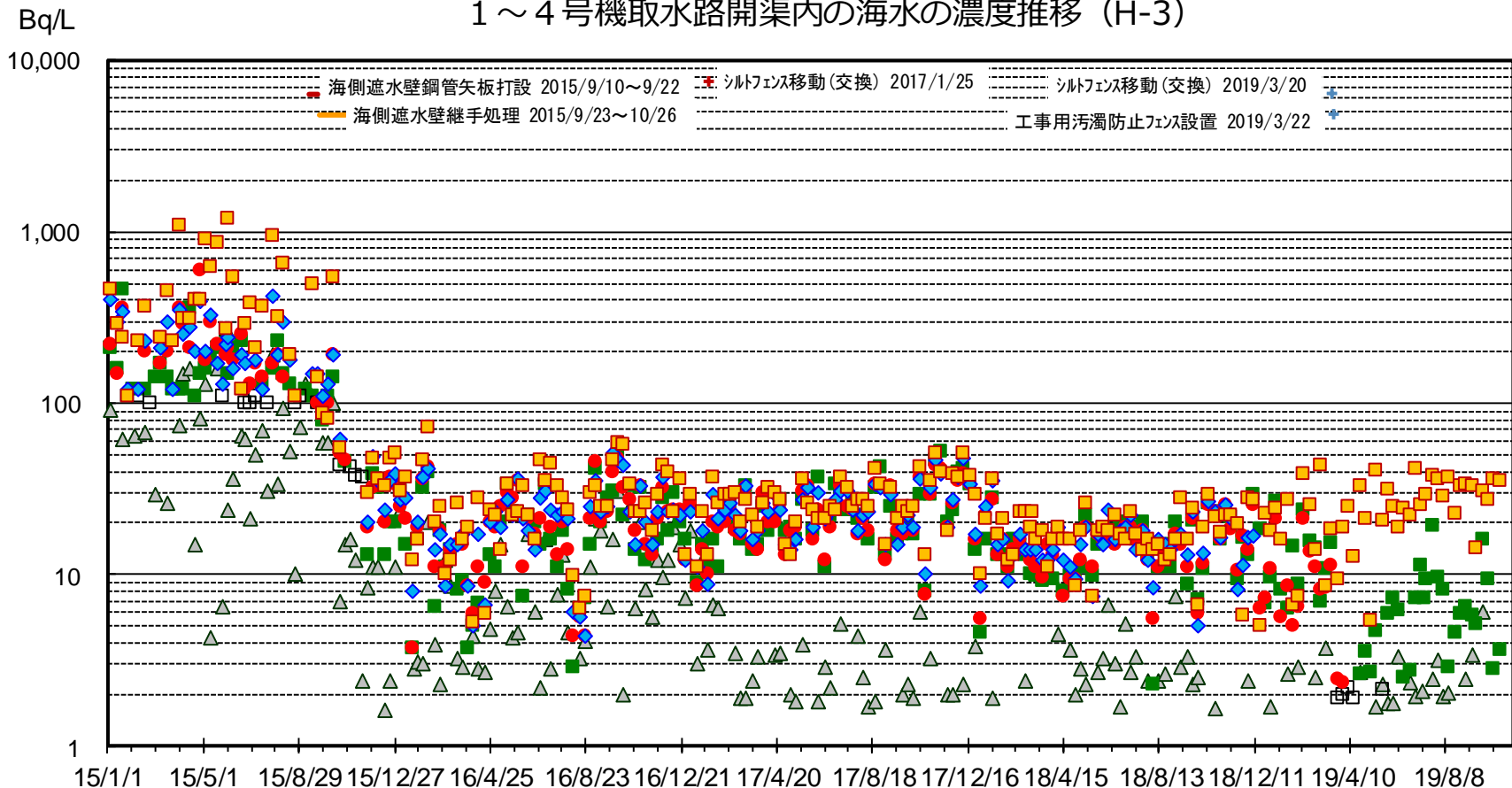
- 海側遮水壁鋼管矢板打設・継手処理の完了後、Cs-137濃度、Sr-90濃度の低下が見られ、低い濃度で推移していて変化は見られていない。

1～4号機取水路開渠内の海水の濃度推移 (1/3)

1～4号機取水路開渠内の海水の濃度推移 (Cs-137)



1～4号機取水路開渠内の海水の濃度推移 (H-3)



H-3
告示濃度
6000Bq/L

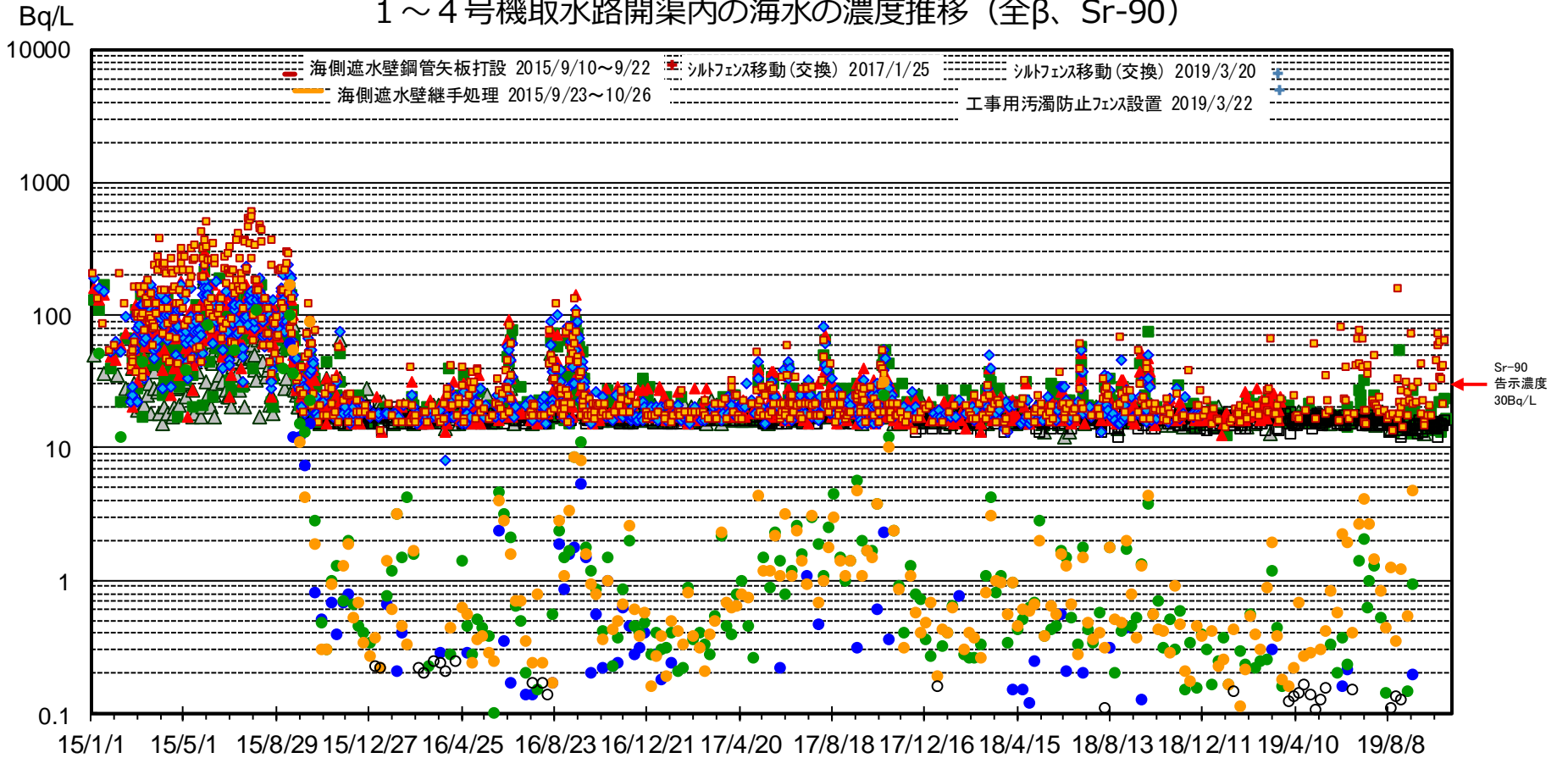
△ 港湾中央 ※1 H-3 ■ 東波除堤北側 ※2 H-3 □ 東波除堤北側 H-3 ND値 ● 1号機取水口遮水壁前 ※5 H-3 ◆ 2号機取水口遮水壁前 ※3 H-3 ■ 南側遮水壁前 ※4 H-3

※1: 開渠外の採取点
 ※2: 2017/2/11以降、採取点を南に50m移動
 ※3: 2018/12/12以降廃止 ※4: 2019/2/6以降、採取点を南東に80m移動
 ※5: 2019/4/3以降廃止

注: 2015/11/23以降、検出限界値を見直し(50→3Bq/L)。
 検出限界値未満の場合は□で示す。検出限界値は各地点とも同じ。(但し、港湾中央は2Bq/L)

1～4号機取水路開渠内の海水の濃度推移 (3/3)

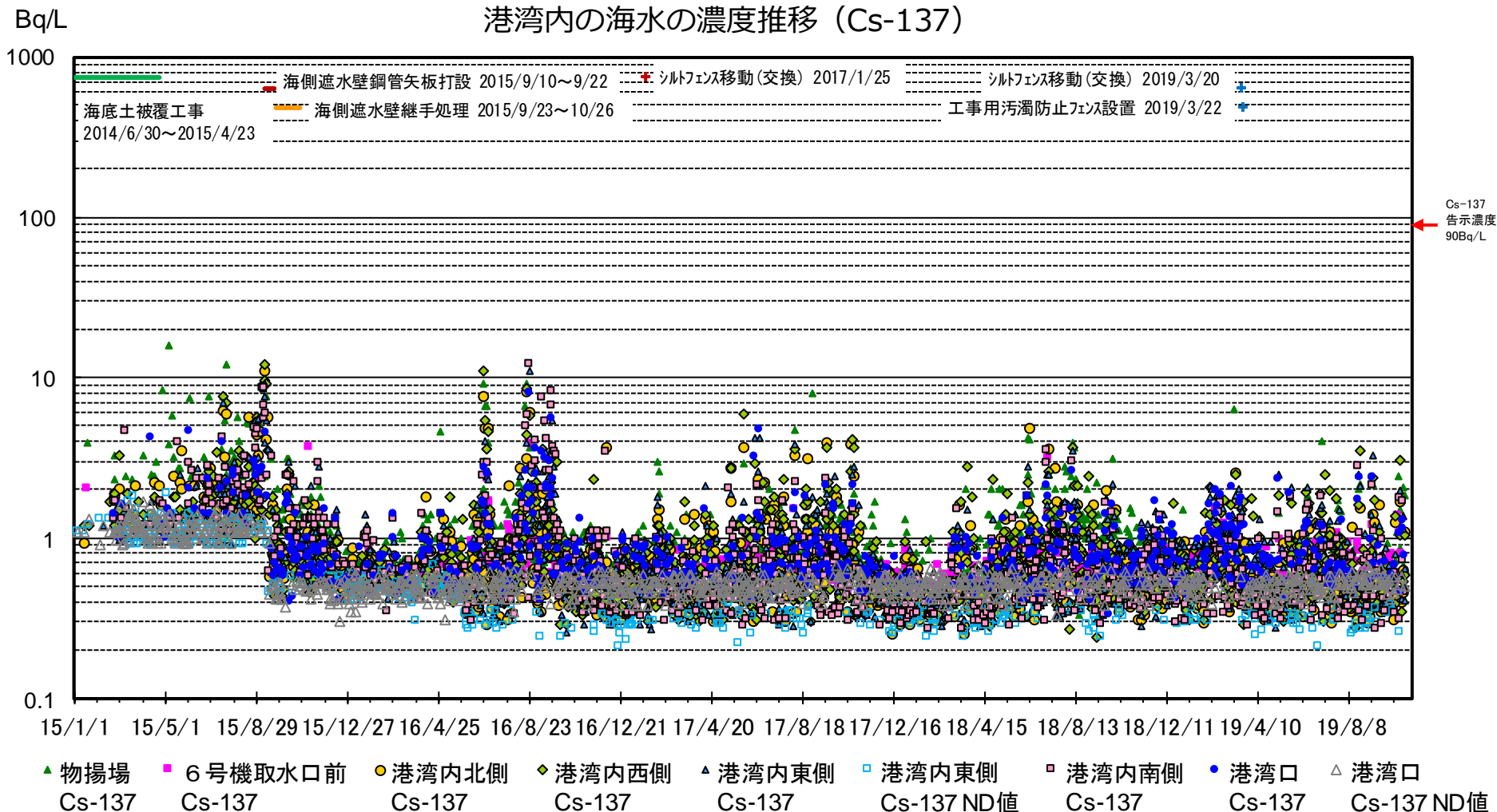
1～4号機取水路開渠内の海水の濃度推移 (全β、Sr-90)



- | | | | | |
|------------------------|------------------------|----------|----------------------------|----------------------------|
| △ 港湾中央 ^{※1} | ■ 東波除堤北側 ^{※2} | □ 東波除堤北側 | ▲ 1号機取水口遮水壁前 ^{※5} | ◆ 2号機取水口遮水壁前 ^{※3} |
| 全β | 全β | 全β ND値 | 全β | 全β |
| ■ 南側遮水壁前 ^{※4} | ● 港湾中央 | ● 東波除堤北側 | ● 南側遮水壁前 | ○ 東波除堤北側 |
| 全β | Sr-90 | Sr-90 | Sr-90 | Sr-90 ND値 |

^{※1}: 開渠外の採取点
^{※2}: 2017/2/11以降、採取点を南に50m移動
^{※3}: 2018/12/12以降廃止
^{※4}: 2019/2/6以降、採取点を南東に80m移動
^{※5}: 2019/4/3以降廃止

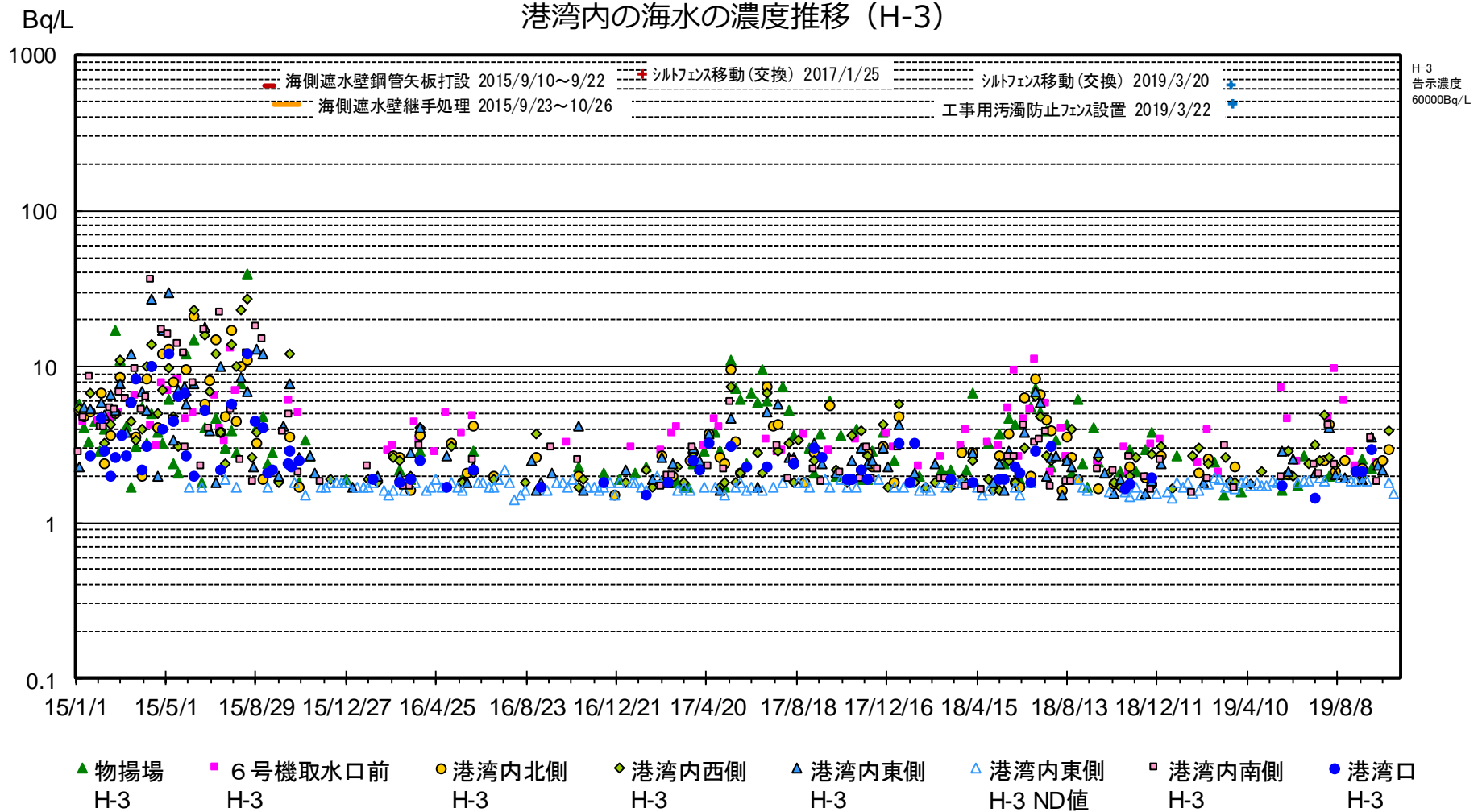
注: 全β は天然の放射性物質K-40(10～20Bq/L)を含む。
 全β について検出限界値未満の場合は□で示す。検出限界値は各地点とも同じ。
 Sr-90について検出限界値未満の場合は○で示す。検出限界値は各地点とも同じ。

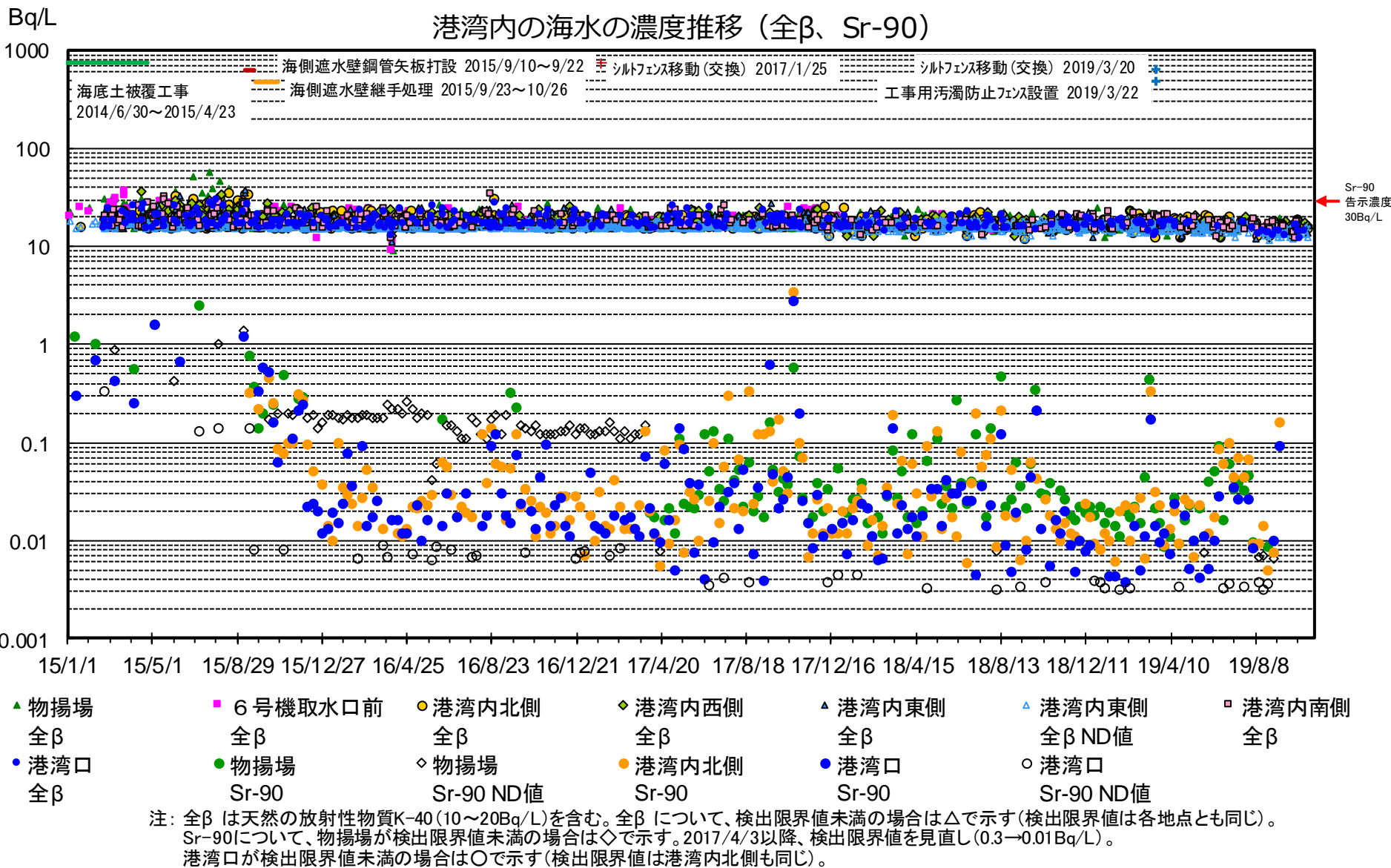


注: 2015/9/16以降、検出限界値を見直し(1.5→0.7Bq/L)。

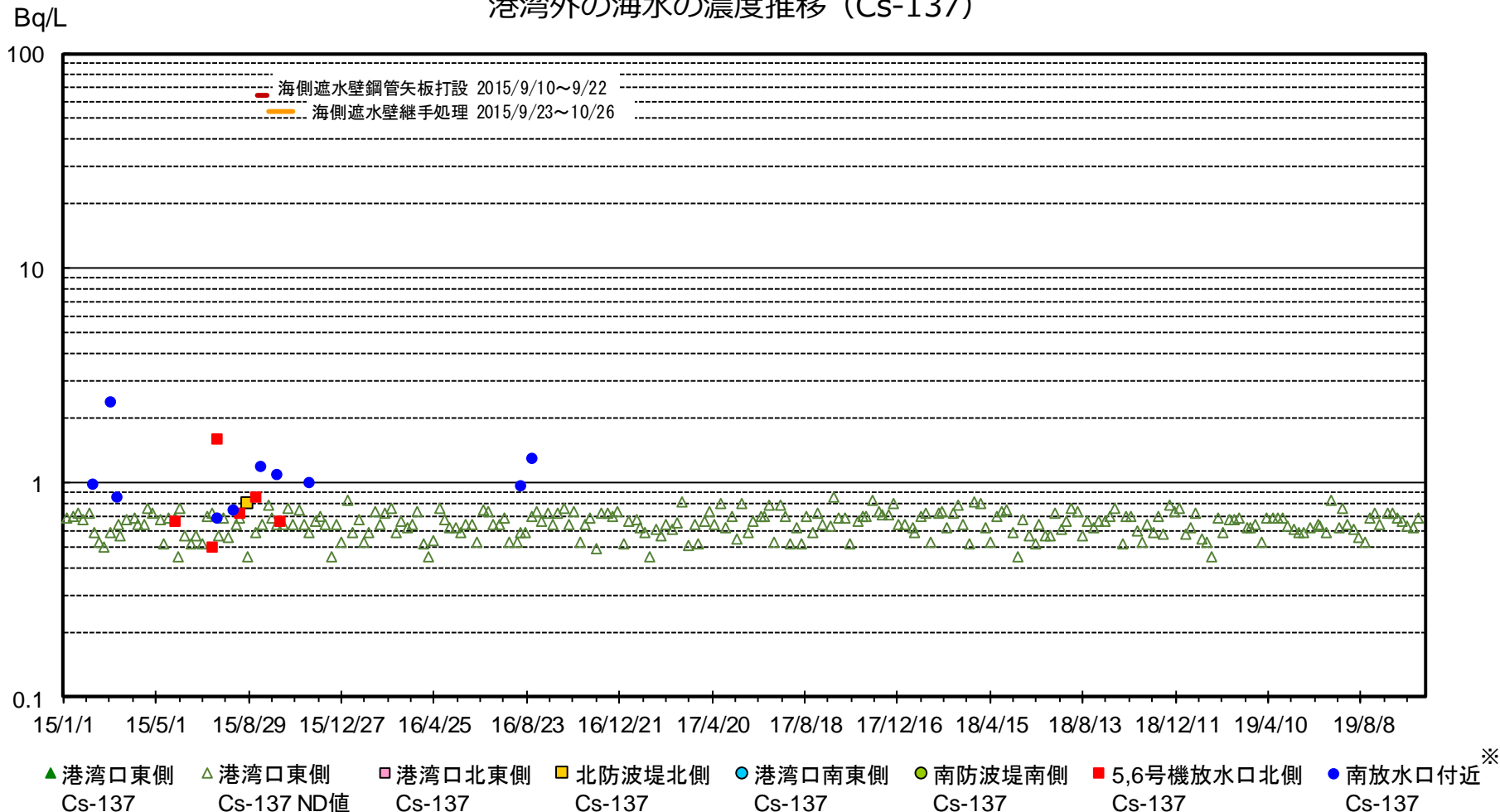
港湾口が検出限界値未満の場合は △ で示す。(検出限界値は物揚場、6号機取水口前も同等)

港湾内北側・西側・東側・南側について2016/6/1以降、検出限界値を見直し(0.7→0.4Bq/L)。検出限界値未満の場合は □ で示す。

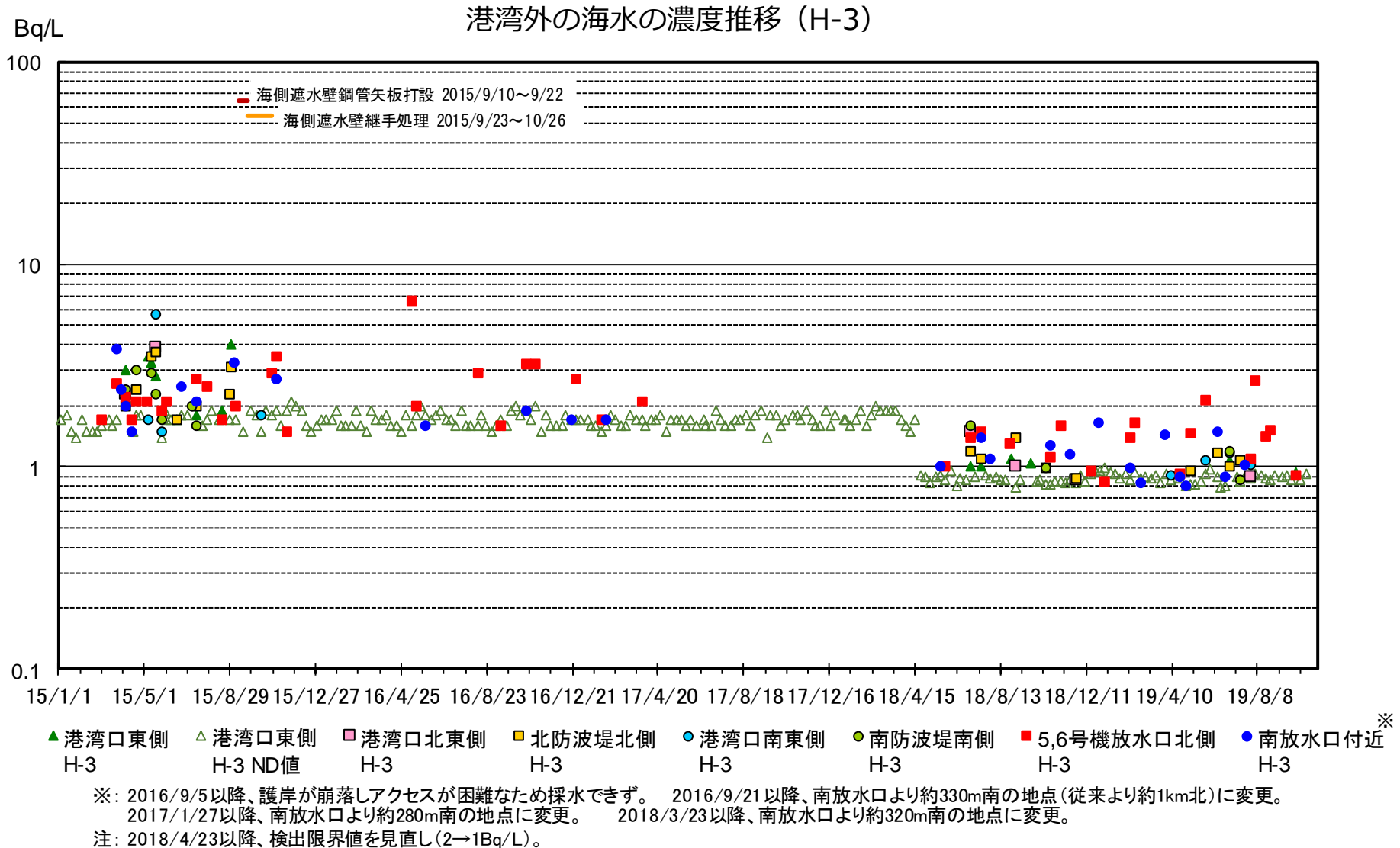


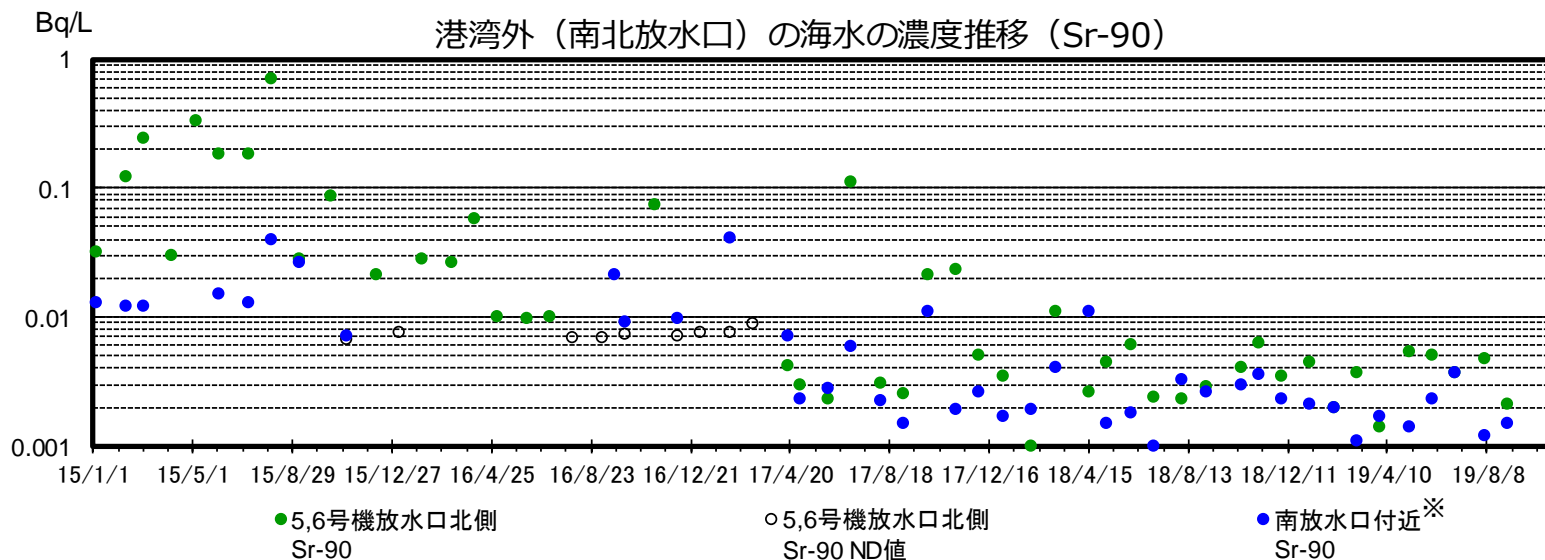
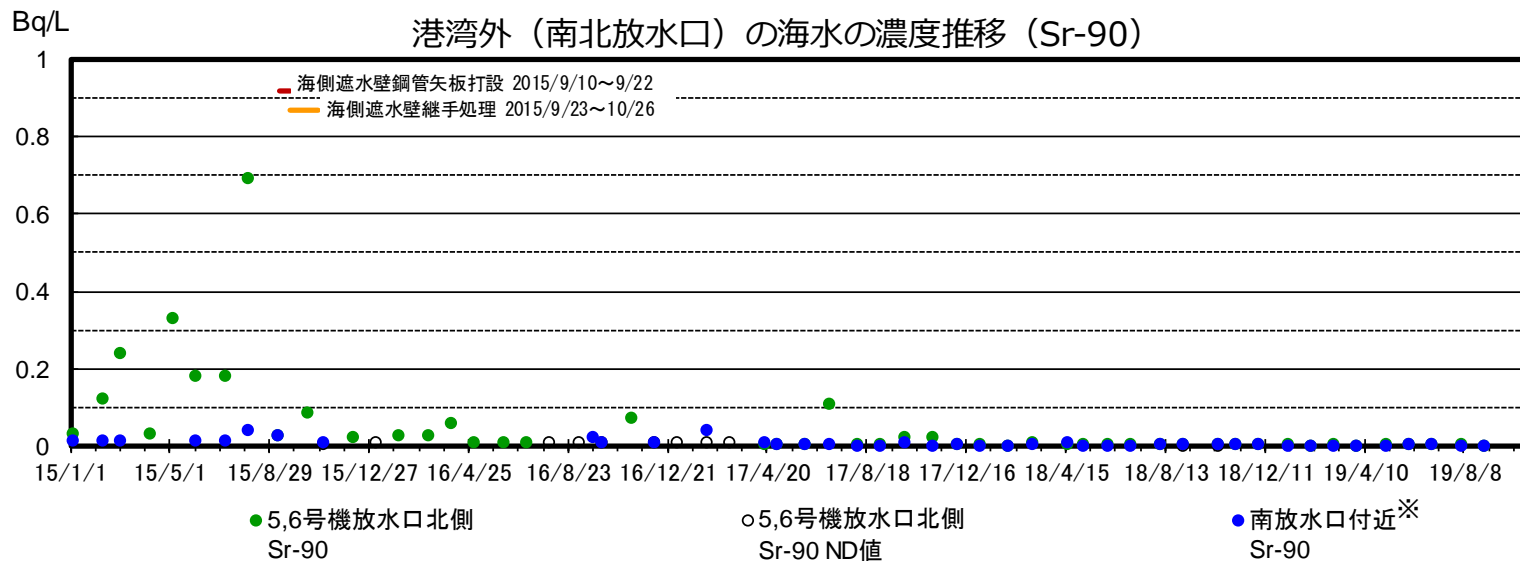


港湾外の海水の濃度推移 (Cs-137)



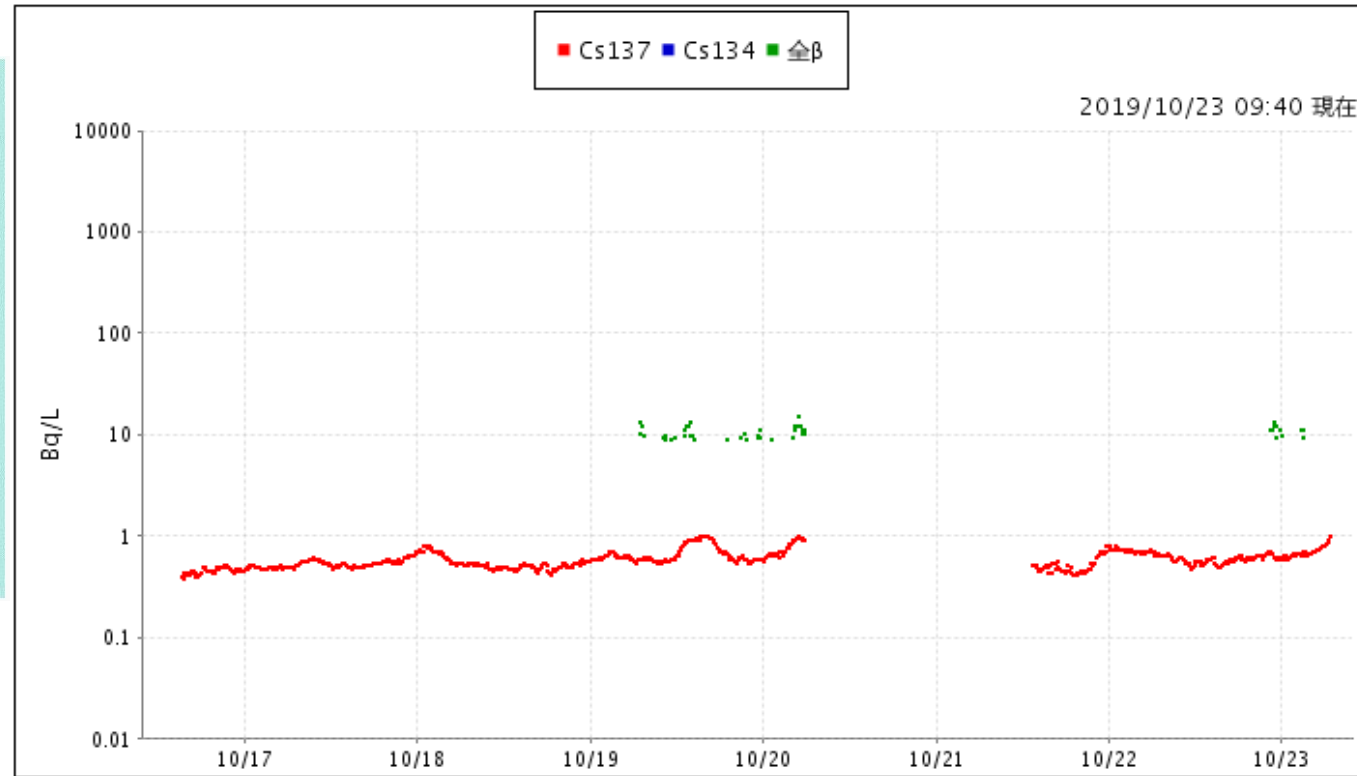
※: 2016/9/5以降、護岸が崩落しアクセスが困難なため採水できず。 2016/9/21以降、南放水口より約330m南の地点(従来より約1km北)に変更。
 2017/1/27以降、南放水口より約280m南の地点に変更。 2018/3/23以降、南放水口より約320m南の地点に変更。





注：2017/4/17以降、検出限界値を見直し(0.01→0.001Bq/L)。
 検出限界値未満の場合は○で示す。検出限界値は各地点とも同じ。

※：2016/9/5以降、護岸が崩落しアクセスが困難なため採水できず。2016/9/21以降、南放水口より約330m南の地点(従来より約1km北)に変更。2017/1/27以降、南放水口より約280m南の地点に変更。2018/3/23以降、南放水口より約320m南の地点に変更。



※検出限界値未満 (ND) の場合は、グラフにデータが表示されません。

(検出限界値)

- ・セシウム (Cs)134 : 0.02 Bq/L
- ・セシウム (Cs)137 : 0.05 Bq/L
- ・全β : 8.7 Bq/L

※海水放射線モニタは、荒天により海上が荒れた場合、巻き上がった海底砂の影響等により、データが変動する場合があります。

※参 考 「福島第一原子力発電所原子炉施設の保安及び特定核燃料物質の防護に関する規則」に定める告示濃度限度は、以下の通り。

- ・セシウム (Cs)134 : 60 Bq/L
- ・セシウム (Cs)137 : 90 Bq/L

○ 2019年10月12日 15時40分に設備不具合により停止しておりました。10月16日15時16分に復旧作業が終了し起動しております。

○ 2019年10月20日 5時53分に設備不具合により停止しておりました。10月21日13時22分に復旧作業が終了し起動しております。

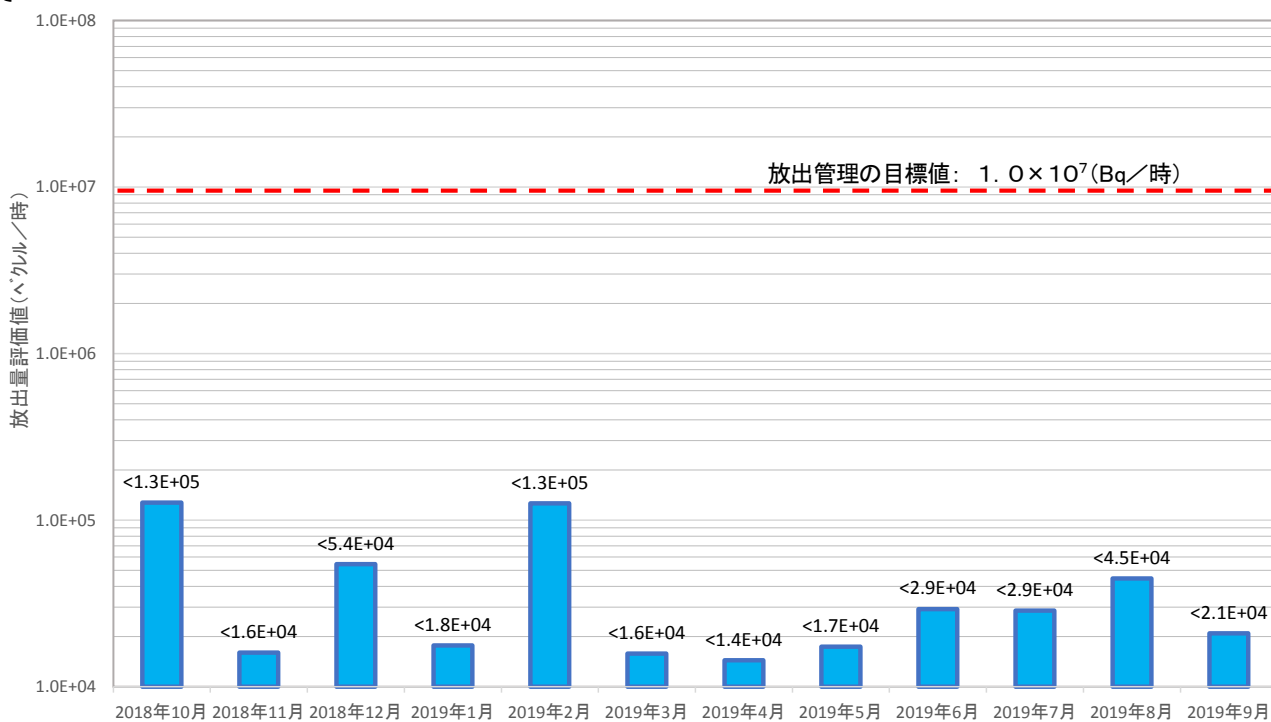
○ 設備の不具合および清掃・点検保守作業等により、データが欠測する場合があります。

原子炉建屋からの追加的放出量の評価結果(2019年9月)

【評価結果】

- 2019年9月における1～4号機原子炉建屋からの追加的放出量を評価した結果、 2.1×10^4 (Bq/時)未満であり、放出管理の目標値(1.0×10^7 Bq/時)を下回っていることを確認した。
- 本放出における敷地境界の空气中放射性物質濃度は、Cs-134： 2.2×10^{-12} (Bq/cm³)、Cs-137： 4.0×10^{-12} (Bq/cm³)であり、当該値が1年間継続した場合、敷地境界における被ばく線量は、年間0.00023mSv未満となる。

参考：核原料物質又は核燃料物質の製錬の事業に関する規則等の規定に基づく線量限度等を定める告示
 周辺監視区域外の空气中の濃度限度・・・Cs-134： 2×10^{-5} (Bq/cm³)、Cs-137： 3×10^{-5} (Bq/cm³)

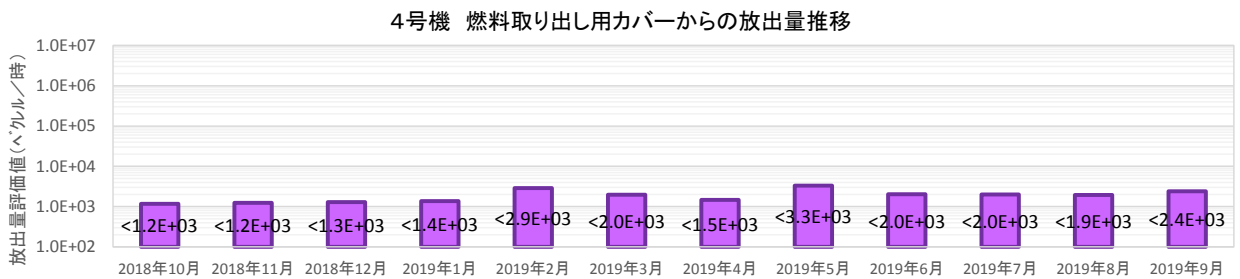
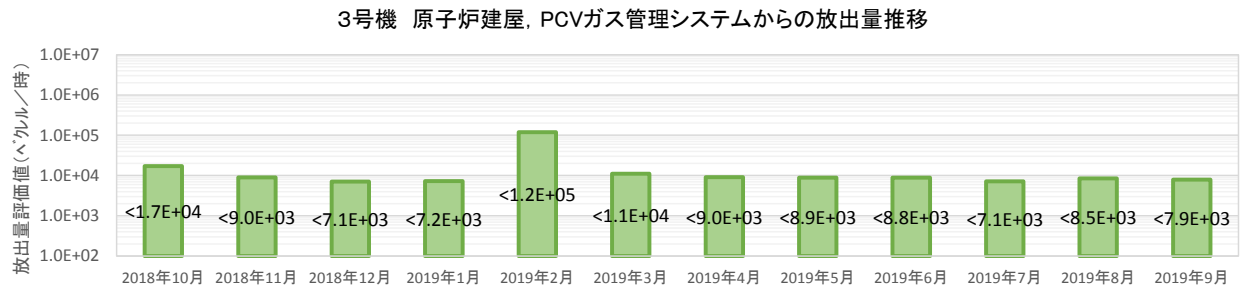
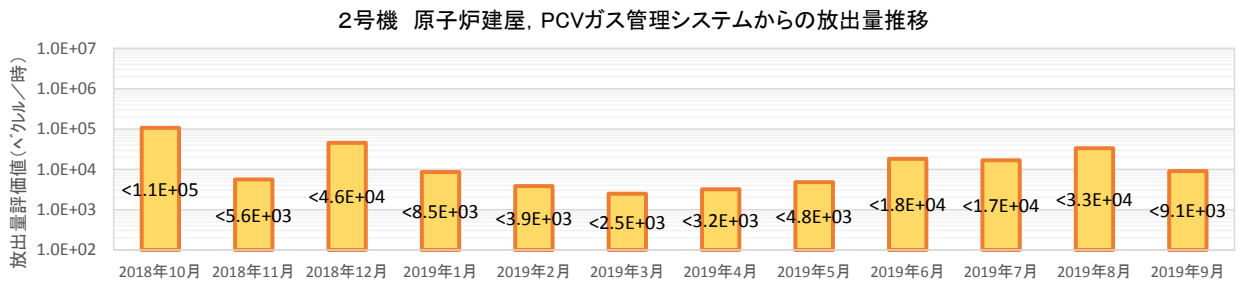
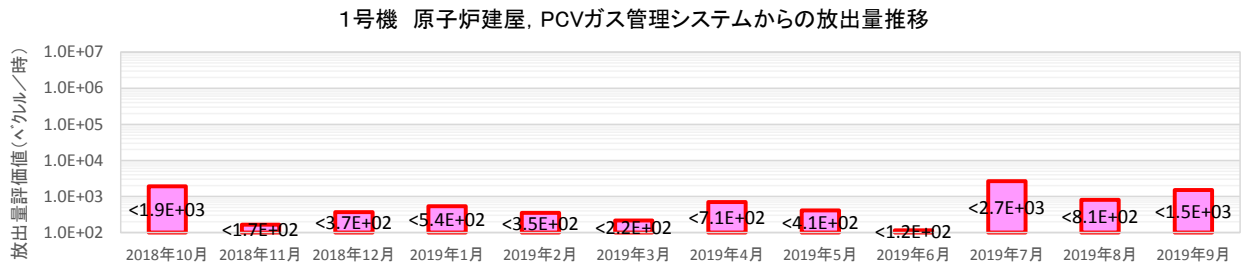


端数処理の都合上、合計が一致しない場合があります。

【評価手法】

- 1～4号機原子炉建屋からの放出量(セシウム)を、原子炉建屋上部等の空气中放射性物質濃度(ダスト濃度)、連続ダストモニタ及び気象データ等の値を基に評価を実施。(詳細な評価手法については別紙参照)
- 希ガスについては、格納容器ガス管理設備における分析結果から放出量を評価しているが、放出されるガンマ線実効エネルギーがセシウムに比べて小さく、被ばく経路も放射性雲の通過による外部被ばくのみとなるため、これによる被ばく線量は、セシウムによる被ばく線量に比べて小さいと評価している。

【各号機における放出量の推移】



《評価》

1, 3, 4号機について、8月とほぼ同程度の放出量であった。2号機については、排気設備フィルタ入口の空气中放射性物質濃度が下がったため、減少した。

1～4号機原子炉建屋からの
追加的放出量評価結果 2019年9月評価分
(詳細データ)



東京電力ホールディングス株式会社

1. 放出量評価について (1)

■ 放出量評価値(9月評価分)

単位：Bq/時

	原子炉建屋上部		PCVガス管理システム			Cs-134,Cs-137合計値		
	Cs-134	Cs-137	Cs-134	Cs-137	希ガス	Cs-134	Cs-137	合計
1号機	1.3E+2未満	1.3E+3	3.4E+1未満	2.9E+1未満	2.6E+6	1.7E+2未満	1.4E+3未満	1.5E+3未満
2号機 作業期間外	1.1E+3未満	1.6E+3未満	7.3E+1未満	6.3E+1未満	6.5E+8	1.2E+3未満	1.7E+3未満	2.9E+3未満
2号機 残置物撤去作 業期間中	6.8E+3未満	7.9E+4未満				6.9E+3未満	7.9E+4未満	8.6E+4未満
3号機	4.0E+3未満	3.9E+3未満	1.5E+1未満	1.7E+1未満	7.5E+8	4.0E+3未満	3.9E+3未満	7.9E+3未満
4号機	1.3E+3未満	1.1E+3未満	-	-	-	1.3E+3未満	1.1E+3未満	2.4E+3未満
合計	-					7.0E+3未満	1.4E+4未満	2.1E+4未満

端数処理の都合上、合計が一致しない場合があります。

※ 1～4号機のCs-134,Cs-137合計値は、2号機については作業期間外と残置物撤去作業期間中の合計値を評価時間で按分の上加算した。

1. 放出量評価について (2)

■ 放出量評価値(8月評価分)

単位：Bq/時

	原子炉建屋上部		PCVガス管理システム			Cs-134,Cs-137合計値		
	Cs-134	Cs-137	Cs-134	Cs-137	希ガス	Cs-134	Cs-137	合計
1号機	2.9E+2未満	4.4E+2未満	4.2E+1未満	3.4E+1未満	5.1E+6	3.4E+2未満	4.8E+2未満	8.1E+2未満
2号機 作業期間外	1.1E+3未満	2.2E+3未満	1.7E+1未満	1.3E+1未満	6.1E+8	1.2E+3未満	2.2E+3未満	3.4E+3未満
2号機 残置物撤去作 業期間中	7.0E+4未満	8.6E+5未満				7.0E+4未満	8.6E+5未満	9.3E+5未満
3号機	4.7E+3未満	3.8E+3未満	2.5E+1未満	1.8E+1未満	7.6E+8	4.7E+3未満	3.9E+3未満	8.5E+3未満
4号機	1.2E+3未満	7.8E+2未満	－	－	－	1.2E+3未満	7.8E+2未満	1.9E+3未満
合計	－					9.6E+3未満	3.5E+4未満	4.5E+4未満

端数処理の都合上、合計が一致しない場合があります。

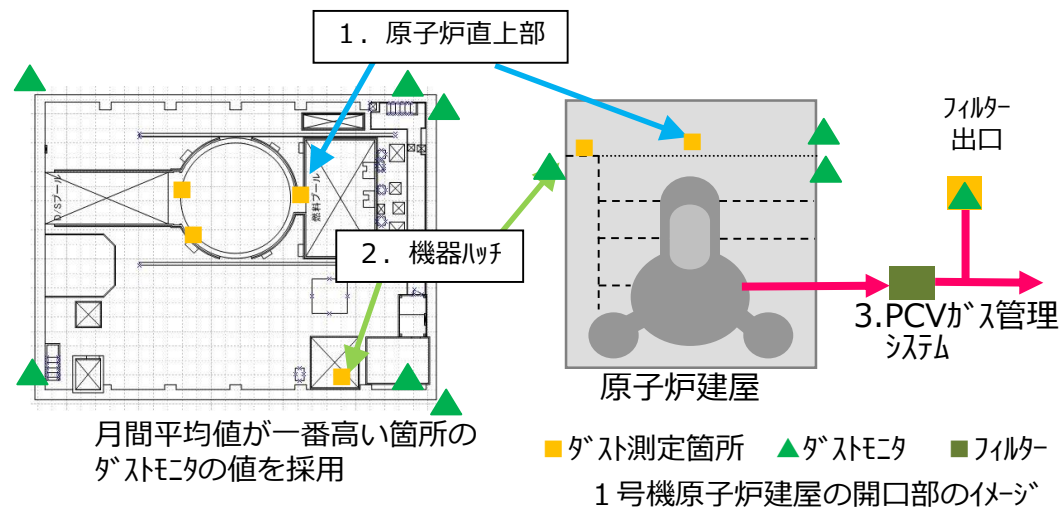
※ 1～4号機のCs-134,Cs-137合計値は、2号機については作業期間外と残置物撤去作業期間中の合計値を評価時間で按分の上加算した。

2.1 1号機の放出量評価

1. 原子炉直上部

(1) ガス測定結果とガスモニタ値 (単位Bq/cm³)

採取日	核種	①原子炉 ウェル上部 北側	原子炉 ウェル上部 北西側	原子炉 ウェル上部 南側
9/2	Cs-134	ND(1.2E-7)	ND(1.2E-7)	ND(1.3E-7)
	Cs-137	2.2E-7	ND(9.9E-8)	2.1E-07



	②ガス採取期間	月間平均	相対比①/②	
ガスモニタ値	3.6E-6	6.0E-6	Cs-134	3.2E-2
			Cs-137	6.1E-2

(2) 月間漏洩率評価: 1.5E+2 m³/h

(2019年9月1日現在の崩壊熱より蒸気発生量(4.2E-2m³/s)を評価)

2. 建屋隙間

(1) ガス測定結果とガスモニタ値 (単位Bq/cm³)

3. PCVガス管理システム

(1) ガス測定結果とガスモニタ値 (単位Bq/cm³)

採取日	核種	①機器ハッチ
9/2	Cs-134	ND(1.1E-7)
	Cs-137	1.4E-6

採取日	核種	①PCVガス管理システム出口
9/2	Cs-134	ND(1.7E-6)
	Cs-137	ND(1.4E-6)

核種	PCVガス管理システム出口 月間平均値(Bq/cm ³)
Kr-85	1.2E-1

	②ガス採取期間	月間平均	相対比①/②	
ガスモニタ値	3.9E-6	3.6E-06	Cs-134	2.9E-2
			Cs-137	3.5E-1

	②ガス採取期間 (cps)	月間平均 (cps)	相対比①/②	
ガスモニタ値	1.7E+1	1.6E+1	Cs-134	9.8E-8
			Cs-137	8.3E-8

(2) 月間漏洩率評価: 1.0E+3 m³/h

(2) 月間平均流量結果: 2.1E+1 m³/h

4. 放出量評価

$$\begin{aligned}
 \text{原子炉直上部+建屋隙間(Cs-134)} &= 6.0E-6 \times 3.2E-2 \times 1.5E+2 \times 1E+6 + 3.6E-6 \times 2.9E-2 \times 1.0E+3 \times 1E+6 = 1.3E+2\text{Bq/時未満} \\
 \text{原子炉直上部+建屋隙間(Cs-137)} &= 6.0E-6 \times 6.1E-2 \times 1.5E+2 \times 1E+6 + 3.6E-6 \times 3.5E-1 \times 1.0E+3 \times 1E+6 = 1.3E+3\text{Bq/時} \\
 \text{PCVガス管理システム(Cs-134)} &= 1.6E+1 \times 9.8E-8 \times 2.1E+1 \times 1E+6 = 3.4E+1\text{Bq/時未満} \\
 \text{PCVガス管理システム(Cs-137)} &= 1.6E+1 \times 8.3E-8 \times 2.1E+1 \times 1E+6 = 2.9E+1\text{Bq/時未満} \\
 \text{PCVガス管理システム(Kr)} &= 1.2E-1 \times 2.1E+1 \times 1E+6 = 2.6E+6\text{Bq/時} \\
 \text{PCVガス管理システム(Kr被ばく線量)} &= 2.6E+6 \times 24 \times 365 \times 2.5E-19 \times 0.0022/0.5 \times 1E+3 = 2.5E-8\text{mSv/年}
 \end{aligned}$$

端数処理の都合上、合計が一致しない場合があります。

2.2 2号機の放出量評価 作業期間外

1. 排気設備

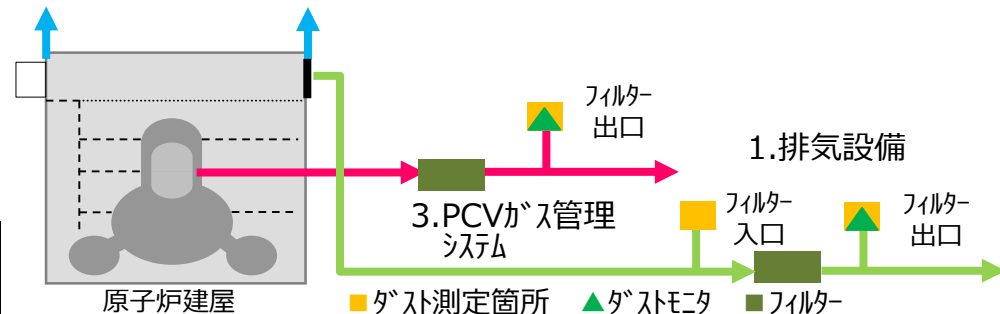
(1) ガス測定結果とガスモニタ値 (単位Bq/cm³)

採取日	核種	①排気設備出口
9/10	Cs-134	ND(1.4E-7)
	Cs-137	ND(8.8E-8)

	②ガス採取期間	月間平均	相对比①/②	
ガスモニタ値	4.3E-7	2.3E-7	Cs-134	3.1E-1
			Cs-137	2.0E-1

(2) 月間排気設備流量 : 1.0E+4 m³/h

2. 開口の隙間及びブローアウトバルブの隙間



2号機原子炉建屋の開口部のイメージ

2. 開口の隙間及びブローアウトバルブの隙間

(1) ガス測定結果 (単位Bq/cm³)

採取日	核種	排気設備入口
9/10	Cs-134	ND(4.1E-7)
	Cs-137	1.3E-6

(2) 月間漏洩率評価 : 8.9E+2 m³/h

3. PCVガス管理システム

(1) ガス測定結果とガスモニタ値 (単位Bq/cm³)

採取日	核種	①PCVガス管理システム出口
9/3	Cs-134	ND(1.0E-6)
	Cs-137	ND(8.9E-7)

核種	PCVガス管理システム出口 月間平均値(Bq/cm ³)
Kr-85	3.7E+1

	②ガス採取期間	月間平均	相对比①/②	
ガスモニタ値	6.6E-7	2.7E-6	Cs-134	1.6E+0
			Cs-137	1.4E+0

(2) 月間平均流量結果 : 1.8E+1 m³/h

4. 放出量評価

排気設備出口+開口の隙間及びブローアウトバルブの隙間(Cs-134)
 排気設備出口+開口の隙間及びブローアウトバルブの隙間(Cs-137)
 PCVガス管理システム(Cs-134)
 PCVガス管理システム(Cs-137)
 PCVガス管理システム(Kr)
 PCVガス管理システム(Kr被ばく線量)

$$\begin{aligned}
 &= 2.3E-7 \times 3.1E-1 \times 1.0E+4 \times 1E+6 + 4.1E-7 \times 8.9E+2 \times 1E+6 = 1.1E+3Bq/時未満 \\
 &= 2.3E-7 \times 2.0E-1 \times 1.0E+4 \times 1E+6 + 1.3E-6 \times 8.9E+2 \times 1E+6 = 1.6E+3Bq/時未満 \\
 &= 2.7E-6 \times 1.6E+0 \times 1.8E+1 \times 1E+6 = 7.3E+1Bq/時未満 \\
 &= 2.7E-6 \times 1.4E+0 \times 1.8E+1 \times 1E+6 = 6.3E+1Bq/時未満 \\
 &= 3.7E+1 \times 1.8E+1 \times 1E+6 = 6.5E+8Bq/時 \\
 &= 6.5E+8 \times 24 \times 365 \times 2.4E-19 \times 0.0022/0.5 \times 1E+3 = 6.0E-6mSv/年
 \end{aligned}$$

端数処理の都合上, 合計が一致しない場合があります。

2.3 3号機の放出量評価 (1)

1. 原子炉直上部

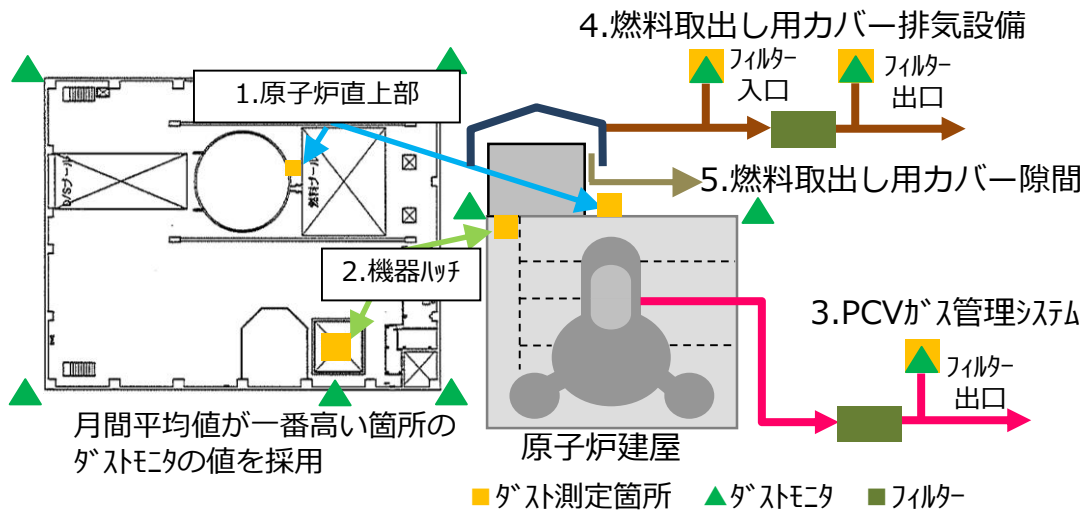
(1) ガス測定結果とガスモニタ値 (単位Bq/cm³)

採取日	核種	①南西
9/11	Cs-134	1.8E-07
	Cs-137	2.8E-06

	②ガス採取期間	月間平均	相対比①/②	
ガス	1.0E-5	4.6E-6	Cs-134	1.7E-2
モニタ			Cs-137	2.7E-1

(2) 月間漏洩率評価 : 1.8E+2 m³/h

(2019年9月1日現在の崩壊熱より蒸気発生量(5.1E-2m³/s)を評価) 3号機原子炉建屋の開口部のイメージ



2. 機器ハッチ

(1) ガス測定結果とガスモニタ値 (単位Bq/cm³)

採取日	核種	①機器ハッチ
9/11	Cs-134	ND(1.1E-7)
	Cs-137	ND(9.9E-8)

	②ガス採取期間	月間平均	相対比①/②	
ガス	6.4E-6	6.9E-6	Cs-134	1.7E-2
モニタ値			Cs-137	1.5E-2

(2) 月間漏洩率評価 : 2.9E+3 m³/h

3. PCVガス管理システム

(1) ガス測定結果とガスモニタ値 (単位Bq/cm³)

採取日	核種	①PCVガス管理システム出口	核種	PCVガス管理システム出口 月間平均値(Bq/cm ³)
9/12	Cs-134	ND(8.4E-7)		
	Cs-137	ND(9.5E-7)		

	②ガス採取期間	月間平均	相対比①/②	
ガス	1.4E-5	1.4E-5	Cs-134	5.9E-2
モニタ値			Cs-137	6.6E-2

(2) 月間平均流量結果 : 1.8E+1 m³/h

2.3 3号機の放出量評価（2）

4. 燃料取出し用カバー-隙間

(1) ガス測定結果（単位Bq/cm³）

採取日	核種	①排気設備入口
9/11	Cs-134	ND(8.8E-8)
	Cs-137	2.4E-7

	②ガス採取期間	月間平均	相対比①/②	
ガス モニタ	1.0E-5	4.2E-6	Cs-134	8.5E-3
			Cs-137	2.3E-2

(2) 月間漏洩率評価 : 9.6E+2 m³/h

5. 燃料取出し用カバー-排気設備

(1) ガス測定結果とガスモニタ値（単位Bq/cm³）

採取日	核種	①排気設備出口
9/11	Cs-134	ND(1.2E-7)
	Cs-137	ND(1.1E-7)

	②ガス採取期間	月間平均	相対比①/②	
ガス モニタ値	7.4E-6	7.3E-6	Cs-134	1.7E-2
			Cs-137	1.5E-2

(2) 月間排気設備流量 : 3.0E+4 m³/h

6. 放出量評価

$$\begin{aligned}
 & \text{原子炉直上部+機器ハッチ+燃料取出し用カバー-隙間+燃料取出し用カバー-排気設備(Cs-134)} \\
 & = 4.6E-6 \times 1.7E-2 \times 1.8E+2 \times 1E+6 + 6.9E-6 \times 1.7E-2 \times 2.9E+3 \times 1E+6 \\
 & \quad + 4.2E-6 \times 8.5E-3 \times 9.6E+2 \times 1E+6 + 7.3E-6 \times 1.7E-2 \times 3.0E+4 \times 1E+6 = 4.0E+3\text{Bq/時未満} \\
 & \text{原子炉直上部+機器ハッチ+燃料取出し用カバー-隙間+燃料取出し用カバー-排気設備(Cs-137)} \\
 & = 4.6E-6 \times 2.7E-1 \times 1.8E+2 \times 1E+6 + 6.9E-6 \times 1.5E-2 \times 2.9E+3 \times 1E+6 \\
 & \quad + 4.2E-6 \times 2.3E-2 \times 9.6E+2 \times 1E+6 + 7.3E-6 \times 1.5E-2 \times 3.0E+4 \times 1E+6 = 3.9E+3\text{Bq/時未満} \\
 & \text{PCVガス管理システム(Cs-134)} = 1.4E-5 \times 5.9E-2 \times 1.8E+1 \times 1E+6 = 1.5E+1\text{Bq/時未満} \\
 & \text{PCVガス管理システム(Cs-137)} = 1.4E-5 \times 6.6E-2 \times 1.8E+1 \times 1E+6 = 1.7E+1\text{Bq/時未満} \\
 & \text{PCVガス管理システム(Kr)} = 4.2E+1 \times 1.8E+1 \times 1E+6 = 7.5E+8\text{Bq/時} \\
 & \text{PCVガス管理システム(Kr被ばく線量)} = 7.5E+8 \times 24 \times 365 \times 3.0E-19 \times 0.0022/0.5 \times 1E+3 = 8.7E-6\text{mSv/年}
 \end{aligned}$$

端数処理の都合上、合計が一致しない場合があります。

1. 燃料取出し用ガレ-隙間

(1) ガレ-測定結果とガレ-モニタ値 (単位Bq/cm³)

採取日	核種	①SFP近傍	チェンブング プレイス近傍	ガレ-上部
9/13	Cs-134	ND(1.2E-7)	ND(1.5E-7)	ND(9.0E-8)
	Cs-137	ND(9.6E-8)	ND(9.8E-8)	ND(9.9E-8)

	②ガレ-採取期間	月間平均	相対比①/②	
ガレ-モニタ値	6.7E-7	1.1E-6	Cs-134	1.8E-1
			Cs-137	1.4E-1

ガレ-測定結果及び相対比より、放出量が最大となる箇所を採用

(2) 月間漏洩率評価 : 4.5E+3 m³/h

2. 燃料取出し用ガレ-排気設備

(1) ガレ-測定結果とガレ-モニタ値 (単位Bq/cm³)

採取日	核種	①排気設備出口	②ガレ-採取期間	月間平均	相対比①/②	
9/13	Cs-134	ND(8.5E-9)	ガレ-モニタ値	1.7E-7	Cs-134	4.6E-2
	Cs-137	ND(9.9E-9)			Cs-137	5.3E-2

(2) 月間排気設備流量 : 5.0E+4 m³/h

3. 放出量評価

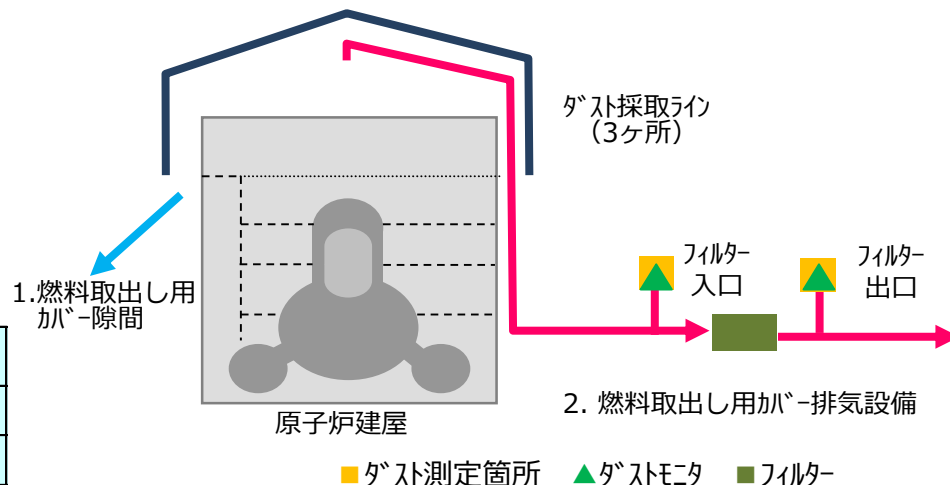
燃料取出し用ガレ-隙間+燃料取出し用ガレ-排気設備(Cs-134)

$$= 1.1E-6 \times 1.8E-1 \times 4.5E+3 \times 1E+6 + 1.7E-7 \times 4.6E-2 \times 5.0E+4 \times 1E+6 = 1.3E+3Bq/時未満$$

燃料取出し用ガレ-隙間+燃料取出し用ガレ-排気設備(Cs-137)

$$= 1.1E-6 \times 1.4E-1 \times 4.5E+3 \times 1E+6 + 1.7E-7 \times 5.3E-2 \times 5.0E+4 \times 1E+6 = 1.1E+3Bq/時未満$$

端数処理の都合上、合計が一致しない場合があります。

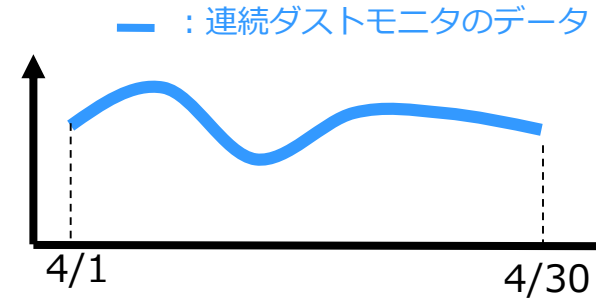


4号機原子炉建屋の開口部のイメージ

- 月1回の空気中放射性物質濃度測定値と連続ダストモニタのデータから連続性を考慮した空気中放射性物質濃度を評価

STEP1 月間の連続ダストモニタのトレンドを確認

※連続ダストモニタは、
全βのため被ばく評価に使用できない

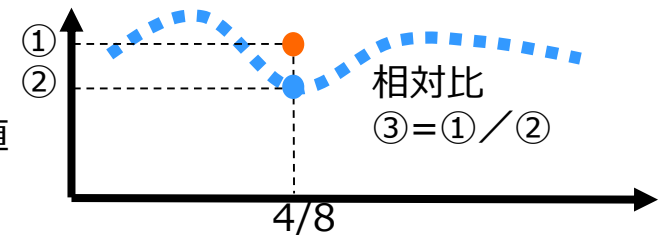


STEP2 月1回の空気中放射性物質濃度測定値と連続ダストモニタの値を比較

- 例 4月8日に月1回の空気中放射性物質濃度測定 . . . ①
→核種毎 (Cs134.137) にデータが得られる
- 同時刻の連続ダストモニタの値を確認 . . . ②
- 上記2つのデータの比を評価 . . . ③

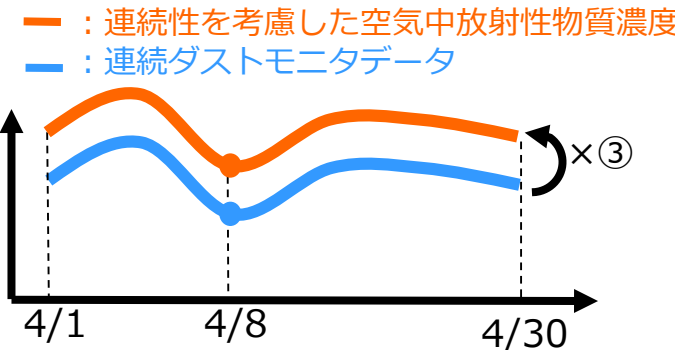
● : 空気中放射性物質濃度測定結果
● : 4月8日の連続ダストモニタデータ

③相対比=①空気中放射性物質濃度 / ②ダストモニタの値



STEP3 連続性を考慮した空気中放射性物質濃度を評価

- 連続ダストモニタのデータに③相対比を乗じて、
連続性を考慮した空気中放射性物質濃度を評価



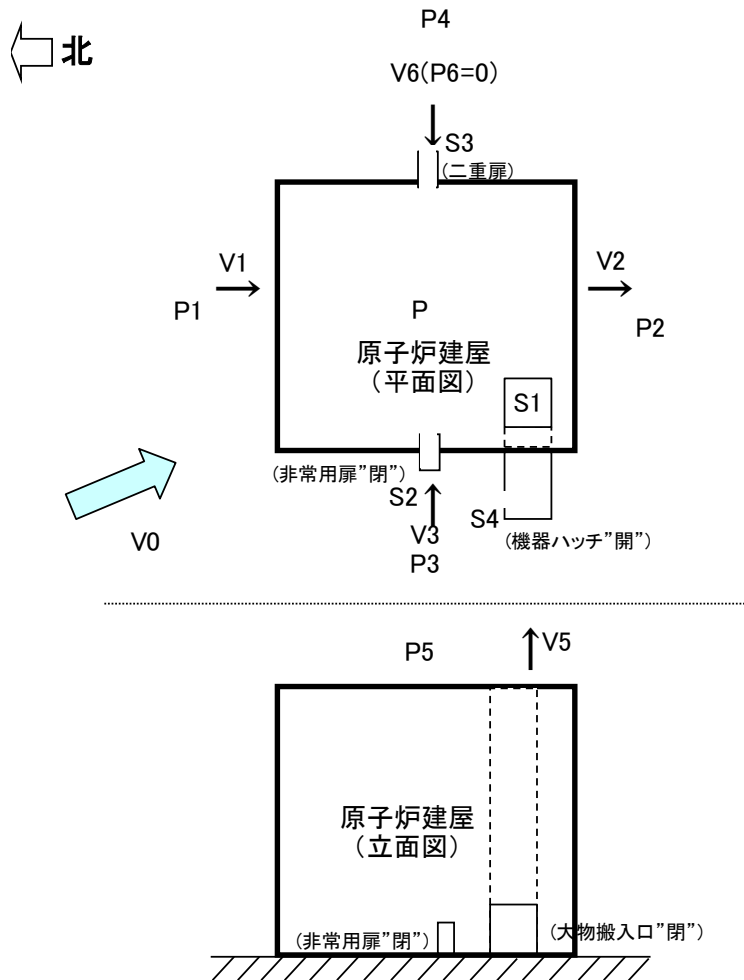
■ 評価方法

空気漏洩量は外部風速、建屋内外圧差、隙間面積などから計算で求める。

■ 計算例

9月1日

北北西風 1.3m/s



- V0: 外気風速 (m/s)
- V1: 建屋流出入風速 (m/s)
- V2: 建屋流出入風速 (m/s)
- V3: 建屋流出入風速 (m/s)
- V4: 建屋流出入風速 (m/s)
- V5: 建屋流出入風速 (m/s)
- V6: 建屋流出入風速 (m/s)
- P1: 上流側圧力 (北風) (Pa)
- P2: 下流側圧力 (北風) (Pa)
- P3: 上流側圧力 (西風) (Pa)
- P4: 下流側圧力 (西風) (Pa)
- P5: 上面部圧力 (Pa)
- P6: T/B内圧力 (0Pa)
- P: 建屋内圧力 (Pa)
- S1: 機器ハッチ隙間面積 (m²)
- S2: R/B非常用扉開口面積 (m²)
- S3: R/B二重扉開口面積 (m²)
- S4: R/B大物搬入口横扉 (m²)
- ρ : 空気密度 (kg/m³)
- C1: 風圧係数 (北風上側)
- C2: 風圧係数 (北風下側)
- C3: 風圧係数 (西風上側)
- C4: 風圧係数 (西風下側)
- C5: 風圧係数 (上面部)
- ζ : 形状抵抗係数

風速をVとすると、上流側、下流側の圧力は次のとおりとなる。

- 上流側(北風) : $P1=C1 \times \rho \times V0^2/(2g)$... (1)
- 下流側(北風) : $P2=C2 \times \rho \times V0^2/(2g)$... (2)
- 上流側(西風) : $P3=C3 \times \rho \times V0^2/(2g)$... (3)
- 下流側(西風) : $P4=C4 \times \rho \times V0^2/(2g)$... (4)
- 上面部 : $P5=C5 \times \rho \times V0^2/(2g)$... (5)

内圧をP、隙間部の抵抗係数をζ とすると

- $P1-P=\zeta \times \rho \times V1^2/(2g)$... (6)
- $P-P2=\zeta \times \rho \times V2^2/(2g)$... (7)
- $P3-P=\zeta \times \rho \times V3^2/(2g)$... (8)
- $P-P4=\zeta \times \rho \times V4^2/(2g)$... (9)
- $P-P5=\zeta \times \rho \times V5^2/(2g)$... (10)
- $P6-P=\zeta \times \rho \times V6^2/(2g)$... (11)

空気流出量のマスバランス式は

$$(V1 \times S4 + V3 \times S2 + V6 \times S3) \times 3600 = (V2 \times 0 + V4 \times 0 + V5 \times S1) \times 3600$$

左辺と右辺の差を「Y」とすると

$$Y = (V1 \times S4 + V3 \times S2 + V6 \times S3) \times 3600 - (V2 \times 0 + V4 \times 0 + V5 \times S1) \times 3600$$

V1, V2, V3, V4, V5, V6は(6), (7), (8), (9), (10), (11)式により、Pの関数なので、「Y」がゼロになるようにPの値を調整する

V0 (m/s)	C1	C2	C3	C4	C5	ζ	ρ (kg/m ³)
1.32	0.80	-0.50	0.10	-0.50	-0.40	2.00	1.20
S1 (m ²)	S2 (m ²)	S3 (m ²)	S4 (m ²)				
0.73	0.00	0.29	0.10				

P1 (Pa)	P2 (Pa)	P3 (Pa)	P4 (Pa)	P5 (Pa)	P6 (Pa)	P (Pa)
0.08557	-0.05348	0.010696	-0.05348	-0.04279	0	-0.02916

V1 (m/s)	V2 (m/s)	V3 (m/s)	V4 (m/s)	V5 (m/s)	V6 (m/s)	Y (m ³ /h)
0.97	0.45	0.57	0.45	0.33	0.49	0.00
IN	OUT	IN	OUT	OUT	IN	OK

※IN : 流入
OUT : 流出

週ごとの漏洩量評価（一例）

	9月1日			9月2日			9月3日			9月4日			9月5日			9月6日			9月7日		
	風速 (m/s)	時間 (hr)	漏洩率 (m3/h)	風速 (m/s)	時間 (hr)	漏洩率 (m3/h)	風速 (m/s)	時間 (hr)	漏洩率 (m3/h)	風速 (m/s)	時間 (hr)	漏洩率 (m3/h)	風速 (m/s)	時間 (hr)	漏洩率 (m3/h)	風速 (m/s)	時間 (hr)	漏洩率 (m3/h)	風速 (m/s)	時間 (hr)	漏洩率 (m3/h)
西風	0.7	1.2	309	0.8	1.5	340	0.6	1.7	282	0.7	1.3	306	0.6	0.7	277	0.8	0.5	365	0.0	0.0	0
西北西風	1.0	3.7	586	1.0	3.0	599	1.0	3.3	552	1.3	5.5	760	1.1	3.7	661	0.9	2.5	531	0.6	0.7	371
北西風	1.0	2.5	642	1.0	2.5	642	0.9	3.3	590	1.2	3.5	745	1.1	4.2	665	0.8	1.7	528	0.7	0.7	440
北北西風	1.3	2.8	877	1.7	3.5	1,148	1.5	2.2	963	1.7	2.5	1,113	0.8	2.2	537	1.3	0.8	855	1.1	2.3	722
北風	1.0	1.5	678	3.1	2.3	2,089	1.6	4.3	1,084	2.4	3.0	1,577	0.8	0.5	555	1.7	1.2	1,144	0.8	1.0	510
北北東風	0.0	0.0	0	2.7	2.7	1,769	2.1	0.3	1,363	2.7	5.3	1,766	0.9	0.2	617	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0
北東風	0.0	0.0	0	2.6	1.5	1,647	1.5	0.2	944	2.8	0.3	1,732	0.9	0.2	559	2.1	1.0	1,319	0.6	0.2	357
東北東風	1.6	0.8	929	2.8	4.7	1,593	1.5	0.5	866	0.0	0.0	0	1.8	2.0	1,064	2.2	1.5	1,275	0.0	0.0	0
東風	1.5	0.7	656	0.0	0.0	0	1.2	0.2	552	0.0	0.0	0	1.7	1.7	752	2.2	1.2	957	0.0	0.0	0
東南東風	1.6	0.3	708	0.0	0.0	0	1.2	0.2	548	0.0	0.0	0	2.1	2.2	922	2.5	0.7	1,117	1.2	0.2	521
南東風	2.2	3.2	967	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	2.2	2.2	1,005	2.6	0.8	1,186	2.0	2.0	909
南南東風	2.2	2.8	1,006	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	1.9	0.8	839	4.3	3.0	1,938	4.9	7.7	2,192
南風	1.9	0.8	850	0.0	0.0	0	0.7	0.2	299	0.0	0.0	0	1.9	1.0	822	3.0	3.2	1,314	3.9	6.0	1,728
南南西風	1.9	0.7	860	0.7	0.2	299	2.0	1.7	906	0.0	0.0	0	1.2	1.2	535	2.4	3.5	1,076	1.8	1.3	800
南西風	0.7	0.5	320	0.0	0.0	0	1.1	1.3	508	0.7	0.2	303	0.8	0.3	363	1.0	0.3	437	1.1	0.5	484
西南西風	0.6	0.8	290	0.8	0.7	342	0.7	0.3	294	0.7	1.2	309	0.5	0.2	232	0.6	0.2	256	0.5	0.2	239
漏洩日量 (m3)	16,661			27,701			14,623			25,120			16,879			24,451			33,222		

16方位毎の平均風速から漏洩率を前頁のように評価する。

漏洩量合計

評価期間	9/1 ~ 9/7	9/8 ~ 9/14	9/15 ~ 9/21	9/22 ~ 9/28	9/29 ~ 9/30	漏洩量合計 (m ³)	評価対象期間 (h)	漏洩率 (m ³ /h)
週間漏洩量 (m ³)	158,656	194,155	171,339	165,911	37,595	727,656	720	1,011

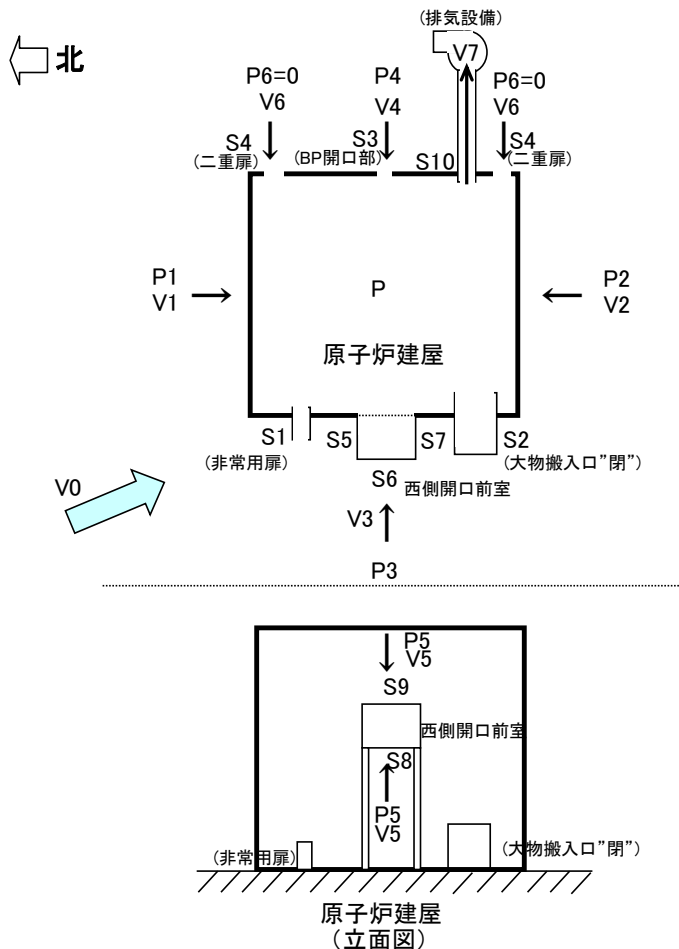
端数処理をしているため記載の数値による計算が一致しない場合がある。

評価方法

空気漏洩量は外部風速、建屋内外圧差、隙間面積などから計算で求める。

計算例

9月1日 北北西風 1.3m/s



- V0: 外気風速 (m/s)
- V1: 建屋流出入風速 (m/s)
- V2: 建屋流出入風速 (m/s)
- V3: 建屋流出入風速 (m/s)
- V4: 建屋流出入風速 (m/s)
- V5: 建屋流出入風速 (m/s)
- V6: 建屋流出入風速 (m/s)
- V7: 排気風速 (m/s)
- P1: 上流側圧力 (北) (Pa)
- P2: 下流側圧力 (南) (Pa)
- P3: 上流側圧力 (西) (Pa)
- P4: 下流側圧力 (東) (Pa)
- P5: 床面圧力 (Pa)
- P6: T/B内圧力 (0Pa)
- P: 建屋内圧力 (Pa)
- S1: 非常用扉開口面積 (m²)
- S2: 大物搬入口開口面積 (m²)
- S3: BP隙間面積 (m²)
- S4: R/B二重扉(南北)開口面積 (m²)
- S5: 西側開口前室北側開口面積 (m²)
- S6: 西側開口前室西側開口面積 (m²)
- S7: 西側開口前室南側開口面積 (m²)
- S8: 西側開口前室床部開口面積 (m²)
- S9: 西側開口前室上部開口面積 (m²)
- S10: 排気ダクト面積 (m²)
- ρ : 空気密度 (kg/m³)
- C1: 風圧係数(北)
- C2: 風圧係数(南)
- C3: 風圧係数(西)
- C4: 風圧係数(東)
- C5: 風圧係数(床面)
- ζ : 形状抵抗係数

風速をVとすると、上流側、下流側の圧力は次のとおりとなる。

- 上流側(北): $P1=C1 \times \rho \times V0^2/(2g)$... (1)
- 下流側(南): $P2=C2 \times \rho \times V0^2/(2g)$... (2)
- 上流側(西): $P3=C3 \times \rho \times V0^2/(2g)$... (3)
- 下流側(東): $P4=C4 \times \rho \times V0^2/(2g)$... (4)
- 床面: $P5=C5 \times \rho \times V0^2/(2g)$... (5)

内圧をP、隙間部の抵抗係数をζ とすると

- $P1-P=\zeta \times \rho \times V1^2/(2g)$... (6)
- $P2-P=\zeta \times \rho \times V2^2/(2g)$... (7)
- $P3-P=\zeta \times \rho \times V3^2/(2g)$... (8)
- $P4-P=\zeta \times \rho \times V4^2/(2g)$... (9)
- $P5-P=\zeta \times \rho \times V5^2/(2g)$... (10)
- $P6-P=\zeta \times \rho \times V6^2/(2g)$... (11)

空気流出入量のマスバランス式は

$$(V1 \times S5 + V2 \times S7 + V3 \times (S1 + S2 + S6) + V4 \times S3 + V5 \times (S8 + S9) + V6 \times S4) \times 3600 = V7 \times S10 \times 3600$$

左辺と右辺の差を「Y」とすると

$$Y = (V1 \times S5 + V2 \times S7 + V3 \times (S1 + S2 + S6) + V4 \times S3 + V5 \times (S8 + S9) + V6 \times S4) \times 3600 - V7 \times S10 \times 3600$$

V1~V6は(6)~(11)により、Pの関数なので、「Y」がゼロになるようにPの値を調整する

V0 (m/s)	C1	C2	C3	C4	C5	ζ	ρ (kg/m³)		
1.32	0.80	-0.50	0.10	-0.50	-0.40	2.00	1.20		
S1 (m²)	S2 (m²)	S3 (m²)	S4 (m²)	S5 (m²)	S6 (m²)	S7 (m²)	S8 (m²)	S9 (m²)	S10 (m²)
2.075	0.000	0.340	0.370	0.010	0.230	1.124	0.001	0.000	0.500

P1 (Pa)	P2 (Pa)	P3 (Pa)	P4 (Pa)	P5 (Pa)	P6 (Pa)	P (Pa)
0.08557	-0.05348	0.010696	-0.05348	-0.04279	0	-0.07265

V1 (m/s)	V2 (m/s)	V3 (m/s)	V4 (m/s)	V5 (m/s)	V6 (m/s)	V7 (m/s)	Y (m³/h)
1.14	0.40	0.83	0.40	0.49	0.77	5.56	0.00
IN	IN	IN	IN	IN	IN	OUT(排気)	OK

※IN : 流入
OUT: 流出

漏洩率

0 m³/h

■ 週ごとの漏洩量評価（一例）

	9月1日			9月2日			9月3日			9月4日			9月5日			9月6日			9月7日		
	風速 (m/s)	時間 (hr)	漏洩率 (m3/h)	風速 (m/s)	時間 (hr)	漏洩率 (m3/h)	風速 (m/s)	時間 (hr)	漏洩率 (m3/h)	風速 (m/s)	時間 (hr)	漏洩率 (m3/h)	風速 (m/s)	時間 (hr)	漏洩率 (m3/h)	風速 (m/s)	時間 (hr)	漏洩率 (m3/h)	風速 (m/s)	時間 (hr)	漏洩率 (m3/h)
西風	0.7	1.2	0	0.8	1.5	0	0.6	1.7	0	0.7	1.3	0	0.6	0.7	0	0.8	0.5	0	0.0	0.0	0
西北西風	1.0	3.7	0	1.0	3.0	0	1.0	3.3	0	1.3	5.5	0	1.1	3.7	0	0.9	2.5	0	0.6	0.7	0
北西風	1.0	2.5	0	1.0	2.5	0	0.9	3.3	0	1.2	3.5	0	1.1	4.2	0	0.8	1.7	0	0.7	0.7	0
北北西風	1.3	2.8	0	1.7	3.5	0	1.5	2.2	0	1.7	2.5	0	0.8	2.2	0	1.3	0.8	0	1.1	2.3	0
北風	1.0	1.5	0	3.1	2.3	0	1.6	4.3	0	2.4	3.0	0	0.8	0.5	0	1.7	1.2	0	0.8	1.0	0
北北東風	0.0	0.0	0	2.7	2.7	0	2.1	0.3	0	2.7	5.3	0	0.9	0.2	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0
北東風	0.0	0.0	0	2.6	1.5	0	1.5	0.2	0	2.8	0.3	0	0.9	0.2	0	2.1	1.0	0	0.6	0.2	0
東北東風	1.6	0.8	0	2.8	4.7	0	1.5	0.5	0	0.0	0.0	0	1.8	2.0	0	2.2	1.5	0	0.0	0.0	0
東風	1.5	0.7	0	0.0	0.0	0	1.2	0.2	0	0.0	0.0	0	1.7	1.7	0	2.2	1.2	0	0.0	0.0	0
東南東風	1.6	0.3	0	0.0	0.0	0	1.2	0.2	0	0.0	0.0	0	2.1	2.2	0	2.5	0.7	0	1.2	0.2	0
南東風	2.2	3.2	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	2.2	2.2	0	2.6	0.8	1,320	2.0	2.0	0
南南東風	2.2	2.8	313	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	1.9	0.8	0	4.3	3.0	8,601	4.9	7.7	10,716
南風	1.9	0.8	0	0.0	0.0	0	0.7	0.2	0	0.0	0.0	0	1.9	1.0	0	3.0	3.2	1,035	3.9	6.0	4,313
南南西風	1.9	0.7	1,063	0.7	0.2	0	2.0	1.7	1,158	0.0	0.0	0	1.2	1.2	78	2.4	3.5	1,481	1.8	1.3	935
南西風	0.7	0.5	0	0.0	0.0	0	1.1	1.3	185	0.7	0.2	0	0.8	0.3	0	1.0	0.3	0	1.1	0.5	0
西南西風	0.6	0.8	0	0.8	0.7	0	0.7	0.3	0	0.7	1.2	0	0.5	0.2	0	0.6	0.2	0	0.5	0.2	0
漏洩日量 (m3)	1,596			0			2,176			0			91			35,366			109,278		

16方位毎の平均風速から漏洩率を前頁のように評価する。

■ 漏洩量合計

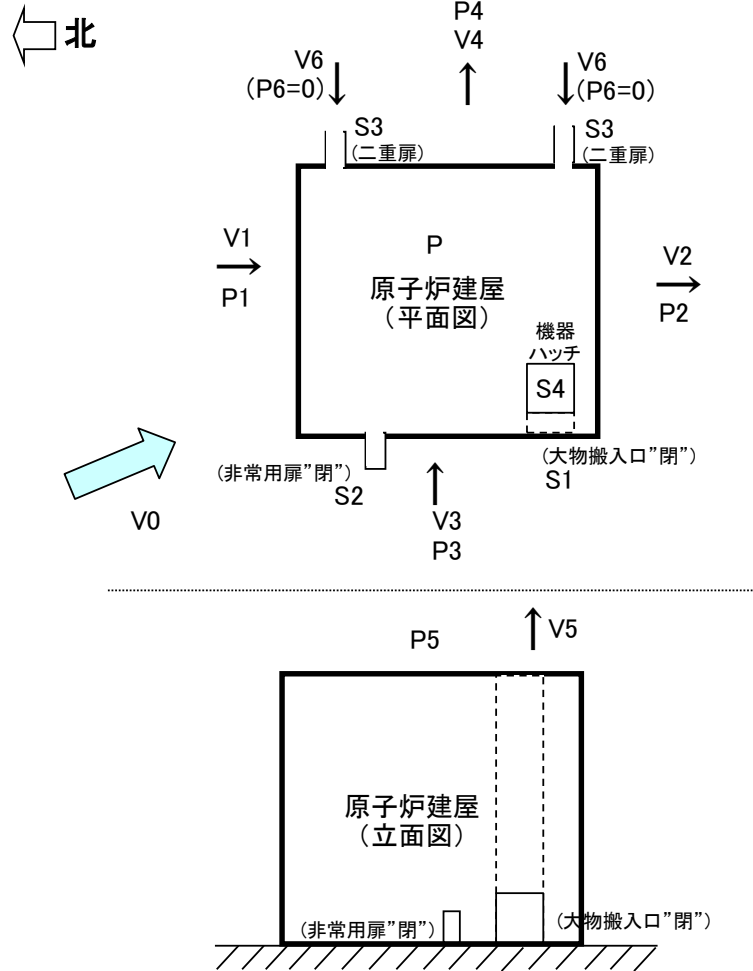
評価期間	9/1 ~ 9/7	9/8 ~ 9/14	9/15 ~ 9/21	9/22 ~ 9/28	9/29 ~ 9/30	漏洩量合計 (m³)	評価対象期間 (h)	漏洩率 (m³/h)
週間漏洩量 (m³)	148,507	231,901	69,950	181,666	10,119	642,143	720	892

評価方法

空気漏洩量は外部風速、建屋内外圧差、隙間面積などから計算で求める。

計算例

9月1日 北北西風 1.3m/s



- V0: 外気風速 (m/s)
- V1: 建屋流出入風速 (m/s)
- V2: 建屋流出入風速 (m/s)
- V3: 建屋流出入風速 (m/s)
- V4: 建屋流出入風速 (m/s)
- V5: 建屋流出入風速 (m/s)
- V6: 建屋流出入風速 (m/s)
- P1: 上流側圧力 (北) (Pa)
- P2: 下流側圧力 (南) (Pa)
- P3: 上流側圧力 (西) (Pa)
- P4: 下流側圧力 (東) (Pa)
- P5: 上面部圧力 (Pa)
- P6: T/B内圧力 (0Pa)
- P: 建屋内圧力 (Pa)
- S1: R/B大物搬入口面積 (m²)
- S2: R/B非常用扉開口面積 (m²)
- S3: R/B二重扉開口面積 (m²)
- S4: 機器ハッチ隙間面積 (m²)
- ρ : 空気密度 (kg/m³)
- C1: 風圧係数 (北)
- C2: 風圧係数 (南)
- C3: 風圧係数 (西)
- C4: 風圧係数 (東)
- C5: 風圧係数 (上面部)
- ζ : 形状抵抗係数

風速をVとすると、上流側、下流側の圧力は次のとおりとなる。

$$\text{上流側(北)} : P1 = C1 \times \rho \times V0^2 / (2g) \quad \dots (1)$$

$$\text{下流側(南)} : P2 = C2 \times \rho \times V0^2 / (2g) \quad \dots (2)$$

$$\text{上流側(西)} : P3 = C3 \times \rho \times V0^2 / (2g) \quad \dots (3)$$

$$\text{下流側(東)} : P4 = C4 \times \rho \times V0^2 / (2g) \quad \dots (4)$$

$$\text{上面部} : P5 = C5 \times \rho \times V0^2 / (2g) \quad \dots (5)$$

内圧をP、隙間部の抵抗係数をζとすると

$$P1 - P = \zeta \times \rho \times V1^2 / (2g) \quad \dots (6)$$

$$P - P2 = \zeta \times \rho \times V2^2 / (2g) \quad \dots (7)$$

$$P3 - P = \zeta \times \rho \times V3^2 / (2g) \quad \dots (8)$$

$$P - P4 = \zeta \times \rho \times V4^2 / (2g) \quad \dots (9)$$

$$P - P5 = \zeta \times \rho \times V5^2 / (2g) \quad \dots (10)$$

$$P6 - P = \zeta \times \rho \times V6^2 / (2g) \quad \dots (11)$$

空気流出入量のマスバランス式は

$$(V1 \times 0 + V3 \times (S1 + S2) + V6 \times S3) \times 3600 = (V2 \times 0 + V4 \times 0 + V5 \times S4) \times 3600$$

左辺と右辺の差を「Y」とすると

$$Y = (V1 \times 0 + V3 \times (S1 + S2) + V6 \times S3) \times 3600 - (V2 \times 0 + V4 \times 0 + V5 \times S4) \times 3600$$

V1～V6は(6)～(11)式により、Pの関数なので、「Y」がゼロになるように

Pの値を調整する

V0 (m/s)	C1	C2	C3	C4	C5	ζ	ρ (kg/m ³)
1.32	0.80	-0.50	0.10	-0.50	-0.40	2.00	1.20
S1 (m ²)	S2 (m ²)	S3 (m ²)	S4 (m ²)				
0.00	0.00	6.05	1.01				

P1 (Pa)	P2 (Pa)	P3 (Pa)	P4 (Pa)	P5 (Pa)	P6 (Pa)	P (Pa)
0.08557	-0.05348	0.010696	-0.05348	-0.04279	0	-0.00116

V1 (m/s)	V2 (m/s)	V3 (m/s)	V4 (m/s)	V5 (m/s)	V6 (m/s)	Y (m ³ /h)
0.84	0.65	0.31	0.65	0.58	0.10	0.00
IN	OUT	IN	OUT	OUT	IN	OK

※IN : 流入
OUT : 流出

■ 週ごとの漏洩量評価（一例）

	9月1日			9月2日			9月3日			9月4日			9月5日			9月6日			9月7日		
	風速 (m/s)	時間 (hr)	漏洩率 (m3/h)	風速 (m/s)	時間 (hr)	漏洩率 (m3/h)	風速 (m/s)	時間 (hr)	漏洩率 (m3/h)	風速 (m/s)	時間 (hr)	漏洩率 (m3/h)	風速 (m/s)	時間 (hr)	漏洩率 (m3/h)	風速 (m/s)	時間 (hr)	漏洩率 (m3/h)	風速 (m/s)	時間 (hr)	漏洩率 (m3/h)
西風	0.7	1.2	1,119	0.8	1.5	1,228	0.6	1.7	1,021	0.7	1.3	1,108	0.6	0.7	1,001	0.8	0.5	1,319	0.0	0.0	0
西北西風	1.0	3.7	1,627	1.0	3.0	1,662	1.0	3.3	1,533	1.3	5.5	2,109	1.1	3.7	1,834	0.9	2.5	1,474	0.6	0.7	1,028
北西風	1.0	2.5	1,645	1.0	2.5	1,645	0.9	3.3	1,511	1.2	3.5	1,910	1.1	4.2	1,705	0.8	1.7	1,353	0.7	0.7	1,128
北北西風	1.3	2.8	2,120	1.7	3.5	2,775	1.5	2.2	2,329	1.7	2.5	2,691	0.8	2.2	1,299	1.3	0.8	2,067	1.1	2.3	1,745
北風	1.0	1.5	1,639	3.1	2.3	5,050	1.6	4.3	2,620	2.4	3.0	3,814	0.8	0.5	1,343	1.7	1.2	2,767	0.8	1.0	1,233
北北東風	0.0	0.0	0	2.7	2.7	4,277	2.1	0.3	3,296	2.7	5.3	4,271	0.9	0.2	1,492	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0
北東風	0.0	0.0	0	2.6	1.5	4,219	1.5	0.2	2,418	2.8	0.3	4,439	0.9	0.2	1,431	2.1	1.0	3,380	0.6	0.2	914
東北東風	1.6	0.8	2,579	2.8	4.7	4,421	1.5	0.5	2,402	0.0	0.0	0	1.8	2.0	2,952	2.2	1.5	3,538	0.0	0.0	0
東風	1.5	0.7	2,373	0.0	0.0	0	1.2	0.2	1,997	0.0	0.0	0	1.7	1.7	2,720	2.2	1.2	3,461	0.0	0.0	0
東南東風	1.6	0.3	2,532	0.0	0.0	0	1.2	0.2	1,961	0.0	0.0	0	2.1	2.2	3,295	2.5	0.7	3,994	1.2	0.2	1,864
南東風	2.2	3.2	3,459	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	2.2	2.2	3,593	2.6	0.8	4,241	2.0	2.0	3,250
南南東風	2.2	2.8	3,597	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	1.9	0.8	3,000	4.3	3.0	6,931	4.9	7.7	7,839
南風	1.9	0.8	3,075	0.0	0.0	0	0.7	0.2	1,083	0.0	0.0	0	1.9	1.0	2,973	3.0	3.2	4,752	3.9	6.0	6,247
南南西風	1.9	0.7	3,073	0.7	0.2	1,071	2.0	1.7	3,241	0.0	0.0	0	1.2	1.2	1,914	2.4	3.5	3,848	1.8	1.3	2,860
南西風	0.7	0.5	1,143	0.0	0.0	0	1.1	1.3	1,815	0.7	0.2	1,083	0.8	0.3	1,299	1.0	0.3	1,564	1.1	0.5	1,732
西南西風	0.6	0.8	1,037	0.8	0.7	1,224	0.7	0.3	1,053	0.7	1.2	1,103	0.5	0.2	830	0.6	0.2	914	0.5	0.2	854
漏洩日量 (m3)	51,613			71,798			39,964			63,658			52,109			80,452			116,110		

16方位毎の平均風速から漏洩率を前頁のように評価する。

■ 漏洩量合計

評価期間	9/1 ~ 9/7	9/8 ~ 9/14	9/15 ~ 9/21	9/22 ~ 9/28	9/29 ~ 9/30	漏洩量合計 (m ³)	評価対象期間 (h)	漏洩率 (m ³ /h)
週間漏洩量 (m ³)	475,704	576,898	457,300	492,334	114,963	2,117,199	720	2,941

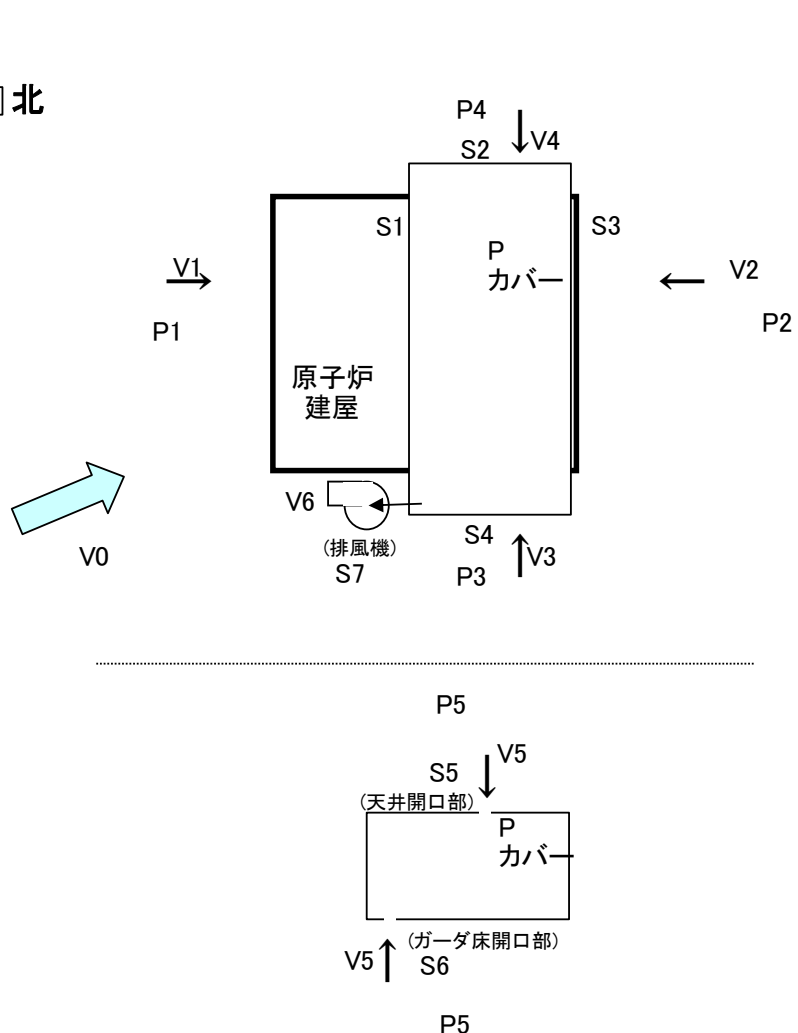
評価方法

空気漏洩量は外部風速、建屋内外圧差、隙間面積などから計算で求める。

計算例

9月1日

北北西風 1.3m/s



- V0: 外気風速 (m/s)
- V1: カバー内流出入風速 (m/s)
- V2: カバー内流出入風速 (m/s)
- V3: カバー内流出入風速 (m/s)
- V4: カバー内流出入風速 (m/s)
- V5: カバー内流出入風速 (m/s)
- V6: 排気風速 (m/s)
- P: カバー内圧力 (Pa)
- P1: 上流側圧力 (北) (Pa)
- P2: 下流側圧力 (南) (Pa)
- P3: 上流側圧力 (西) (Pa)
- P4: 下流側圧力 (東) (Pa)
- P5: 上下部圧力 (Pa)
- S1: カバー隙間面積 (m²)
- S2: カバー隙間面積 (m²)
- S3: カバー隙間面積 (m²)
- S4: カバー隙間面積 (m²)
- S5: カバー天井部隙間面積 (m²)
- S6: ガーダ床隙間面積 (m²)
- S7: 排気ダクト吸込口面積 (m²)
- ρ : 空気密度 (kg/m³)
- C1: 風圧係数 (風上側 (北))
- C2: 風圧係数 (風下側 (南))
- C3: 風圧係数 (風上側 (西))
- C4: 風圧係数 (風下側 (東))
- C5: 風圧係数 (上下部)
- ζ : 形状抵抗係数

風速をVとすると、上流側、下流側の圧力は次のとおりとなる。

- 上流側(北) : $P1=C1 \times \rho \times V0^2/(2g)$... (1)
- 下流側(南) : $P2=C2 \times \rho \times V0^2/(2g)$... (2)
- 上流側(西) : $P3=C3 \times \rho \times V0^2/(2g)$... (3)
- 下流側(東) : $P4=C4 \times \rho \times V0^2/(2g)$... (4)
- 上面部 : $P5=C5 \times \rho \times V0^2/(2g)$... (5)

内圧をP、隙間部の抵抗係数をζ とすると

- $P1-P=\zeta \times \rho \times V1^2/(2g)$... (6)
- $P2-P=\zeta \times \rho \times V2^2/(2g)$... (7)
- $P3-P=\zeta \times \rho \times V3^2/(2g)$... (8)
- $P4-P=\zeta \times \rho \times V4^2/(2g)$... (9)
- $P5-P=\zeta \times \rho \times V5^2/(2g)$... (10)

空気流入量のマスバランス式は

$$(V1 \times S1 + V2 \times S3 + V3 \times S4 + V4 \times S2 + V5 \times (S5 + S6)) \times 3600 = V6 \times S7 \times 3600$$

左辺と右辺の差を「Y」とすると

$$Y = (V1 \times S1 + V2 \times S3 + V3 \times S4 + V4 \times S2 + V5 \times (S5 + S6)) \times 3600 - V6 \times S7 \times 3600$$

V1, V2, V3, V4, V5は(6), (7), (8), (9), (10)式により、Pの関数なので、「Y」がゼロになるようにPの値を調整する

V0 (m/s)	C1	C2	C3	C4	C5	ζ	ρ (kg/m ³)
1.32	0.80	-0.50	0.10	-0.50	-0.40	2.00	1.20
S1 (m ²)	S2 (m ²)	S3 (m ²)	S4 (m ²)	S5 (m ²)	S6 (m ²)	S7 (m ²)	
2.56	0.41	2.56	0.41	0.36	4.47	4.76	

P1 (Pa)	P2 (Pa)	P3 (Pa)	P4 (Pa)	P5 (Pa)	P (Pa)
0.08557	-0.05348	0.010696	-0.05348	-0.04279	-0.0942

V1 (m/s)	V2 (m/s)	V3 (m/s)	V4 (m/s)	V5 (m/s)	V6 (m/s)	Y (m ³ /h)
1.21	0.58	0.93	0.58	0.65	1.75	0.00
IN	IN	IN	IN	IN	OUT(排気)	OK

※IN : 流入
OUT: 流出

漏洩量

0 m³/h

週ごとの漏洩量評価（一例）

	9月1日			9月2日			9月3日			9月4日			9月5日			9月6日			9月7日		
	風速 (m/s)	時間 (hr)	漏洩率 (m3/h)	風速 (m/s)	時間 (hr)	漏洩率 (m3/h)	風速 (m/s)	時間 (hr)	漏洩率 (m3/h)	風速 (m/s)	時間 (hr)	漏洩率 (m3/h)	風速 (m/s)	時間 (hr)	漏洩率 (m3/h)	風速 (m/s)	時間 (hr)	漏洩率 (m3/h)	風速 (m/s)	時間 (hr)	漏洩率 (m3/h)
西風	0.7	1.2	0	0.8	1.5	0	0.6	1.7	0	0.7	1.3	0	0.6	0.7	0	0.8	0.5	0	0.0	0.0	0
西北西風	1.0	3.7	0	1.0	3.0	0	1.0	3.3	0	1.3	5.5	0	1.1	3.7	0	0.9	2.5	0	0.6	0.7	0
北西風	1.0	2.5	0	1.0	2.5	0	0.9	3.3	0	1.2	3.5	0	1.1	4.2	0	0.8	1.7	0	0.7	0.7	0
北北西風	1.3	2.8	0	1.7	3.5	0	1.5	2.2	0	1.7	2.5	0	0.8	2.2	0	1.3	0.8	0	1.1	2.3	0
北風	1.0	1.5	0	3.1	2.3	0	1.6	4.3	0	2.4	3.0	0	0.8	0.5	0	1.7	1.2	0	0.8	1.0	0
北北東風	0.0	0.0	0	2.7	2.7	1,852	2.1	0.3	0	2.7	5.3	1,821	0.9	0.2	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0
北東風	0.0	0.0	0	2.6	1.5	0	1.5	0.2	0	2.8	0.3	1,037	0.9	0.2	0	2.1	1.0	0	0.6	0.2	0
東北東風	1.6	0.8	0	2.8	4.7	0	1.5	0.5	0	0.0	0.0	0	1.8	2.0	0	2.2	1.5	0	0.0	0.0	0
東風	1.5	0.7	0	0.0	0.0	0	1.2	0.2	0	0.0	0.0	0	1.7	1.7	0	2.2	1.2	0	0.0	0.0	0
東南東風	1.6	0.3	0	0.0	0.0	0	1.2	0.2	0	0.0	0.0	0	2.1	2.2	0	2.5	0.7	0	1.2	0.2	0
南東風	2.2	3.2	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	2.2	2.2	0	2.6	0.8	0	2.0	2.0	0
南南東風	2.2	2.8	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	1.9	0.8	0	4.3	3.0	9,780	4.9	7.7	11,568
南風	1.9	0.8	0	0.0	0.0	0	0.7	0.2	0	0.0	0.0	0	1.9	1.0	0	3.0	3.2	0	3.9	6.0	0
南南西風	1.9	0.7	0	0.7	0.2	0	2.0	1.7	0	0.0	0.0	0	1.2	1.2	0	2.4	3.5	0	1.8	1.3	0
南西風	0.7	0.5	0	0.0	0.0	0	1.1	1.3	0	0.7	0.2	0	0.8	0.3	0	1.0	0.3	0	1.1	0.5	0
西南西風	0.6	0.8	0	0.8	0.7	0	0.7	0.3	0	0.7	1.2	0	0.5	0.2	0	0.6	0.2	0	0.5	0.2	0
漏洩日量 (m3)	0			4,939			0			10,058			0			29,341			88,685		

16方位毎の平均風速から漏洩率を前頁のように評価する。

漏洩量合計

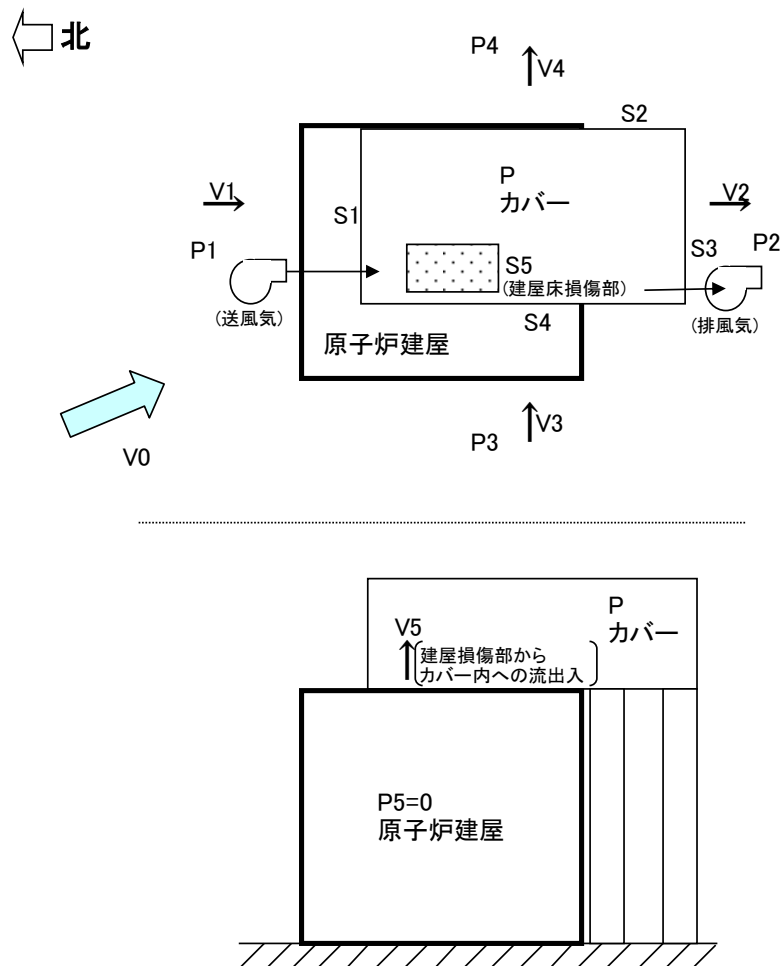
評価期間	9/1 ~ 9/7	9/8 ~ 9/14	9/15 ~ 9/21	9/22 ~ 9/28	9/29 ~ 9/30	漏洩量合計 (m ³)	評価対象期間 (h)	漏洩率 (m ³ /h)
週間漏洩量 (m ³)	133,023	374,067	43,479	130,955	10,068	691,591	720	961

■ 評価方法

空気漏洩量は外部風速、建屋内外圧差、隙間面積などから計算で求める。

■ 計算例

9月1日 北北西風 1.3m/s



- V0: 外気風速 (m/s)
- V1: カバー内流出入風速 (m/s)
- V2: カバー内流出入風速 (m/s)
- V3: カバー内流出入風速 (m/s)
- V4: カバー内流出入風速 (m/s)
- V5: カバー内流出入風速 (m/s)
- P: カバー内圧力 (Pa)
- P1: 上流側圧力 (北風) (Pa)
- P2: 下流側圧力 (北風) (Pa)
- P3: 上流側圧力 (西風) (Pa)
- P4: 下流側圧力 (西風) (Pa)
- P5: R/B内圧力 (0Pa)
- S1: カバー隙間面積 (m²)
- S2: カバー隙間面積 (m²)
- S3: カバー隙間面積 (m²)
- S4: カバー隙間面積 (m²)
- S5: 建屋床損傷部隙間面積 (m²)
- ρ: 空気密度 (kg/m³)
- C1: 風圧係数 (北風上側)
- C2: 風圧係数 (北風下側)
- C3: 風圧係数 (西風上側)
- C4: 風圧係数 (西風下側)
- ζ: 形状抵抗係数

風速をVとすると、上流側、下流側の圧力は次のとおりとなる。

- 上流側(北風): $P1=C1 \times \rho \times V0^2/(2g) \dots (1)$
- 下流側(北風): $P2=C2 \times \rho \times V0^2/(2g) \dots (2)$
- 上流側(西風): $P3=C3 \times \rho \times V0^2/(2g) \dots (3)$
- 下流側(西風): $P4=C4 \times \rho \times V0^2/(2g) \dots (4)$

内圧をP、隙間部の抵抗係数をζとすると

- $P1-P=\zeta \times \rho \times V1^2/(2g) \dots (5)$
- $P-P2=\zeta \times \rho \times V2^2/(2g) \dots (6)$
- $P3-P=\zeta \times \rho \times V3^2/(2g) \dots (7)$
- $P-P4=\zeta \times \rho \times V4^2/(2g) \dots (8)$
- $P5-P=\zeta \times \rho \times V5^2/(2g) \dots (9)$

空気流入量のマスバランス式は

$$(V1 \times S1 + V3 \times S4 + V5 \times S5) \times 3600 = (V2 \times S3 + V4 \times S2) \times 3600$$

左辺と右辺の差を「Y」とすると

$$Y = (V1 \times S1 + V3 \times S4 + V5 \times S5) \times 3600 - (V2 \times S3 + V4 \times S2) \times 3600$$

V1, V2, V3, V4, V5は(5), (6), (7), (8), (9)式により、Pの関数なので、「Y」がゼロになるようにPの値を調整する

V0 (m/s)	C1	C2	C3	C4	ζ	ρ (kg/m ³)
1.32	0.80	-0.50	0.10	-0.50	2.00	1.20
S1 (m ²)	S2 (m ²)	S3 (m ²)	S4 (m ²)	S5 (m ²)		
0.44	0.81	0.46	0.81	4.00		

P1 (Pa)	P2 (Pa)	P3 (Pa)	P4 (Pa)	P5 (Pa)	P (Pa)
0.08557	-0.05348	0.010696	-0.05348	0	-0.00037

V1 (m/s)	V2 (m/s)	V3 (m/s)	V4 (m/s)	V5 (m/s)	Y (m ³ /h)
0.84	0.66	0.30	0.66	0.05	0.00
IN	OUT	IN	OUT	IN	OK

※IN : 流入
OUT : 流出

漏洩率

2,992 m³/h

週ごとの漏洩量評価（一例）

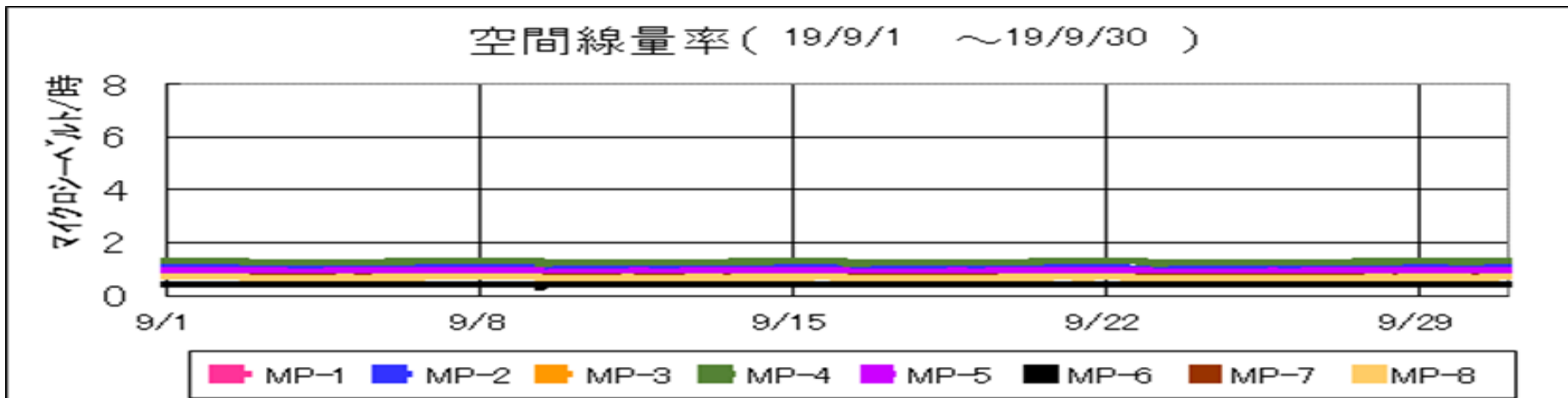
	9月1日			9月2日			9月3日			9月4日			9月5日			9月6日			9月7日		
	風速 (m/s)	時間 (hr)	漏洩率 (m3/h)	風速 (m/s)	時間 (hr)	漏洩率 (m3/h)	風速 (m/s)	時間 (hr)	漏洩率 (m3/h)	風速 (m/s)	時間 (hr)	漏洩率 (m3/h)	風速 (m/s)	時間 (hr)	漏洩率 (m3/h)	風速 (m/s)	時間 (hr)	漏洩率 (m3/h)	風速 (m/s)	時間 (hr)	漏洩率 (m3/h)
西風	0.7	1.2	1,896	0.8	1.5	2,081	0.6	1.7	1,731	0.7	1.3	1,878	0.6	0.7	1,697	0.8	0.5	2,235	0.0	0.0	0
西北西風	1.0	3.7	2,304	1.0	3.0	2,354	1.0	3.3	2,171	1.3	5.5	2,987	1.1	3.7	2,597	0.9	2.5	2,087	0.6	0.7	1,457
北西風	1.0	2.5	2,329	1.0	2.5	2,329	0.9	3.3	2,139	1.2	3.5	2,705	1.1	4.2	2,415	0.8	1.7	1,916	0.7	0.7	1,597
北北西風	1.3	2.8	2,992	1.7	3.5	3,917	1.5	2.2	3,287	1.7	2.5	3,799	0.8	2.2	1,834	1.3	0.8	2,917	1.1	2.3	2,463
北風	1.0	1.5	3,212	3.1	2.3	9,900	1.6	4.3	5,137	2.4	3.0	7,476	0.8	0.5	2,633	1.7	1.2	5,423	0.8	1.0	2,417
北北東風	0.0	0.0	0	2.7	2.7	6,037	2.1	0.3	4,652	2.7	5.3	6,028	0.9	0.2	2,105	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0
北東風	0.0	0.0	0	2.6	1.5	5,975	1.5	0.2	3,424	2.8	0.3	6,285	0.9	0.2	2,027	2.1	1.0	4,786	0.6	0.2	1,295
東北東風	1.6	0.8	3,652	2.8	4.7	6,261	1.5	0.5	3,401	0.0	0.0	0	1.8	2.0	4,181	2.2	1.5	5,010	0.0	0.0	0
東風	1.5	0.7	4,021	0.0	0.0	0	1.2	0.2	3,384	0.0	0.0	0	1.7	1.7	4,609	2.2	1.2	5,865	0.0	0.0	0
東南東風	1.6	0.3	3,544	0.0	0.0	0	1.2	0.2	2,744	0.0	0.0	0	2.1	2.2	4,611	2.5	0.7	5,589	1.2	0.2	2,609
南東風	2.2	3.2	4,840	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	2.2	2.2	5,028	2.6	0.8	5,935	2.0	2.0	4,548
南南東風	2.2	2.8	5,020	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	1.9	0.8	4,187	4.3	3.0	9,672	4.9	7.7	10,940
南風	1.9	0.8	5,999	0.0	0.0	0	0.7	0.2	2,112	0.0	0.0	0	1.9	1.0	5,801	3.0	3.2	9,273	3.9	6.0	12,190
南南西風	1.9	0.7	4,289	0.7	0.2	1,494	2.0	1.7	4,522	0.0	0.0	0	1.2	1.2	2,672	2.4	3.5	5,370	1.8	1.3	3,991
南西風	0.7	0.5	1,599	0.0	0.0	0	1.1	1.3	2,540	0.7	0.2	1,515	0.8	0.3	1,818	1.0	0.3	2,188	1.1	0.5	2,424
西南西風	0.6	0.8	1,451	0.8	0.7	1,713	0.7	0.3	1,473	0.7	1.2	1,544	0.5	0.2	1,162	0.6	0.2	1,279	0.5	0.2	1,195
漏洩日量 (m3)	76,104			108,488			63,245			96,625			76,829			124,224			183,696		

16方位毎の平均風速から漏洩率を前頁のように評価する。

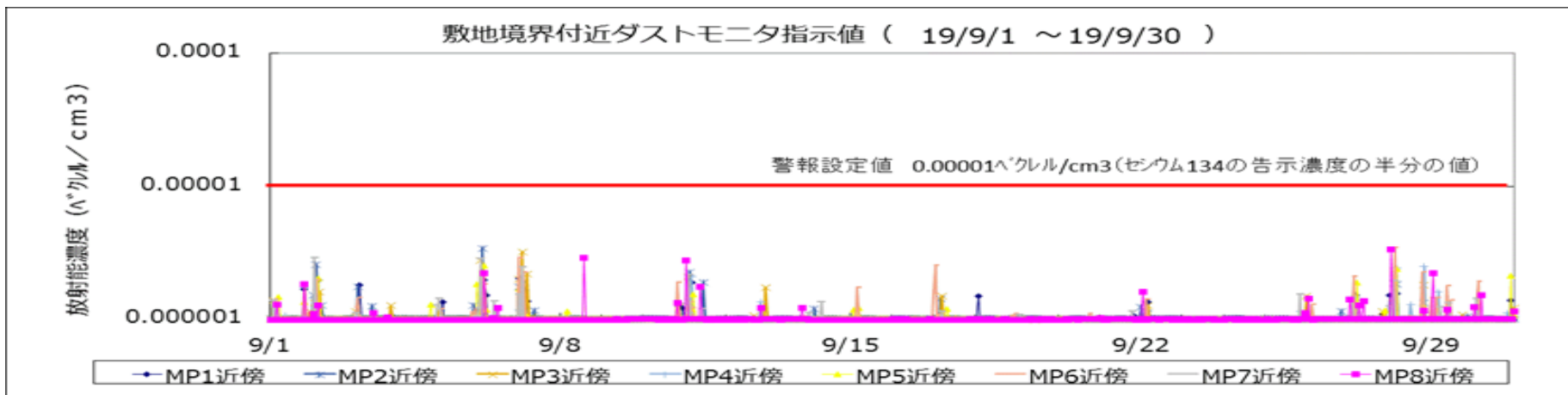
漏洩量合計

評価期間	9/1 ~ 9/7	9/8 ~ 9/14	9/15 ~ 9/21	9/22 ~ 9/28	9/29 ~ 9/30	漏洩量合計 (m ³)	評価対象期間 (h)	漏洩率 (m ³ /h)
週間漏洩量 (m ³)	729,211	872,126	688,595	741,998	176,361	3,208,291	720	4,456

- 低いレベルで安定。



- 大きな上昇はなく、低濃度で安定。



福島第一原子力発電所 1号機原子炉格納容器ガス管理システムの気体のサンプリング結果

採取場所	1号機原子炉格納容器ガス管理システム出口			
試料形態	粒子状フィルタ		チャコールフィルタ	
試料採取日時刻	2019年9月2日 8:15~8:55		2019年9月2日 8:15~8:55	
検出核種 (半減期)	試料濃度 (Bq/cm ³)	検出限界濃度 (Bq/cm ³)	試料濃度 (Bq/cm ³)	検出限界濃度 (Bq/cm ³)
I-131 (約8日)	ND	1.4E-06	ND	7.8E-07
Cs-134 (約2年)	ND	1.7E-06	ND	6.5E-07
Cs-137 (約30年)	ND	1.4E-06	ND	9.1E-07

- ※ 〇.〇E-〇とは、〇.〇×10^{-〇}と同じ意味である。
 ※ 本分析における放射能濃度の検出限界値を下回る場合は、「ND」と記載。
 本サンプリングは、セシウムおよびヨウ素の核種分析結果を対象としている。

福島第一原子力発電所 1号機原子炉建屋上部における空气中放射性物質の核種分析結果

採取場所	1号機原子炉建屋 原子炉ウエル上部 南側		1号機原子炉建屋 原子炉ウエル上部 北西側		1号機原子炉建屋 原子炉ウエル上部 北側		1号機原子炉建屋 機器ハッチオペフロ階		②告示濃度限度* (Bq/cm ³)
試料採取日時刻	2019年9月2日 9:00~9:30		2019年9月2日 10:00~10:30		2019年9月2日 10:40~11:10		2019年9月2日 8:20~8:50		
検出核種 (半減期)	①試料濃度 ^{※1} (Bq/cm ³)	倍率 (①/②)	①試料濃度 ^{※1} (Bq/cm ³)	倍率 (①/②)	①試料濃度 ^{※1} (Bq/cm ³)	倍率 (①/②)	①試料濃度 ^{※2} (Bq/cm ³)	倍率 (①/②)	
I-131 (約8日)	ND	-	ND	-	ND	-	ND	-	1E-03
Cs-134 (約2年)	ND	-	ND	-	ND	-	ND	-	2E-03
Cs-137 (約30年)	2.1E-07	0.00	ND	-	2.2E-07	0.00	1.4E-06	0.00	3E-03

* 東京電力株式会社福島第一原子力発電所原子炉施設の保安及び特定核燃料物質の防護に関する規則に定める告示濃度限度
(別表第1第四欄：放射線業務従事者の呼吸する空气中的濃度限度)

※1 試料濃度は、揮発性と粒子状の合計値。

※2 試料濃度は、粒子状のみ。

※ 〇.〇E-〇とは、〇.〇×10^{-〇}と同じ意味である。

※ 二種類以上の核種がある場合は、それぞれの濃度限度に対する倍率の総和を1と比較する。

※ 本分析における放射能濃度の検出限界値を下回る場合は、「ND」と記載 □
検出限界値は次の通り。□

揮発性のI-131が約1E-7Bq/cm³、Cs-134が約1E-7Bq/cm³、Cs-137が約1E-7Bq/cm³

粒子状のI-131が約2E-7Bq/cm³、Cs-134が約1E-7Bq/cm³、Cs-137が約1E-7Bq/cm³

ただし、検出限界値は検出器や試料性状により異なるため、この値以下でも検出される場合もある。 □

福島第一原子力発電所 2号機原子炉格納容器ガス管理システムの気体のサンプリング結果

採取場所	2号機原子炉格納容器ガス管理システム出口			
試料形態	粒子状フィルタ		チャコールフィルタ	
試料採取日時刻	2019年9月3日 9:35~9:45		2019年9月3日 9:45~10:15	
検出核種 (半減期)	試料濃度 (Bq/cm ³)	検出限界濃度 (Bq/cm ³)	試料濃度 (Bq/cm ³)	検出限界濃度 (Bq/cm ³)
I-131 (約8日)	ND	8.1E-07	ND	8.4E-07
Cs-134 (約2年)	ND	1.0E-06	ND	8.5E-07
Cs-137 (約30年)	ND	8.9E-07	ND	8.7E-07

※ 〇.〇E-〇とは、〇.〇×10^{-〇}と同じ意味である。

※ 本分析における放射能濃度の検出限界値を下回る場合は、「ND」と記載。
本サンプリングは、セシウムおよびヨウ素の核種分析結果を対象としている。

福島第一原子力発電所 2号機原子炉建屋排気設備における空气中放射性物質の核種分析結果 (1/2)

採取場所	2号機原子炉建屋排気設備 (排気フィルタ入口)		2号機原子炉建屋排気設備 (排気フィルタ出口)		②告示濃度限度* (Bq/cm ³)
試料採取日時	2019年9月10日 6:30~8:30		2019年9月10日 6:45~8:45		
検出核種 (半減期)	①試料濃度 (Bq/cm ³)	倍率 (①/②)	①試料濃度 (Bq/cm ³)	倍率 (①/②)	
I-131 (約8日)	ND	-	ND	-	1E-03
Cs-134 (約2年)	ND	-	ND	-	2E-03
Cs-137 (約30年)	1.3E-06	0.00	ND	-	3E-03

* 東京電力株式会社福島第一原子力発電所原子炉施設の保安及び特定核燃料物質の防護に関する規則に定める告示濃度限度
(別表第1第四欄：放射線業務従事者の呼吸する空气中の濃度限度)

※ 試料濃度は、揮発性と粒子状の合計値。

※ 〇.〇E-〇とは、〇.〇×10^{-〇}と同じ意味である。

※ 二種類以上の核種がある場合は、それぞれの濃度限度に対する倍率の総和を1と比較する。

※ 本分析における放射能濃度の検出限界値を下回る場合は、「ND」と記載 □
検出限界値は次の通り。□

揮発性のI-131が約1E-7Bq/cm³、Cs-134が約1E-7Bq/cm³、Cs-137が約1E-7Bq/cm³

粒子状のI-131が約3E-7Bq/cm³、Cs-134が約4E-7Bq/cm³、Cs-137が約9E-8Bq/cm³

ただし、検出限界値は検出器や試料性状により異なるため、この値以下でも検出される場合もある。 □

※ 今回の分析結果は、オペレーティングフロアにおける残置物撤去作業を実施していない期間中の分析結果である。

福島第一原子力発電所 2号機原子炉建屋排気設備における空气中放射性物質の核種分析結果(2/2)

採取場所	2号機原子炉建屋排気設備 (排気フィルタ入口)		2号機原子炉建屋排気設備 (排気フィルタ出口)		②告示濃度限度* (Bq/cm ³)
試料採取日時	2019年9月17日 11:10~12:10		2019年9月17日 11:15~12:15		
検出核種 (半減期)	①試料濃度 (Bq/cm ³)	倍率 (①/②)	①試料濃度 (Bq/cm ³)	倍率 (①/②)	
I-131 (約8日)	ND	-	ND	-	1E-03
Cs-134 (約2年)	6.8E-06	0.00	ND	-	2E-03
Cs-137 (約30年)	8.8E-05	0.03	ND	-	3E-03

* 東京電力株式会社福島第一原子力発電所原子炉施設の保安及び特定核燃料物質の防護に関する規則に定める告示濃度限度
(別表第1第四欄：放射線業務従事者の呼吸する空气中の濃度限度)

※ 試料濃度は、揮発性と粒子状の合計値。

※ 〇.〇E-〇とは、〇.〇×10^{-〇}と同じ意味である。

※ 二種類以上の核種がある場合は、それぞれの濃度限度に対する倍率の総和を1と比較する。

※ 本分析における放射能濃度の検出限界値を下回る場合は、「ND」と記載 □
検出限界値は次の通り。□

揮発性のI-131が約1E-7Bq/cm³、Cs-134が約9E-8Bq/cm³、Cs-137が約1E-7Bq/cm³

粒子状のI-131が約1E-6Bq/cm³、Cs-134が約8E-8Bq/cm³、Cs-137が約1E-7Bq/cm³

ただし、検出限界値は検出器や試料性状により異なるため、この値以下でも検出される場合もある。 □

※ 今回の分析結果は、オペレーティングフロアにおける残置物撤去作業中の分析結果である。

福島第一原子力発電所 3号機原子炉格納容器ガス管理システムの気体のサンプリング結果

採取場所	3号機原子炉格納容器ガス管理システム出口			
試料形態	粒子状フィルタ		チャコールフィルタ	
試料採取日時刻	2019年9月12日 11:10~11:20		2019年9月12日 11:20~11:50	
検出核種 (半減期)	試料濃度 (Bq/cm ³)	検出限界濃度 (Bq/cm ³)	試料濃度 (Bq/cm ³)	検出限界濃度 (Bq/cm ³)
I-131 (約8日)	ND	7.4E-07	ND	7.7E-07
Cs-134 (約2年)	ND	8.4E-07	ND	8.0E-07
Cs-137 (約30年)	ND	9.5E-07	ND	7.7E-07

- ※ 〇.〇E-〇とは、〇.〇×10^{-〇}と同じ意味である。
- ※ 本分析における放射能濃度の検出限界値を下回る場合は、「ND」と記載。
本サンプリングは、セシウムおよびヨウ素の核種分析結果を対象としている。

福島第一原子力発電所 3号機原子炉建屋上部における空气中放射性物質の核種分析結果<1/2>

採取場所	3号機原子炉建屋上部 (原子炉上南側)		3号機原子炉建屋上部 (機器ハッチ開口部)		②告示濃度限度* (Bq/cm ³)
試料採取日時刻	2019年9月11日 9:05~9:35		2019年9月11日 9:45~10:45		
検出核種 (半減期)	①試料濃度 (Bq/cm ³)	倍率 (①/②)	①試料濃度 (Bq/cm ³)	倍率 (①/②)	
I-131 (約8日)	ND	-	ND	-	1E-03
Cs-134 (約2年)	1.8E-07	0.00	ND	-	2E-03
Cs-137 (約30年)	2.8E-06	0.00	ND	-	3E-03

* 東京電力株式会社福島第一原子力発電所原子炉施設の保安及び特定核燃料物質の防護に関する規則に定める告示濃度限度

(別表第1第四欄：放射線業務従事者の呼吸する空气中的濃度限度)

※ 試料濃度は、揮発性と粒子状の合計値。

※ 〇.〇E-〇とは、〇.〇×10^{-〇}と同じ意味である。

※ 二種類以上の核種がある場合は、それぞれの濃度限度に対する倍率の総和を1と比較する。

※ 本分析における放射能濃度の検出限界値を下回る場合は、「ND」と記載。

検出限界値は次の通り。

揮発性のI-131が約1E-7Bq/cm³、Cs-134が約1E-7Bq/cm³、Cs-137が約1E-7Bq/cm³

粒子状のI-131が約1E-7Bq/cm³、Cs-134が約1E-7Bq/cm³、Cs-137が約1E-7Bq/cm³

ただし、検出限界値は検出器や試料性状により異なるため、この値以下でも検出される場合もある。

福島第一原子力発電所 3号機原子炉建屋上部における空气中放射性物質の核種分析結果<2/2>

採取場所	3号機建屋開口部 燃料取出し用カバー排気設備出口		3号機建屋開口部 燃料取出し用カバー排気設備入口		②告示濃度限度* (Bq/cm ³)
試料採取日時刻	2019年9月11日 7:40~10:40		2019年9月11日 7:50~10:50		
検出核種 (半減期)	①試料濃度 (Bq/cm ³)	倍率 (①/②)	①試料濃度 (Bq/cm ³)	倍率 (①/②)	
I-131 (約8日)	ND	-	ND	-	1E-03
Cs-134 (約2年)	ND	-	ND	-	2E-03
Cs-137 (約30年)	ND	-	2.4E-07	0.00	3E-03

* 東京電力株式会社福島第一原子力発電所原子炉施設の保安及び特定核燃料物質の防護に関する規則に定める告示濃度限度

(別表第1第四欄：放射線業務従事者の呼吸する空气中的濃度限度)

※ 試料濃度は、揮発性と粒子状の合計値。

※ 〇.〇E-〇とは、〇.〇×10^{-〇}と同じ意味である。

※ 二種類以上の核種がある場合は、それぞれの濃度限度に対する倍率の総和を1と比較する。

※ 本分析における放射能濃度の検出限界値を下回る場合は、「ND」と記載。

検出限界値は次の通り。

揮発性のI-131が約1E-7Bq/cm³、Cs-134が約1E-7Bq/cm³、Cs-137が約1E-7Bq/cm³

粒子状のI-131が約8E-8Bq/cm³、Cs-134が約1E-7Bq/cm³、Cs-137が約8E-8Bq/cm³

ただし、検出限界値は検出器や試料性状により異なるため、この値以下でも検出される場合もある。

福島第一原子力発電所 4号機原子炉建屋上部における空气中放射性物質の核種分析結果

採取場所	4号機原子炉建屋 (排気フィルタ出口)		4号機原子炉建屋 (SFP近傍)		4号機原子炉建屋 (チェンジング近傍)		4号機原子炉建屋 (排気フィルタ入口)		②告示濃度限度* (Bq/cm ³)
試料採取日時刻	2019年9月13日 8:48~11:48		2019年9月13日 9:03~10:03		2019年9月13日 5:12~6:12		2019年9月13日 6:13~7:13		
検出核種 (半減期)	①試料濃度 ^{※1} (Bq/cm ³)	倍率 (①/②)	①試料濃度 ^{※1} (Bq/cm ³)	倍率 (①/②)	①試料濃度 ^{※2} (Bq/cm ³)	倍率 (①/②)	①試料濃度 ^{※2} (Bq/cm ³)	倍率 (①/②)	
I-131 (約8日)	ND	-	ND	-	ND	-	ND	-	1E-03
Cs-134 (約2年)	ND	-	ND	-	ND	-	ND	-	2E-03
Cs-137 (約30年)	ND	-	ND	-	ND	-	ND	-	3E-03

* 東京電力株式会社福島第一原子力発電所原子炉施設の保安及び特定核燃料物質の防護に関する規則に定める告示濃度限度
(別表第1第四欄：放射線業務従事者の呼吸する空气中の濃度限度)

※1 試料濃度は、揮発性と粒子状の合計値。

※2 試料濃度は、粒子状のみ。

※ O.OE-Oとは、O.O×10^{-O}と同じ意味である。

※ 二種類以上の核種がある場合は、それぞれの濃度限度に対する倍率の総和を1と比較する。

※ 本分析における放射能濃度の検出限界値を下回る場合は、「ND」と記載。

検出限界値は次の通り。□

揮発性のI-131が約1E-7Bq/cm³、Cs-134が約1E-7Bq/cm³、Cs-137が約1E-7Bq/cm³

粒子状のI-131が約2E-7Bq/cm³、Cs-134が約1E-7Bq/cm³、Cs-137が約1E-7Bq/cm³

ただし、検出限界値は検出器や試料性状により異なるため、この値以下でも検出される場合もある。

福島第一原子力発電所 建屋開口部における空气中放射性物質の核種分析結果<1/4>

採取場所	1号機タービン建屋開口部 (タービン建屋大物搬入口)		2号機タービン建屋開口部 (タービン建屋大物搬入口)		3号機タービン建屋開口部 (タービン建屋大物搬入口)		②告示濃度限度* (Bq/cm ³)
試料採取日時刻	2019年9月8日 9:13~10:13		/		2019年9月8日 9:06~10:06		
検出核種 (半減期)	①試料濃度 (Bq/cm ³)	倍率 (①/②)	①試料濃度 (Bq/cm ³)	倍率 (①/②)	①試料濃度 (Bq/cm ³)	倍率 (①/②)	
I-131 (約8日)	ND	-	/		ND	-	1E-03
Cs-134 (約2年)	ND	-	/		ND	-	2E-03
Cs-137 (約30年)	ND	-	/		ND	-	3E-03

* 東京電力株式会社福島第一原子力発電所原子炉施設の保安及び特定核燃料物質の防護に関する規則に定める告示濃度限度

(別表第1第四欄：放射線業務従事者の呼吸する空气中の濃度限度)

※ 試料濃度は、揮発性と粒子状の合計値。

※ ○.○E-○とは、○.○×10^{-○}と同じ意味である。

※ 二種類以上の核種がある場合は、それぞれの濃度限度に対する倍率の総和を1と比較する。

※ 本分析における放射能濃度の検出限界値を下回る場合は、「ND」と記載。

検出限界値は次の通り。

揮発性のI-131が約4E-6Bq/cm³、Cs-134が約4E-6Bq/cm³、Cs-137が約5E-6Bq/cm³

粒子状のI-131が約1E-6Bq/cm³、Cs-134が約1E-6Bq/cm³、Cs-137が約1E-6Bq/cm³

ただし、検出限界値は検出器や試料性状により異なるため、この値以下でも検出される場合もある。

福島第一原子力発電所 建屋開口部における空气中放射性物質の核種分析結果<2/4>

採取場所	1号機廃棄物処理建屋 (西側開口部)		2号機廃棄物処理建屋 (西側開口部)		3号機廃棄物処理建屋 (西側開口部)		②告示濃度限度* (Bq/cm ³)
試料採取日時刻	2019年9月8日 7:15~8:15		2019年9月8日 7:16~8:16		2019年9月11日 7:40~8:40		
検出核種 (半減期)	①試料濃度 (Bq/cm ³)	倍率 (①/②)	①試料濃度 (Bq/cm ³)	倍率 (①/②)	①試料濃度 (Bq/cm ³)	倍率 (①/②)	
I-131 (約8日)	ND	-	ND	-	ND	-	1E-03
Cs-134 (約2年)	ND	-	ND	-	ND	-	2E-03
Cs-137 (約30年)	ND	-	ND	-	ND	-	3E-03

* 東京電力株式会社福島第一原子力発電所原子炉施設の保安及び特定核燃料物質の防護に関する規則に定める告示濃度限度
(別表第1第四欄：放射線業務従事者の呼吸する空气中の濃度限度)

※ 試料濃度は、揮発性と粒子状の合計値。

※ O.OE-Oとは、O.O×10^{-O}と同じ意味である。

※ 二種類以上の核種がある場合は、それぞれの濃度限度に対する倍率の総和を1と比較する。

※ 本分析における放射能濃度の検出限界値を下回る場合は、「ND」と記載。

検出限界値は次の通り。

揮発性のI-131が約4E-6Bq/cm³、Cs-134が約4E-6Bq/cm³、Cs-137が約5E-6Bq/cm³

粒子状のI-131が約1E-6Bq/cm³、Cs-134が約2E-6Bq/cm³、Cs-137が約1E-6Bq/cm³

ただし、検出限界値は検出器や試料性状により異なるため、この値以下でも検出される場合もある。

福島第一原子力発電所 建屋開口部における空气中放射性物質の核種分析結果<3/4>

採取場所	4号機廃棄物処理建屋 (北西側開口部)		4号機原子炉建屋開口部 (原子炉建屋大物搬入口)		プロセス主建屋 (4階大物搬入口)		②告示濃度限度* (Bq/cm ³)
試料採取日時刻	2019年9月8日 7:23~8:23		2019年9月8日 7:27~8:27		2019年9月8日 8:57~9:57		
検出核種 (半減期)	①試料濃度 (Bq/cm ³)	倍率 (①/②)	①試料濃度 (Bq/cm ³)	倍率 (①/②)	①試料濃度 (Bq/cm ³)	倍率 (①/②)	
I-131 (約8日)	ND	-	ND	-	ND	-	1E-03
Cs-134 (約2年)	ND	-	ND	-	ND	-	2E-03
Cs-137 (約30年)	ND	-	ND	-	ND	-	3E-03

* 東京電力株式会社福島第一原子力発電所原子炉施設の保安及び特定核燃料物質の防護に関する規則に定める告示濃度限度

(別表第1第四欄：放射線業務従事者の呼吸する空气中の濃度限度)

※ 試料濃度は、揮発性と粒子状の合計値。

※ O.OE-Oとは、O.O×10^{-O}と同じ意味である。

※ 二種類以上の核種がある場合は、それぞれの濃度限度に対する倍率の総和を1と比較する。

※ 本分析における放射能濃度の検出限界値を下回る場合は、「ND」と記載。

検出限界値は次の通り。

揮発性のI-131が約4E-6Bq/cm³、Cs-134が約5E-6Bq/cm³、Cs-137が約5E-6Bq/cm³

粒子状のI-131が約2E-6Bq/cm³、Cs-134が約1E-6Bq/cm³、Cs-137が約1E-6Bq/cm³

ただし、検出限界値は検出器や試料性状により異なるため、この値以下でも検出される場合もある。

福島第一原子力発電所 建屋開口部における空气中放射性物質の核種分析結果<4/4>

採取場所	焼却工作建屋開口部 (南西側開口部)		サイトバンカ建屋開口部 (サイトバンカ建屋大物搬入口)				②告示濃度限度* (Bq/cm ³)
	①試料濃度 (Bq/cm ³)	倍率 (①/②)	①試料濃度 (Bq/cm ³)	倍率 (①/②)			
試料採取日時刻	2019年9月8日 7:33~8:33		2019年9月8日 9:01~10:01				
検出核種 (半減期)	①試料濃度 (Bq/cm ³)	倍率 (①/②)	①試料濃度 (Bq/cm ³)	倍率 (①/②)	①試料濃度 (Bq/cm ³)	倍率 (①/②)	
I-131 (約8日)	ND	-	ND	-			1E-03
Cs-134 (約2年)	ND	-	ND	-			2E-03
Cs-137 (約30年)	ND	-	ND	-			3E-03

* 東京電力株式会社福島第一原子力発電所原子炉施設の保安及び特定核燃料物質の防護に関する規則に定める告示濃度限度

(別表第1第四欄：放射線業務従事者の呼吸する空气中の濃度限度)

※ 試料濃度は、揮発性と粒子状の合計値。

※ ○.○E-○とは、○.○×10^{-○}と同じ意味である。

※ 二種類以上の核種がある場合は、それぞれの濃度限度に対する倍率の総和を1と比較する。

※ 本分析における放射能濃度の検出限界値を下回る場合は、「ND」と記載。

検出限界値は次の通り。

揮発性のI-131が約4E-6Bq/cm³、Cs-134が約6E-6Bq/cm³、Cs-137が約5E-6Bq/cm³

粒子状のI-131が約1E-6Bq/cm³、Cs-134が約1E-6Bq/cm³、Cs-137が約9E-7Bq/cm³

ただし、検出限界値は検出器や試料性状により異なるため、この値以下でも検出される場合もある。

福島第一原子力発電所構内の線量状況について

2019/10/29

TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社

1. 概要

福島第一原子力発電所構内の作業環境を改善するために、多くの作業員が働くエリアから、順次、表土除去、天地返し、遮へい等による線量低減を実施した。

これまで線量低減を終えたエリアについて、定期的に線量状況を確認しており、今回（2019年度上半期）、以下のエリアについて線量状況を確認した。

線量測定箇所①

1～4号機周辺

(2019.6月 測定)

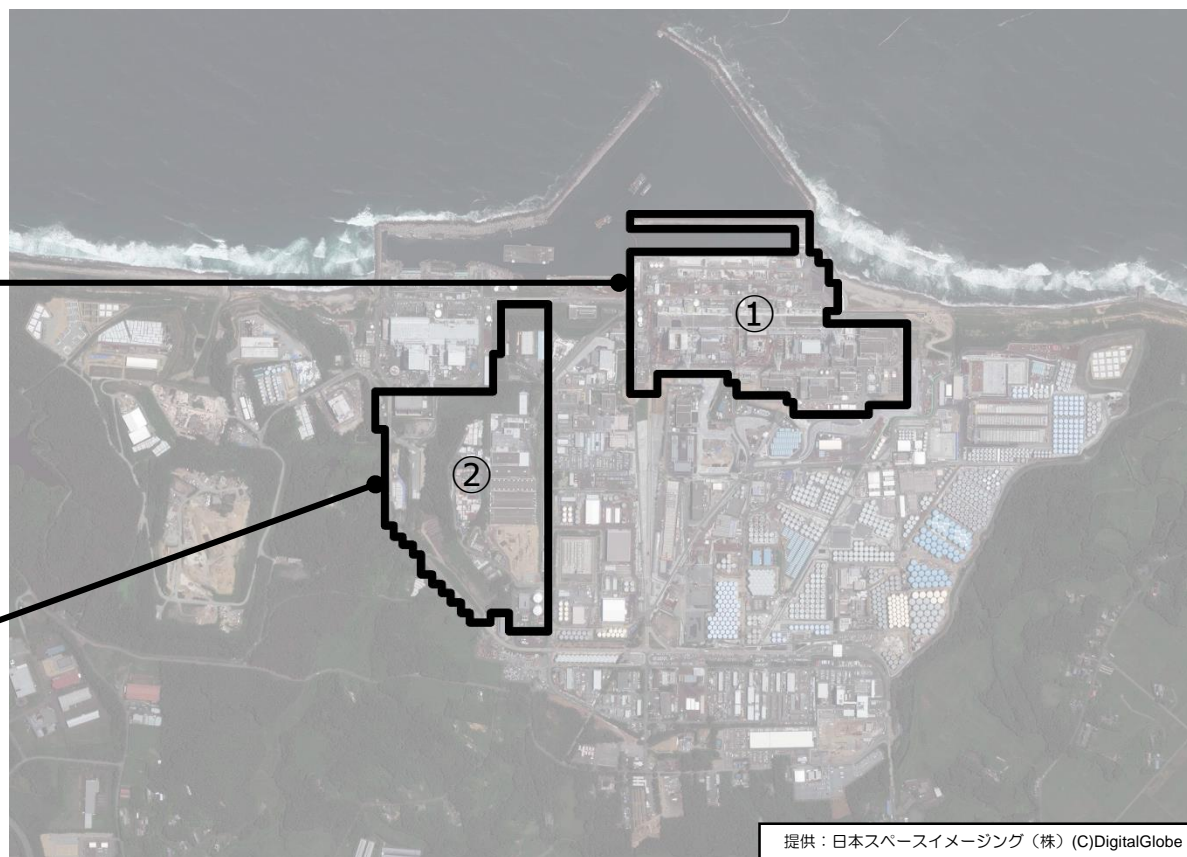
※前回, 2019.2月測定

線量測定箇所②

固体廃棄物貯蔵庫周辺

(2019.5月 測定)

※前回, 2017.10月測定



2. 1～4号機周辺[線量測定箇所①]の線量低減状況及び線量分布

1～4号機周辺の平均線量率は、下表に示す工事等の進捗により2.5m盤及び8.5m盤ともに、前回測定値と同程度の線量率を示している。

■ 平均線量率 < 2.5m盤 >

単位：[μSv/h]

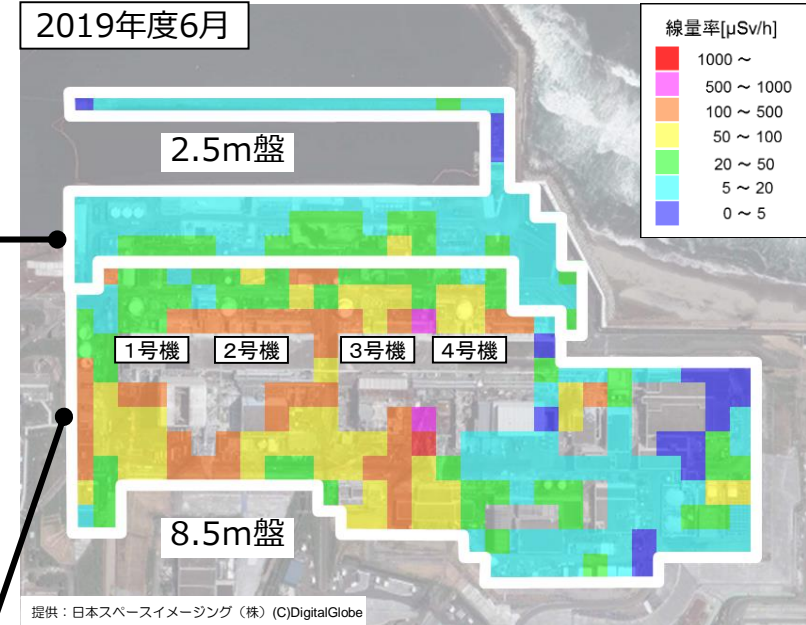
	胸元高さ	地表面 (Jリメト)	線量低減に寄与した 主な工事
2016年度 (2017.2)	27	6.9	
2017年度 (2018.2)	20	4.5	・フェーシング工事(2015年度～)
2018年度 (2019.2)	17	3.6	・循環水ポンプ周辺の瓦礫撤去等 (2015年度～)
2019年度 (2019.6)	16	3.3	・3号機原子炉建屋オペフロ遮へい設置及び 燃料取扱設備の設置(2016年度)

< 8.5m盤 >

単位：[μSv/h]

	胸元高さ	地表面 (Jリメト)	線量低減に寄与した 主な工事
2016年度 (2017.3)	205	97	・1～4号機山側法面の除染、フェーシング (2014年度～2016年度)
2017年度 (2018.2)	140	61	・凍土壁工事や各工事のヤード整備に伴う 瓦礫撤去等(2013年度～)
2018年度 (2019.2)	122	41	・3号機原子炉建屋オペフロ遮へい設置及び 燃料取扱設備の設置(2016年度)
2019年度 (2019.6)	115	37	・3/4号新サービス建屋の解体 (2017年度～2018年度)
			・3号機逆洗弁ピット周辺のフェーシング (2018年度～2019年度)

■ 線量分布 (30mメッシュ：胸元高さ)



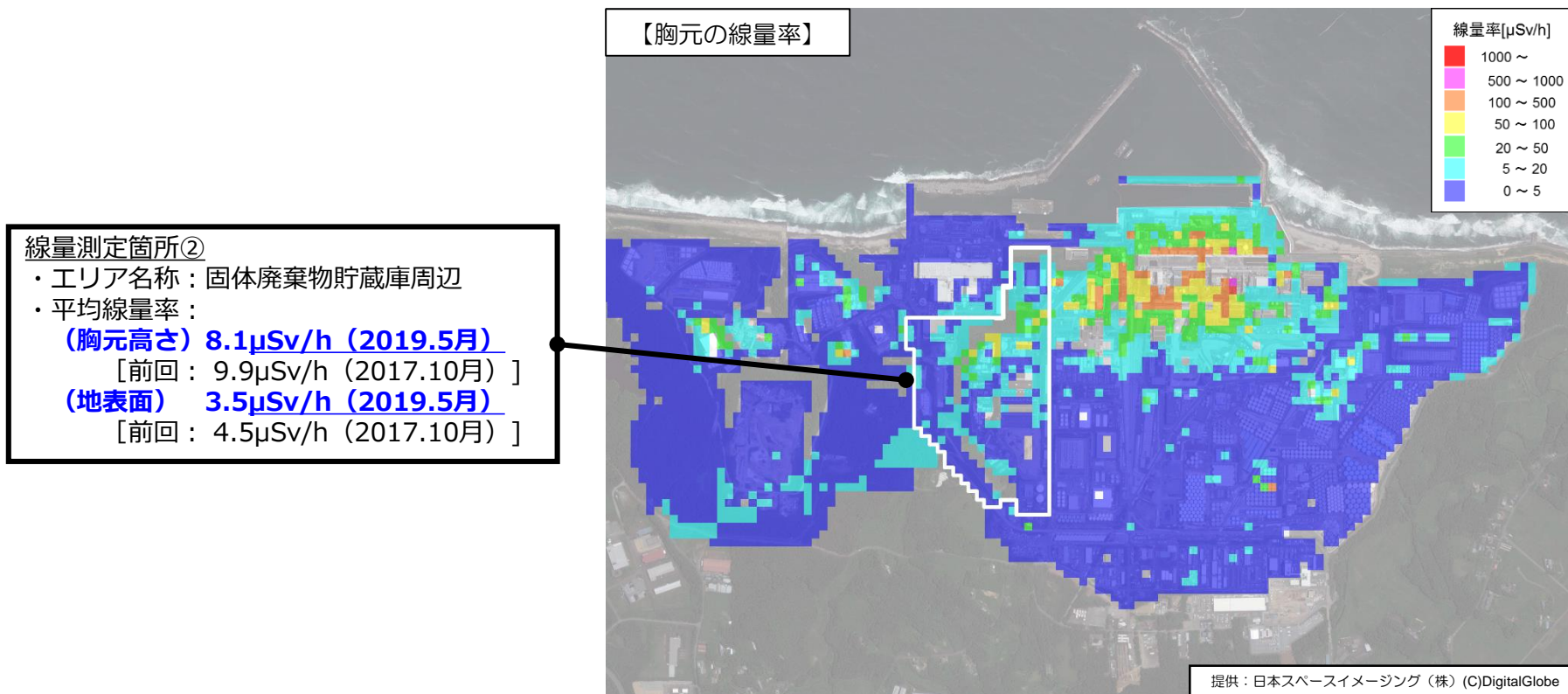
- ※1 胸元高さ：地表から1.5m高さ
- ※2 地表面（Jリメト）：プラントからの散乱線等の影響がある場所について、線量低減効果を確認するため、地表面（地表面から1cm程度）をコリメートして測定。

3. 1～4号機周辺以外（線量測定箇所②）の線量状況及び構内全域の線量分布

- 固体廃棄物貯蔵庫周辺（線量測定箇所②）は、貯蔵庫周辺の木の伐採および移動により、線量率が下がっている。

（胸元高さ：9.9→8.1 μ Sv/h）

2019年9月現在



4. 構内主要道路の線量状況 – 構内主要道路の走行サーベイ結果 –

構内主要道路の線量分布は、年々、低線量側にシフトしている。

<2017年度 第2四半期> (2017.9 測定) → <2018年度 第2四半期> (2018.8 測定) → <2019年度 第2四半期> (2019.8 測定)

